

# 淑徳大学の学位プログラム GUIDE

---

2025年4月 大学教育課程編成委員会

---



# 淑徳大学

共に歩む これまでも これからも



# 「淑徳大学の学位プログラム GUIDE」とは

淑徳大学は、7学部13学科2研究科において、12種類の学士といった学位を与える課程を中心とした考え方から、13の教育プログラムを設計しています。大学が何を教えるかといった視点から、大学で何を学ぶかといった学習者を中心とした視点を定め、教授側と学習側の両者の調和を超えて、本学の特色を活かした教育プログラムを展開していきます。知識基盤社会を迎え、急速なデジタル化の波が押し寄せる、変化もその速度も著しい現代において、他者とともに生きる人材を育成するという、本学の教育目的は普遍的なものです。「共生」の対象は、目の前の人間だけでなく、遠く離れた人間、環境や社会課題に向かう多様な人間であるとともに、時として生きとし生けるものに限らず、AIやロボットといった人間に近い存在まで広がっていくかも知れません。そのような多様な広がりを見せる他者とともに生き、ともに生かしあう姿勢を身に着けることを、本学の教育の場では、時代を超えて継承し続けていきます。

そのためには、建学の精神や教育目的、大学・各学位プログラムにおける三つの方針といった目標を明確に定め、その達成に向けて自己点検・評価を行い、必要に応じて教育プログラムの改善・改革を継続的に行っていかなければなりません。「淑徳大学の学位プログラム GUIDE」は、その一連の流れを明示したものであり、この GUIDE を通じて、教員、職員、学生といった本学の構成員全員が、淑徳大学におけるよりよい教育プログラムとはなにかを考える起点となるとともに、そのプロセスを明示し、学内外に公表することを通じて、本学の教育の質を保証していくことを宣言いたします。

2025年4月

大学教育課程編成委員長 山口 光治

# 目次

「淑徳大学の学位プログラム GUIDE」とは .....	2
目次 .....	3
1.淑徳大学の学位プログラムの定義 .....	8
淑徳大学の主要授業科目 .....	9
◆主要授業科目のカリキュラム上の位置づけ（イメージ図） .....	9
◆主要授業科目の確認ポイント .....	10
教育の内部質保証システム体制 .....	11
◆教育の質保証 .....	11
◆三つの方針・教育課程の点検、変更等の手続き .....	13
◆大学教育課程編成委員会の担当業務 .....	14
2.淑徳大学の建学の精神と教育目的 .....	15
「利他共生」 .....	15
淑徳大学の教育目的 .....	16
3.淑徳大学の三つの方針 .....	16
淑徳大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） .....	16
淑徳大学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） .....	17
淑徳大学の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） .....	19
4.淑徳大学の学位プログラム一覧 .....	20
学士課程 .....	20
研究科 .....	21

<b>5. 全学共通基礎教育科目 (S-BASIC)</b> .....	<b>21</b>
◆履修体系図 (全学共通基礎科目) .....	21
◆履修体系図 (全学共通基礎科目) ※クォーター版 (地域創生学科) .....	23
<b>6. 総合福祉学部</b> .....	<b>24</b>
教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像 .....	24
<b>社会福祉学科</b> .....	<b>24</b>
◆三つの方針 (各学科独自設定箇所) .....	24
◆カリキュラムマップ .....	27
◆履修体系図 (専門科目) .....	30
◆基本型の履修モデル .....	32
<b>教育福祉学科</b> .....	<b>33</b>
◆三つの方針 (各学科独自設定箇所) .....	33
◆カリキュラムマップ .....	35
◆履修体系図 (専門科目) .....	38
◆基本型の履修モデル .....	41
<b>実践心理学科</b> .....	<b>42</b>
◆三つの方針 (各学科独自設定箇所) .....	42
◆カリキュラムマップ .....	44
◆履修体系図 (専門科目) .....	46
◆基本型の履修モデル .....	47
<b>7. コミュニティ政策学部</b> .....	<b>48</b>
教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像 .....	48

コミュニティ政策学科 .....	48
◆三つの方針（各学科独自設定箇所） .....	48
◆カリキュラムマップ .....	50
◆履修体系図（専門科目） .....	52
◆基本型の履修モデル .....	54
8.看護栄養学部 .....	55
教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像 .....	55
看護学科 .....	55
◆三つの方針（各学科独自設定箇所） .....	55
◆カリキュラムマップ .....	57
◆履修体系図（専門科目） .....	59
◆基本型の履修モデル .....	60
栄養学科 .....	61
◆三つの方針（各学科独自設定箇所） .....	61
◆カリキュラムマップ .....	63
◆履修体系図（専門科目） .....	65
◆基本型の履修モデル .....	67
9.教育学部 .....	68
教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像 .....	68
こども教育学科 .....	68
◆三つの方針（各学科独自設定箇所） .....	68
◆カリキュラムマップ .....	70

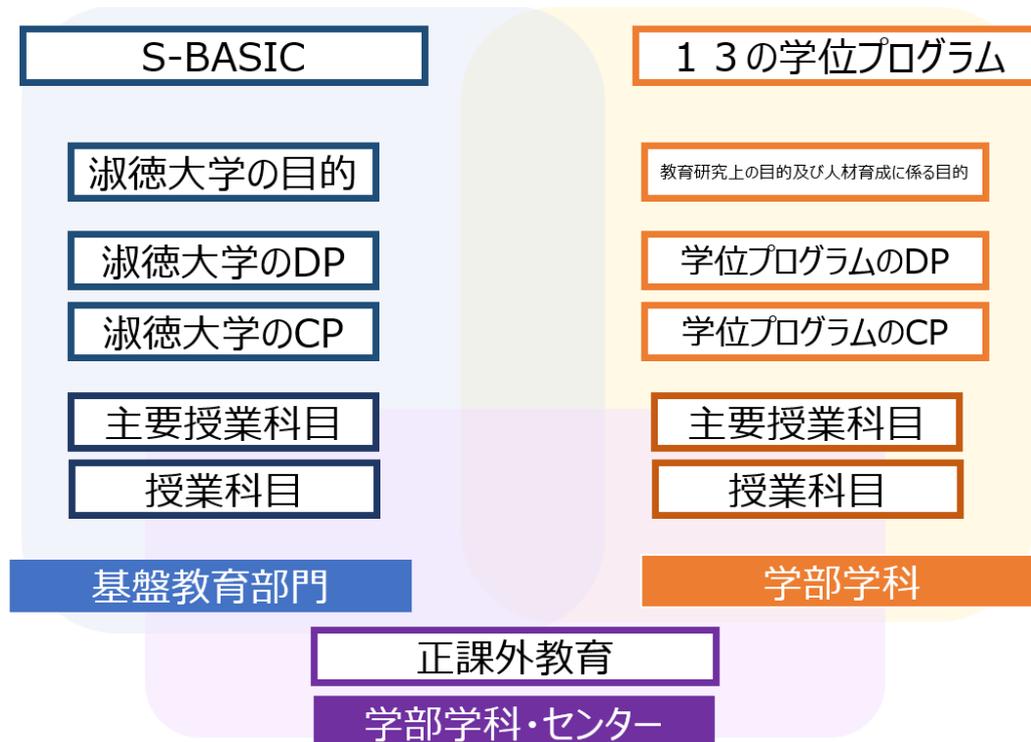
◆履修体系図（専門科目） .....	73
◆基本型の履修モデル.....	74
10.地域創生学部 .....	75
教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像 .....	75
地域創生学科 .....	75
◆三つの方針（各学科独自設定箇所） .....	75
◆カリキュラムマップ.....	77
◆履修体系図（専門科目） .....	79
◆基本型の履修モデル.....	80
11.経営学部.....	81
教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像 .....	81
経営学科.....	81
◆三つの方針（各学科独自設定箇所） .....	81
◆カリキュラムマップ.....	83
◆履修体系図（専門科目） .....	85
◆基本型の履修モデル.....	86
観光経営学科 .....	87
◆三つの方針（各学科独自設定箇所） .....	87
◆カリキュラムマップ.....	89
◆履修体系図（専門科目） .....	91
◆基本型の履修モデル.....	92
12.人文学部.....	93

教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像 .....	93
歴史学科.....	93
◆三つの方針（各学科独自設定箇所） .....	93
◆カリキュラムマップ.....	95
◆履修体系図（専門科目） .....	97
◆基本型の履修モデル.....	99
表現学科.....	100
◆三つの方針（各学科独自設定箇所） .....	100
◆カリキュラムマップ.....	102
◆履修体系図（専門科目） .....	104
◆基本型の履修モデル.....	106
人間科学科 .....	107
◆三つの方針（各学科独自設定箇所） .....	107
◆カリキュラムマップ.....	109
◆履修体系図（専門科目） .....	111
◆基本型の履修モデル.....	113
13. 淑徳大学の正課外プログラム.....	114
淑徳大学地域共生センター ともいき体験 .....	114
ともいき基礎知識講座、ともいき体験プログラムによる「淑徳大学ともいきリーダー」 の養成 .....	エラー! ブックマークが定義されていません。

# 1. 淑徳大学の学位プログラムの定義

「淑徳大学の学位プログラム」とは、本学において展開されている13（7学部、13学科、2研究科）の学位プログラムについて、それぞれの教育目標等とその達成に向けた教育の枠組みを明らかにしたものです。学位プログラムとは、学位を取得させるに当たり、当該学位のレベルと分野に応じて達成すべき能力を明示し、それを修得させるように体系的に設計した教育プログラム<sup>1</sup>、「学生の学修の視点に立った学位を授与する教育課程（プログラム）」を意味します。淑徳大学では、従来の学部・研究科といった教育研究組織を基本としながらも、学位を与える課程として再整理し、淑徳大学の教育目標を達成するために「S-BASIC」という組織横断的な教育の実施体制を実現しています。

淑徳大学では、三つの方針に基づいた13の学位プログラムを編成し、これらを教育の質保証の基本の体制とし、さらなる教育の充実を目指していきます。



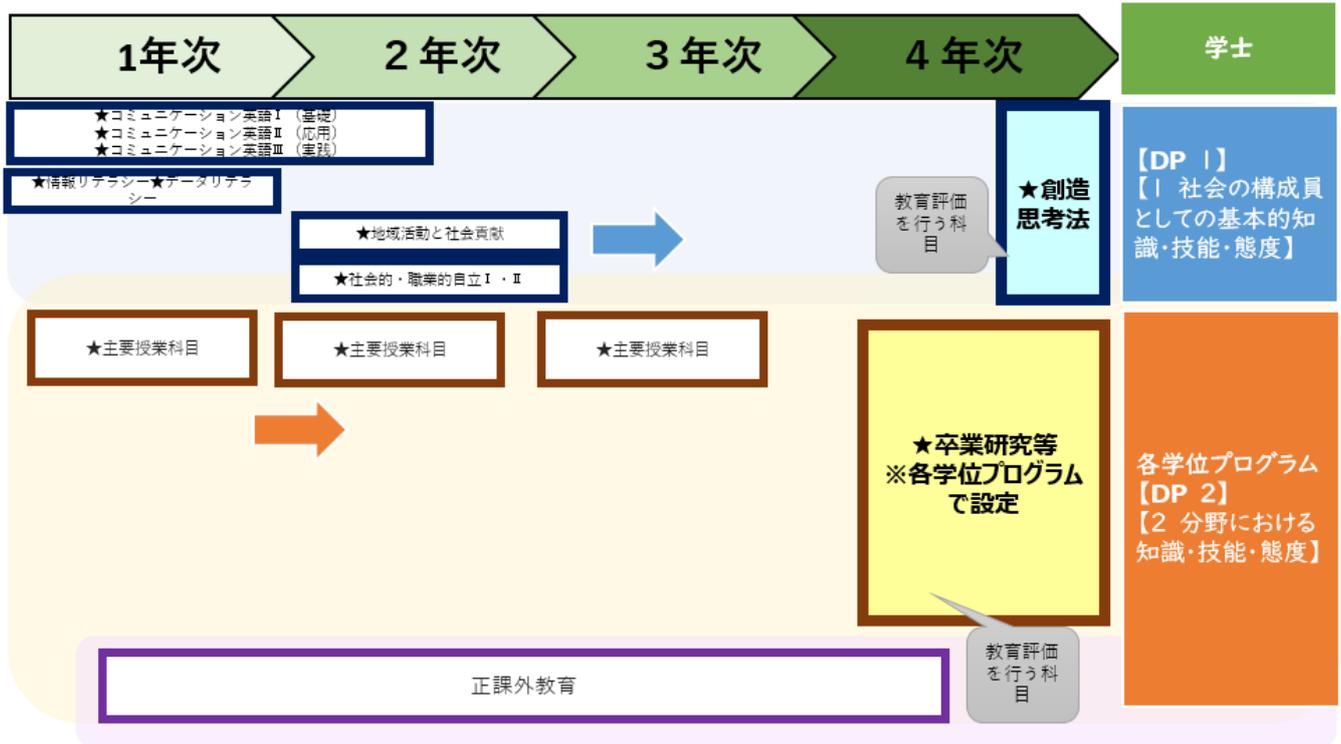
<sup>1</sup> 文部科学省

([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/siryo/attach/1259115.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/siryo/attach/1259115.htm))

# 淑徳大学の主要授業科目

淑徳大学における「主要授業科目」とは、13の学位プログラムに応じ学位取得のために必要となる中核科目のことを指します。学位取得のために必要となる中核科目とは、各学科の教育研究上の目的・人物像及び三つの方針を実現するための科目とします。各学位プログラムのディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを達成し、学位を授与するためのカリキュラムマップ上でも、学習成果を把握する重要な位置づけに置いています。

## ◆主要授業科目のカリキュラム上の位置づけ（イメージ図）



※一部学部では配当年次が異なる場合があります

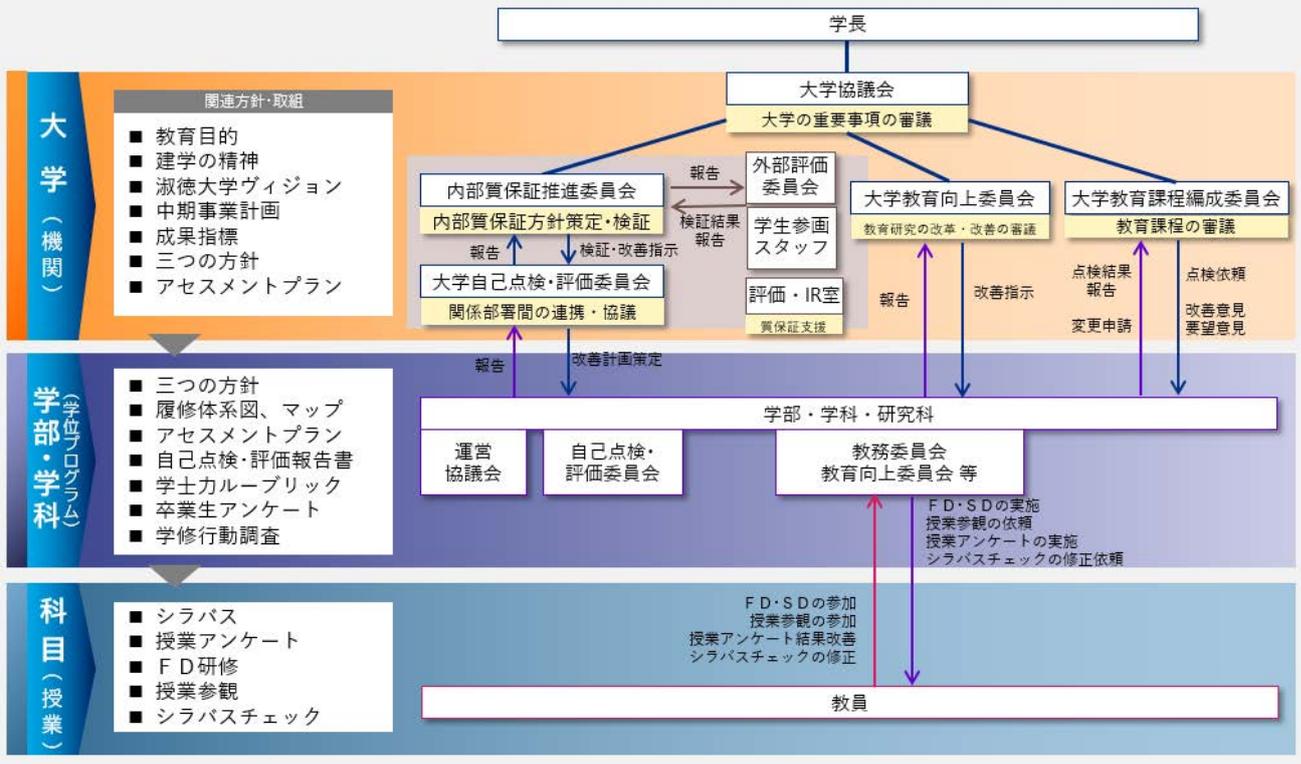


## ◆主要授業科目の確認ポイント

No.	確認項目	「主要授業科目」と設定するための確認ポイント
1	定義	学位取得のために必要となる中核科目とは、各学科の教育研究上の目的・人物像及び三つの方針を実現するための科目とします。特に、ディプロマ・ポリシーと主要授業科目の関連性について、明確な説明が必要です。 (学修成果の把握と評価にも密接に関係してくる科目)
2	科目配置	「主要授業科目」は、基幹教員が担当する科目とします。 (基幹教員は担当科目だけでなく、学科の学位プログラム全体について責任が生じる 科目適合性の観点から、当該科目に十分な業績があること、定期的に業績の点検が行われていること) ただし、No. 2にあるように、複数クラス、複数の科目担当教員が担う場合、科目として基幹教員が主体性と責任を持って適切に授業を行っている科目は「主要授業科目」として設定してよいこととします。 *「主要授業科目」は、原則基幹教員が担当することとなっている(大学設置基準第八条(授業科目の担当))
3	科目配置	「主要授業科目」は、科目担当教員が退職した場合も、基幹的な科目として継続性がある科目とします。 (大学都合で頻繁に変更になる科目ではない、科目適合性の観点から基幹教員が継続して担当できる科目) *「主要授業科目」は、学位を取得させるに当たり達成すべき能力を育成するために必要な科目群(文科省定義)
4	科目配置	「主要授業科目」は、原則として多くの学生が履修し、毎年度開講している科目とします。 (6名未満の開講科目ではない、必修科目の重複時限の配置等時間割上の課題がない) *「主要授業科目」は、学位を取得させるに当たり達成すべき能力を育成するために必要な科目群(文科省定義)
5	科目配置	免許や資格取得を目指す一部の学生が履修する科目は、「主要授業科目」とはなりません。 (ただし、ディプロマポリシーに免許資格に関すること、具体的な免許資格の専門性、専門職と位置づけて設定している学科を除く) *「主要授業科目」は、学位を取得させるに当たり達成すべき能力を育成するために必要な科目群(文科省定義)
6	シラバス	「主要授業科目」において、複数クラス、複数の科目担当教員が担う場合、同一科目としてシラバスの内容を統一します。 <b>同様の「ディプロマポリシーとの関連性」に対し、「到達目標」「評価方法」「評価基準」の項目は、同一科目として必ず統一することとし、それ以外の項目については、科目担当者が責任をもって適切に設定することとします。</b>
7	シラバス (情報公開)	「主要授業科目」のシラバス「ディプロマポリシーとの関連性」項目には、下記のように明示します。 (シラバス登録時にシラバス担当職員が一括入力するため、主要授業科目とそれ以外の科目のシラバス内容は原則として相違はなし) ・該当箇所:ディプロマポリシーとの関連性 ・記入内容:この科目は○○学科の主要授業科目です。
8	情報公開	「主要授業科目」は、原則としてその学位を授与する全ての「履修モデル」に入れてください。かつ、「カリキュラム表」「履修モデル」「履修体系図」「カリキュラムマップ」に分かるように明示して公表します。 *いずれの授業科目が主要授業科目に当たるかについては、基幹教員の要件にも関わるものであり、基幹教員を含む教員全体に係る情報の公表は法令上も求められていることから、シラバス等、学内外から確認できるような形で明記・公表することが望ましい(文科省 Q&A <a href="https://www.mext.go.jp/mext_02034.html#q15">https://www.mext.go.jp/mext_02034.html#q15</a> )
9	S-BASIC	全学共通基礎教育科目(S-BASIC)における「主要授業科目」は、基幹教員が各授業時間の指導計画を明確にし、授業の実施状況を十分に把握して、成績評価を行うよう、基幹教員が主体性と責任を持って適切に授業を行えるようにしている科目とします。 *文科省「大学が請負契約等を締結した者を活用して授業を実施する場合の留意点について(周知)(令和3年4月8日事務連絡)」 <a href="https://www.mext.go.jp/content/20240801-mxt_daigakuc02-000037448_32.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20240801-mxt_daigakuc02-000037448_32.pdf</a>
10	S-BASIC	全学共通基礎教育科目(S-BASIC)における「主要授業科目」は、以下の科目とします。 「コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)」「コミュニケーション英語Ⅱ(応用)」「コミュニケーション英語Ⅲ(実践)」「情報リテラシー」「データリテラシー」「地域活動と社会貢献」「社会的・職業的自立Ⅰ」「社会的・職業的自立Ⅱ」「創造思考法」

# 教育の内部質保証システム体制

教育の内部質保証システム体系図



## ◆教育の質保証

淑徳大学における教育の質保証は、「大学（機関レベル）」「学部・学科（学位プログラムレベル）」「科目（授業レベル）」の3層に関連する組織や委員会が中心となり、様々な取組によって、全学的に教育の改善・向上につなげる体制になっています。

教育課程に関する全学的な審議機関として大学教育課程編成委員会が置かれ、この委員会は、各学部研究科等の教育課程に関する事項について取り扱い、教育改善の全学的な支援を行う委員会となっています。各学部研究科では、各種アセスメント結果を振り返り、毎年度教育課程の点検を行います。点検の結果は大学教育課程編成委員会へ報告され、教育課程の変更がある場合は申請の手続きとなり、委員会の審議結果として、改善意見や要望意見等を伝えます。このように大学教育課程編成委員会は、各学位プログラムの教育課程の審議を行い、全学的な教育の質保証を担う組織となっています。また、教育

---

研究、社会貢献活動の向上を支援する組織として、大学教育向上委員会が置かれており、「学部・学科（学位プログラム）」の委員会と連携しながら、3層の階層を往来して教育研究活動の組織的な質の向上に努めています。

教育研究活動を含む、10の大学基準に則り、「学部・学科（学位プログラム）」の自己点検・評価が行われ、その結果は学部・研究科の自己点検・評価委員会にまとめられ、大学自己点検・評価委員会が全学的な協議、取りまとめを行います。その点検結果が、内部質保証推進委員会に報告され、学長（内部質保証推進委員長）の改善指示がなされる仕組みとなっています。

◆三つの方針・教育課程の点検、変更等の手続き

時期	事項（調査・点検等）	取組主体
5 月度	<b>「三つの方針」の点検について（依頼）</b> 大学教育課程編成委員会 ・DP：卒業認定・学位授与の方針 ・CP：教育課程編成・実施の方針 大学募集・入試委員会 ・AP：入学者受入れの方針	内部質保証推進委員会 大学委員会 各学位プログラム
6 月度	<b>各種アセスメント結果の振り返り</b> 学修行動等に関する調査 新入生調査 卒業時調査 卒業 1 年後調査 その他（国家試験等合格状況、内定・就職率調査等）	高等教育研究開発センター 評価・IR 室 各学位プログラム
7 月度	<b>「三つの方針」の点検結果（報告）</b>  <b>教育課程の点検について（依頼）</b> ・教育課程点検シート	内部質保証推進委員会 大学教育課程編成委員会
9 月度	<b>教育課程の点検結果（報告）</b> <b>教育課程の変更申請（9 月末）</b> ※該当がある場合のみ	大学教育課程編成委員会
～11 月度	教育課程変更の審議  12 月度 学則変更対応 2 月度 理事会付議	大学教育課程編成委員会 大学協議会

◆大学教育課程編成委員会の担当業務

開催時期	事項（調査・点検等）
2 月度	次年度 主要授業科目担当者の決定
3 月度	<p><b>教育課程の点検結果（報告）</b>            点検結果を受けた課題に対する改善方策の検討            それらをふまえ、</p> <p><b>次年度 教育課程編成にかかる方針公表</b>            （教育課程の点検方針、項目、「教育課程点検シート」の見直しを含める）</p>
4 月度	<b>今年度「学位プログラム GUIDE」公表</b>
6 月度	基幹教員一覧他教育情報の公表
7 月度	<p>「三つの方針」の点検結果（報告）を受けて、</p> <p><b>教育課程の点検について（依頼）</b> 「教育課程点検シート」にて点検を依頼（編成チームにより学部教授会にて審議）</p>
9 月度	<p><b>教育課程の点検結果（報告）</b>            点検結果を受けた課題の抽出</p> <p><b>教育課程の変更申請（9 月末）</b>            該当がある場合、以下 7 点の申請書類一式の取りまとめ・審議</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教育課程点検シート（教育課程の点検を行ったもの）</li> <li>② 教育課程の編成概要（教育課程編成の趣旨、必要性及び変更理由、適切な教員配置）</li> <li>③ 学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び教育課程の新旧比較対照表</li> <li>④ 履修体系図（専門教育科目、基礎教育科目の学習・到達目標と体系性が明確なもの）</li> <li>⑤ 履修モデル（主要授業科目、卒業要件単位数のものを必須とし、養成する具体的な人材像に対応したもの）</li> <li>⑥ カリキュラムマップ（学位授与方針との関連性を示したもの）</li> </ol> <p>上記③～⑥は学位プログラムの関連資料とする</p>

	⑦ 意見への対応状況（過去の審議結果で通知された学部、研究科への意見がある場合）
～11 月度	<b>教育課程変更の審議</b> （12 月度 学則変更対応・2 月度 理事会付議） <b>教育課程の点検結果を受けた教育改善の支援</b>
2 月度	次年度 主要授業科目担当者の決定
3 月度	<b>教育課程の点検結果（報告）</b> 点検結果を受けた課題に対する改善方策の検討 それらをふまえ、 <b>次年度 教育課程編成にかかる方針公表</b> （教育課程の点検方針、項目、「教育課程点検シート」の見直しを含める）
4 月度	<b>今年度「学位プログラム GUIDE」公表</b>

## 2. 淑徳大学の建学の精神と教育目的

### 「利他共生」

淑徳大学および淑徳大学大学院の理念は、建学の精神である「利他共生」<sup>2</sup>に代表されます。これは、「他者に生かされ、他者を生かし、共に生きる」という意味であり、大乘仏教の精神に基づいて設定された理念です。大乘仏教では、出家し厳しい修行をした人だけではなく、どんな人も信仰があれば大きな乗り物に乗るように救われると考え、そのために自らの人格の完成のために修行し努力すること、他者を生かすために自分が尽くすことを共に行う「自利利他」を理想としています。

<sup>2</sup> 淑徳大学 建学の精神 (<https://www.shukutoku.ac.jp/university/about/spirit.html>)

---

## 淑徳大学の教育目的

### ◆淑徳大学学則第 1 節（目的）

淑徳大学（以下「本学」という。）は、大乘仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の育成を目的とする。

### ◆淑徳大学大学院学則第 1 節（目的）

第 1 条 淑徳大学大学院（以下「本大学院」という。）は、本学建学の理念にのっとり、深奥なる学術の理論及び応用を研究教授し、また研究能力を養い、もって人類の文化と福祉の増進に貢献することを目的とする。

## 3. 淑徳大学の三つの方針<sup>3</sup>

### 淑徳大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学は、大乘仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

#### 【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

#### 【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

---

<sup>3</sup> 各学科が独自で設定する三つの方針（各学科独自設定箇所）については、6章以降の学科の三つの方針に記載。

## 淑徳大学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技能・態度を修得するために、以下のよう、学位プログラムごとに教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から、教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定める。

社会の構成員として求められる基礎的な知識・技能・態度を、全学共通の基礎教育科目として配置するとともに、学位プログラムごとに専門教育科目を体系的に編成し、講義・演習・実習等を適切に組み合わせた授業科目を開講する。

### 【1 教育内容】

(1) 社会の構成員として、これからの社会を生き抜くために求められる基本的な力を「基本的知識・技能・態度」として修得するために、以下の編成からなる「全学共通の基礎教育科目」を置く。

① 大学での学びの目的、そして本学で学ぶ意義を理解する観点から、「基礎教育科目」の中に「初年次セミナー（学習の目的と技術）」と「利他共生（本学で学ぶことの意義）」を初年次の必修科目として置き、「学習力の養成」を図る。

② 「情報リテラシー」及び「データリテラシー」を通じて「思考力の養成」を図り、主体的に問題を発見し、その解決に必要な情報収集や分析・整理の能力を育成するとともに、獲得してきた知識・技能・態度などを総合的に活用する実践的な能力の養成に努める。

③ 社会の構成員としての「表現力の養成」のために、「コミュニケーション英語」および「表現技法」を配置する。コミュニケーション英語は基本的な英語の運用能力の獲得を目指す。また表現技法は日本語コミュニケーションの運用能力を身に付け、発表・討論、プレゼンテーション等の多角的な能力の養成を目指す。

④ 社会の構成員としての「人間力の養成」と「社会力の養成」について、社会性の涵養と将来への目的意識の醸成を目的に、「自己管理と社会規範」、「チームワークとリーダーシップ」、「地域活動と社会貢献」、「他者理解と信頼関係」、さらに「社会的・職業的自立」を配置する。⑤ 社会人としての幅広い知識を獲得するために、「人間の理解」「社会の理解」「国際的理解」の科目を置く。

(2) 学位プログラムの専門教育分野における知識・技能・態度の修得のため、以下の科目構成からなる「専門教育科目」を置く。

① 学位プログラムとしての専門教育分野への導入・基礎に係る科目、基幹・展開に係る科目、そして関連する科目を、講義科目や演習科目として体系的に配置する。

② 専門教育分野における学習成果を実社会で実践するとともに、臨床的応用的な力量を高めるために、実習、調査、体験、フィールドワーク等に係る科目を置く。

③ 学位プログラムに関連する免許・資格等に係る科目を置く。

④ 専門教育分野での学習を総合化するとともに、学生の学習成果を把握するために、学位プログラムごとに、卒業研究等の科目を置く。

(3) 各科目区分の中核となり、教育研究上の目的・人物像及び三つの方針を実現するために軸となる科目として「主要授業科目」を設定する。

### 【2 教育方法】

(1) 「基礎教育科目」では、4年間を通じて、社会の構成員として求められる幅広い知識、技能、態度を身に付ける科目配置を行い、学習活動の活性化のためにグループワーク、フィールドワーク、実験等の教育手法を積極的に導入する。英語教育では習熟度別クラス編成を実施する。

(2)「専門教育科目」では、講義科目はアクティブラーニングの活用を容易にするために履修者サイズの少人数化に努める。また、少人数クラスによる様々な演習・実習科目あるいはフィールドワーク科目等を採用し、臨床的応用的な「主体的学びの場」を用意する。

(3)授業科目ごとのシラバス(授業計画)には、卒業認定・学位授与の方針に基づいた、学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業の方法等を明示するとともに、単位制度の実質化の観点から授業外学修の課題の提示やその取り扱い等を具体的に記載する。

(4)「主要授業科目」を軸とした学位取得のための学位プログラムに加え、学生のキャリア形成に支援することを目的に、正課外授業との連携を含む各種の履修モデルを示す。これにより、免許・資格の取得を支援する。

(5)学生の主体的な学びを促進するため、参加型授業やフィールドワーク、授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。

(6)学生の学習活動の活性化、並びに個別授業科目の到達目標との関連から効果的な学習活動として、「遠隔授業」の形態を採用することがある。

### 【3 教育評価】

教育活動・学修活動の成果について、以下の諸点から評価し、それらを分析・考察することによって改善に資する。

(1)学生対象の授業評価アンケート及び学修行動等調査を実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかを含め、改善すべき課題の把握との検証を行う。これは、学修成果を間接的に把握するとともに、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(2)学生の事後学修レポートによる授業ごとの到達確認、さらに学期末の最終到達確認に基づく厳格な成績評価を検証するとともに、全体としてGPA(科目の成績評価)制度を用いて学修成果を把握する。

(3)学士カールブリック(学修成果を測るための評価基準表)を用いて、学生自身が学期末において自己の学修成果のリフレクション(振り返り)を行う。

(4)学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「卒業研究等」で確認を行う。

## 淑徳大学の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、卒業認定・学位授与の方針及び教育課程の編成・実施方針との関連性を踏まえて、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定める。

### 【1 求める学生像】

- (1) 中等教育段階での学習内容を十分に理解・習熟できている。
- (2) 本学の教育方針及び教育分野に興味と関心を持ち、本学での学修に明確な目的と意欲を有している。
- (3) 本学での学修により、学位プログラムを終了し卒業認定と学位授与が見込まれる資質・能力を、中等教育段階での学習活動等からうかがわれる。
- (4) 自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に進んで取り組むことができる。

### 【2 入学者選抜の方法】

入学者選抜については、次の方法を単独もしくは複数の組み合わせにより行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

### 【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

中等教育段階での学習・教育と高等教育における学習と教育との円滑な移行を目的に、大学全体として、また学位プログラムごとに入学前教育並びに入学直後の修学基礎教育を行う。

- (1) 中高教育段階での学習を高等学校での学習活動に円滑に結びつけるために、中等教育における科目学習における基礎的な知識の修得及び学習意欲の保持のために学習活動を用意する。
- (2) 入学前教育においては、基礎的な ICT スキルを保持する事が望まれる。
- (3) 自ら課題を発見し、探究を深め、その内容を表現できること。

## 4. 淑徳大学の学位プログラム一覧

### 学士課程

学部	学科	コース等	学位(種類)	学位プログラム名
総合福祉学部	社会福祉学科	社会福祉コース 福祉教職コース	学士(社会福祉学)	社会福祉学
	教育福祉学科	学校教育コース 健康教育コース	学士(教育福祉学)	教育福祉学
	実践心理学科		学士(心理学)	心理学
コミュニティ政策学部	コミュニティ政策学科		学士(コミュニティ政策学)	コミュニティ政策学
看護栄養学部	看護学科		学士(看護学)	看護学
	栄養学科		学士(栄養学)	栄養学
教育学部	こども教育学科	初等教育コース 幼児教育コース	学士(教育学)	教育学
地域創生学部	地域創生学科		学士 (地域創生学)	地域創生学
経営学部	経営学科		学士(経営学)	経営学
	観光経営学科		学士(観光経営学)	観光経営学
人文学部	歴史学科	歴史資源コース 歴史教育コース 歴史探求コース	学士(文学)	歴史学
	表現学科	文芸表現コース 編集表現コース 放送表現コース	学士(文学)	文学
	人間科学科		学士(人間科学)	人間科学
計 7学部	計 13 学科		計 12	計 13

# 研究科

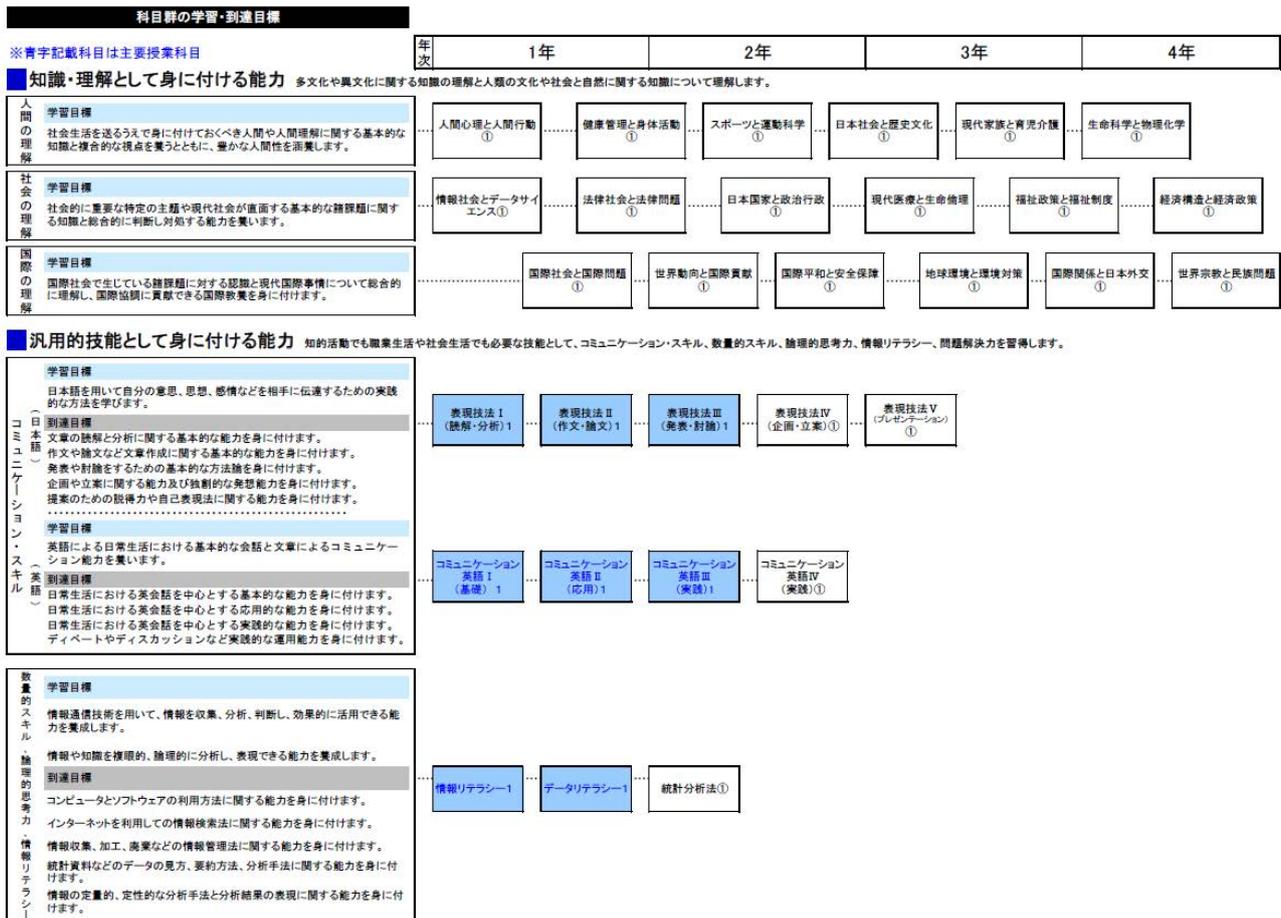
学部	学科	コース等	学位(種類)	学位プログラム
総合福祉研究科	社会福祉学専攻 (博士前期課程)	—	修士(社会福祉学)	修士(社会福祉学)
	社会福祉学専攻 (博士後期課程)	—	博士(社会福祉学)	博士(社会福祉学)
	心理学専攻 (修士課程)	—	修士(心理学)	修士(心理学)
看護学研究科	看護学専攻 (修士課程)	—	修士(看護学)	修士(看護学)
計 2研究科	計 4専攻		計 4	計 4

## 5. 全学共通基礎教育科目 (S-BASIC)

### ◆履修体系図 (全学共通基礎科目)

#### ※主要授業科目 (青字)

#### ■淑徳大学 基礎教育科目 体系図



問題解決力	学習目標 問題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析、整理し、その問題を解決できる能力を養成します。
	到達目標 問題の発見方法と課題や対策の設定方法に関する能力を身に付けます。

問題解決法1

**態度・志向性として身に付ける能力** 社会人として求められる態度や志向性として、自己管理能力、倫理観、チームワーク、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を習得します。

自己管理能力・倫理観	学習目標 自らを律して行動でき、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動することができる態度を養成します。
	到達目標 善悪をわきまえて、自発的に正しい行為へと促すための内面的な規範姿勢を身に付けます。 人として守り行うべき道や正邪の判断において規準となる道徳感やモラルを身に付けます。

自己管理と社会規範1

チームワーク・リーダーシップ	学習目標 他者と協調・協働して行動できる、また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる態度を養成します。
	到達目標 多くの人々をまとめて率いて、目的や方向に向かって教え導く能力を身に付けます。 物事に進んで取り組むことができ、自ら目的を設定し、確実に行動することができる能力を身に付けます。

チームワークとリーダーシップ1

他者理解と信頼関係1

市民としての社会的責任	学習目標 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる態度を養成します。
	到達目標 社会貢献の基本的意義と地域活動の社会的役割について理解し、社会貢献への参画意識を身に付けます。 指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む姿勢を身に付けます。

地域活動と社会貢献1

生涯学習力	学習目標 職業観を有し、卒業後も自律・自立して学習できる態度を養成します。
	到達目標 将来への目的意識や自ら設定した目標に対して、それを行動に移し、粘り強く取り組む姿勢を身に付けます。

初年次セミナー(学習の目的と技術)1

利他共生1

社会的・職業的自立I 1

社会的・職業的自立II 1

**統合的な学習経験と創造的思考力として身に付ける能力** これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を養成します。

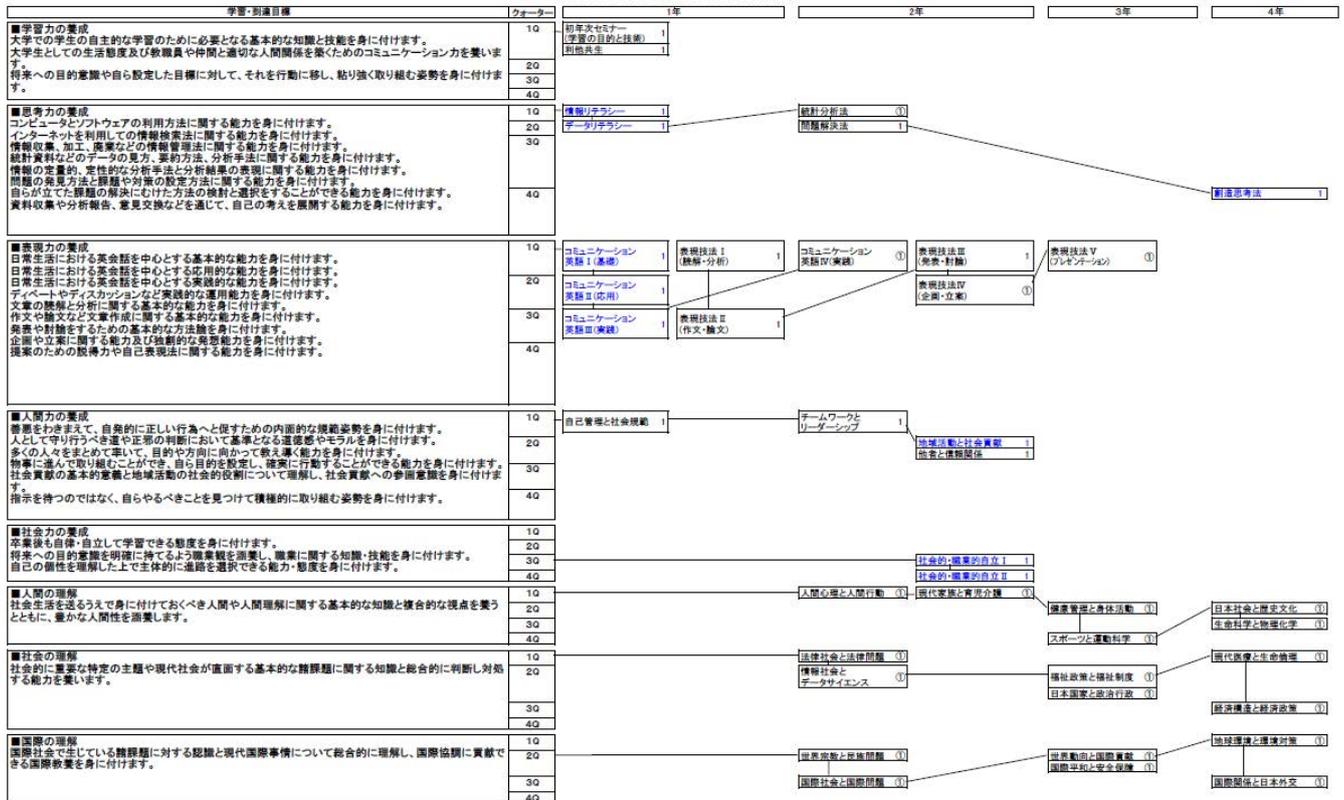
創造的思考力	学習目標 これまでに獲得した知識・技能・態度等を活用し、課題を解決する能力を養成します。
	到達目標 自らが立てた課題の解決にむいた方法の検討と選択をすることができる能力を身に付けます。 資料収集や分析報告、意見交換などを通じて、自己の考えを展開する能力を身に付けます。

創造的思考法1

※表中の数字は単位数を示します。1は必修科目、2は選択科目です。

# ◆履修体系図（全学共通基礎科目）※クォーター版（地域創生学科）

地域創生学部 履修体系図【基礎教育科目】※専攻別履修科目は3年次履修科目



## 6.総合福祉学部

### 教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像

#### ◆淑徳大学教育に関する規則(教育の基本方針)第2条

##### (1) 総合福祉学部

###### ア 教育目的

社会福祉を支えるさまざまな学問分野における基礎的知識と技術を修得した上で、それらを総合的に理解し、実践的に応用し活用できる能力を身に付ける。

###### イ 人材像

地域社会の諸活動をはじめ経済社会全体が抱える諸課題の解明と解決に主体的かつ積極的に関わり、共生社会の実現に取り組む人材

### 社会福祉学科

#### ◆三つの方針（各学科独自設定箇所）

##### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び社会福祉学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

##### 【2 社会福祉学分野における知識・技能・態度】

社会福祉学に関する価値、倫理、理論、方法を体系的に理解しそこから培われる福祉マインドを持って、さまざまな実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。

(1) 社会福祉学やソーシャルワークに関する基本的かつ体系的な知識を身に付けている。

(2) 専門職(社会福祉士や小学校教諭等)に足る知識や技術、福祉マインドを持って、社会福祉や教育をはじめ幅広い分野で活躍する意欲と能力を身に付けている。

##### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

社会福祉学科では、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

##### 【1 教育課程の編成・教育内容】

(2) 社会福祉の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技能を実践に応用しうる知識・技能・態度の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「基礎科目」及び「基幹科目」では、社会福祉やソーシャルワークの基本となる理念や知識・技能を教育内容とする。

②「展開科目」及び「関連科目」では、基礎知識・技能の修得に基づく高い専門的知識・技能の修得及び社会福祉・教育領域に接するあるいは補完する関連諸分野の知識・技能を教育内容とする。

③「演習科目」及び「実験・実習科目」では、社会福祉・教育領域に対する深い理解とともに、実践の場でそれを相互に関連付けて活用できる能力の育成を教育内容とする。

④免許・資格取得に係る科目は、適宜、必要に応じて上記科目内に配置する。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

## 【2 教育方法】

≪大学の方針に準ずる≫

## 【3 教育評価】

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「社会福祉実践演習Ⅱ」で確認を行う。

学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

(6) 専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

社会福祉学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

### 【1 求める学生像】

(1) 高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有し、課題を解くことができる。

(2) 社会福祉あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かす意欲を有している。

(3) 本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがわれる。

(4) 社会福祉の専門職等の資格取得に向け、高い意欲と継続的な努力ができる態度を有している。

(5) 自分の考えを、口頭や文章等で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に進んで取り組むことができる。

### 【2 入学者選抜の方法】

社会福祉学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

(1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査

(2) 高等学校での履修科目に対する学力検査

(3) 小論文

(4) 面接

(5) プレゼンテーション

(6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

---

【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

社会福祉学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- (1) 「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付ける学習
- (2) 幅広い分野に興味・関心を持ち、また高い学習への意欲の持続

## ◆カリキュラムマップ

### カリキュラムマップ 社会福祉学科科目

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<社会福祉学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び社会福祉学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【2 社会福祉学分野における知識・技能・態度】

社会福祉学に関する価値、倫理、理論、方法を体系的に理解しそこから培われる福祉マインドを持って、さまざまな実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。

- (1) 社会福祉学やソーシャルワークに関する基本的かつ体系的な知識を身に付けている。
- (2) 専門職(社会福祉士や小学校教諭等)に足る知識や技術、福祉マインドを持って、社会福祉や教育をはじめ幅広い分野で活躍する意欲と能力を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2		主要授業科目			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	1	2	3	4	5	1	2				
基礎能力	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前	1	講義・演習	●																		
	利他共生	1前	1	講義	●																		
思考力の養成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●																		★
	データリテラシー	1後	1	講義・演習		●																	★
	統計分析法	2前	1	講義・演習			○																
	問題解決法	3後	1	講義・演習						●													
	創造思考法	4後	1	講義・演習								●											
表現力の養成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●																		★
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●																	★
	コミュニケーション英語Ⅲ(実証)	2前	1	講義・演習			●																★
	コミュニケーション英語Ⅳ(実証)	2後	1	講義・演習				○															★
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●																		
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●																	
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●																
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1	講義・演習				○															
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3前	1	講義・演習					○														
	自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW	●																		
チームワークとリーダーシップ	1後	1	講義・演習		●																		
地域活動と社会規範	2前	1	講義・FW			●																★	
他者理解と信頼関係	2後	1	講義・演習				●																
専攻社会の発展	社会的・職業的自立Ⅰ	2前	1	講義・FW			●																★
	社会的・職業的自立Ⅱ	2後	1	講義・演習				●															★
人間	人間心理と人間行動	1前~	1	講義・演習			○		○		○												
	現代家族と育児介護	1前~	1	講義		○		○		○		○											

目		一、の理解		◎																	
基礎科目	健康増進と身体活動	1前~	1	講義・実技	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	スポーツと運動科学	1前~	1	講義・演習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	日本社会と歴史文化	1前~	1	講義・FW	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	生命科学と物理化学	1前~	1	講義・実験	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	社会の理解	情報社会とデータサイエンス	1前~	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		法律社会と法律問題	1前~	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		福祉政策と福祉制度	1前~	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		日本国家と政治行政	1前~	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		経済構造と経済政策	1前~	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	国際的理解	現代医療と生命倫理	1前~	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		国際社会と国際問題	1前~	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		世界宗教と民族問題	1前~	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		世界動向と国際貢献	1前~	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		国際平和と安全保障	1前~	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	基礎科目	国際関係と日本外交	1前~	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		地球環境と環境対策	1前~	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		現代社会と福祉	1前	4	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		相談援助の基盤と専門職 I	1前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		相談援助の基盤と専門職 II	1後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	基礎科目	相談援助の理論と方法 I	2前	4	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
相談援助の理論と方法 II		2後	4	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
医学概論		1-2-3-4前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
生活問題論		1前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
心理学概論		1後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
社会学概論		1-2後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
社会調査の基礎		2-3-4後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
地域福祉の理論と方法		2-3-4前	4	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
社会保険		2-3-4前	4	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度		2-3後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
社会福祉分野	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2-3後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	高齢者に対する支援と介護保険制度	2-3前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	貧困に対する支援	2-3後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	福祉サービスの組織と経営	3-4前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	保健医療サービス	2-3-4後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	権利擁護と成年後見制度	3-4前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	更生保護制度	3-4後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	精神保健福祉制度論	3-4前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	精神保健福祉の原理	2-3後	4	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	精神障害リハビリテーション論	3-4前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	3-4前	4	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	精神医学	3-4前	4	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	精神保健学	3-4後	4	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	ジェンダー福祉論	2-3前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	社会福祉の歴史	2-3後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	仏教福祉論	2-3-4前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	スクールソーシャルワーク論	3-4前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	共生援助論	3-4後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	社会福祉実践演習 I	3後	2	演習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	社会福祉実践演習 II	4前	2	演習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
福祉レクリエーションの理論と方法	1-2-3-4前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
ユニバーサルキャンパの方法	1-2-3-4前	2	実験・実習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
福祉デザインの基礎	1後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
福祉デザイン実践演習	2前	2	演習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
福祉デザイン実践演習 I	2後	2	実験・実習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
福祉デザイン実践演習 II	3前	3	実験・実習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
展開科目	ボランティア・市民活動論	1-2前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	社会資源論	4後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	生活支援論	2-3後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	社会開発論	4前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	障害者スポーツ論	3-4後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	国語(書写を含む。)	2-3前	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	社会	3-4前	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	算数	2-3後	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	理科	3-4前	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	生活	1-2後	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	音楽	2-3前	1	演習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	図画工作	2-3前	1	演習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	家庭	3-4前	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	体育	1-2後	1	演習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	英語	4前	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	初等国語科教育法	2-3後	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	初等社会科教育法	3-4後	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	初等算数科教育法	3-4後	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	初等理科教育法	3-4後	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	初等生活科教育法	3-4後	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
初等音楽科教育法	3-4前	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
初等図画工作科教育法	3-4前	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
初等家庭科教育法	3-4後	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
初等体育科教育法	2-3前	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
初等英語科教育法	4後	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
教職概論	1前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
教育原理	1後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
教育心理学	1-2後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
発達心理学	1-2後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
特別支援教育の理解と方法	2-3前	1	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
教育行政学	3-4後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
教育課程論	3-4前	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
道徳の指導法	3-4後	2	講義	◎	◎	◎	◎	◎	◎</												

科目目	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	3・4後	2	演習						○		○							◎	◎
	精神保健福祉援助実習	3・4後	5	実験・実習						○		○							◎	◎
	スクールソーシャルワーク実習指導	3・4前	2	演習					○										◎	◎
	スクールソーシャルワーク実習	3・4前	2	実験・実習					○			○							◎	◎
	初等教育実習事前事後指導	3後	1	演習							○									◎
	初等教育実習	4前	4	実験・実習								○								◎
	関連科目目	児童心理学	2・3・4前	2	講義			○		○		○								◎
		福祉政策論	3・4前	2	講義					○		○								◎
		教育学概論	1前	2	講義	○														◎
		日本国憲法	1・2・3・4後	2	講義		○		○		○		○							◎
経営組織論		3・4前	2	講義					○		○								◎	
事業計画論		3・4後	2	講義						○		○							◎	
																				◎



■学校におけるソーシャルワークの理論を実践に活用する  
 学校教育現場を中心とした活動領域について、地域内連携のあり方をめぐる理解を深め、スクールソーシャルワークを推進する上で必要となる実践力を身に付けます。  
 ・課題を抱える児童生徒及びその家族に関する援助の方法のあり方や、児童・家族を取り巻く生活環境上の課題に向き合うための関係性や連携のあり方を身に付けます。  
 ・学校、地域、行政などによって展開された児童生徒及びその家族、教師の状況と適切に関わる知識を身につけるとともに、学習上又は生活上の問題を児童・家族が改善、克服に向えるような援助を行うために必要な理論や知識、技術を身に付けます。

■児童期から青年期までの各課程の発達段階および精神保健の基礎理論を専門職あるいは社会人、家庭人として職務に活かす能力について理解する  
 児童生徒が健全に育つために必要な発達段階についての考えを深めるとともに、教育・福祉の現場で専門職として関与し働きかけるための知識や心構えを理解します。  
 ・児童生徒の心身の発達や思春期特有の心性的理解、克服課題といったメンタルヘルスに関する知識を習得します。  
 ・児童期を取り巻く環境（養育者、保護施設、学校、地域、文化など）の現状を学び、今後の子育て・子育てに何が必要であるかを考える力を身に付けます。  
 ・人の成長・発達と心との関係、日常生活と心の健康との関係、心理的支援の方法・実施について理解します。  
 ・「生きる力」としての精神保健についての基本知識の習得、ライフサイクルの節目に出現する問題への解決技能を習得します。  
 ・自己の成長を促した教育的になりやすい対人サービス職の構造を理解し、我が身や家庭を守りながら自己実現するあり方を理解します。  
 ・各発達段階における課題と危機、人に導く心の働きの発達の道筋や機能について理解します。

■教育行政や学校組織とその管理運営に対する理解と児童・生徒への生徒指導のあり方を理解する  
 児童・生徒への個別的な支援とスクールソーシャルワークと教育機関の様々な専門職と連携を図るためにも教育行政や学校組織と管理運営について理解します。  
 ・教育に関する基礎的知識や教育と福祉の関わりについて基礎知識を習得します。さらに教育の制度に関わる事項について、学校や学級の経営に関わる基礎知識と学校の組織や管理運営のあり方を理解します。  
 ・我が国の教育制度に係る法令や国・地方行政組織のしくみを理解し、教育行政の果たす役割や学校等における教育活動との関係について理解します。さらに国や地方教育行政における教育改革の動きなど、教育の最新事情を把握します。  
 ・教育活動の基本的な心構えを習得し、学校で起こっているさまざまな問題の理解と支援について理解を深めます。  
 ・カウンセリングの基本的な考え方や方法について理解し、さらに保護者への支援方法について理解します。  
 ・生徒指導が、問題行動を促した生徒のみならず、事問題行動域の生徒及び一般生徒に対して学校教育活動全体を通じて援助・指導していくものであることを理解します。  
 ・生徒の問題行動の動向を捉え、いじめ問題、児童虐待問題において、学校、教員に求められる生徒指導の在り方について理解します。

■社会における福祉マインドを育み、多様なニーズに対応する支援・サービスについて理解する  
 福祉マインドを活かし、ソーシャルビジネス等の分野で必要となる基礎的な知識・技術を理解します。  
 ・高齢者、障がい者、子ども、家庭、貧困状態にある人などが必要としている支援・サービスやビジネスの手法で支援し、解決策を導く方法を身に付けて理解します。  
 ・ソーシャルビジネスの対象となる人々が抱える課題の解決に向けた取り組みを学び、「福祉をデザインしていく意義」について理解します。  
 ・福祉に影響する社会の仕組みや健康増進、疾病予防のための個人の生活習慣、ライフステージ別の課題づくりの取り組みを理解します。

■社会福祉に関わる学びの現状について、体系的な学びを完成させる  
 社会福祉の歴史や歴史、福祉の発展や福祉方法、社会福祉制度・政策等に関するこれまでの学習を踏まえ、在学中の学びの取組を行います。  
 ・これらの福祉サービスのあり方や生活問題解決に対し、自らの考えを表現し文書化する力を養うとともに、他者の意見から学ぶことで多面的な視点の構築を目指します。  
 ・さまざまな専門領域の学生との演習を通して福祉の専門性を高め、実践的な知識や技術の修得を目指します。  
 ・大学での社会福祉に関わる学びと現場実践に必要な知識や技術を確認します。

■福祉の意義について理解する  
 福祉の意義と福祉及び福祉内容について理解するとともに、福祉に対する自分の適性を判断し、教育に対する理解や使命感を深めます。  
 ・福祉教育の意義、福祉の意義と福祉及び福祉内容について理解を深め、教育に対する理解や使命感、及び福祉マインドを持った教育者としての自らの目指す方向性を明確にします。

■教育の基礎理論について理解する  
 教育学、心理学など教育に関する基礎的な理論や知識を身に付けるとともに、法令や教育行政など教育現場を支える基礎的な知識や指導方法（情報機器及び教材の活用を含む）を理解し、教育実践を遂行する上で必要となる実践力を身に付けます。  
 ・今日の課題である学力向上や体力向上などを踏まえ、教育課程の意義及び編成の方法について理解するとともに、カリキュラムマネジメントの意義や重要性を理解します。  
 ・授業、教材、指導、評価、指導、児童の発達、指導法、指導者及び教材について理解し、その方法を身に付けます。  
 ・小・中学校各科目の目標、学習内容、指導法、指導者及び教材について理解を深め、教科の特性を基にした指導計画を作成する力や指導的実践力、教材活用能力を身に付けます。  
 ・身体を基にした運動の授業づくりや運動的実践力の育成等について理解し、児童が自らの生き方について考えを深め運動的実践力を身に付ける力や実践的指導力を身に付けます。  
 ・総合的な学習の時間の意義と原理解及び指導計画作成や指導・評価の考え方を理解し、実践的指導力を身に付けます。  
 ・さまざまな集団活動や体験活動、コミュニケーションスキルを基にした指導等について理解を深め、特別活動の特性に応じた適切な指導計画を作成する力や実践的指導力を身に付けます。  
 ・特別の支援を必要とする児童の障害の特性及び心身の発達を理解するとともに、教育課程や支援の方法を理解します。

■教育課程及び指導法について理解する  
 小学校における教育課程の意義や編成方法を理解するとともに、教科指導の基礎となる学習指導要領と教科指導の基礎となる基礎的な知識や指導方法（情報機器及び教材の活用を含む）を理解し、教育実践を遂行する上で必要となる実践力を身に付けます。  
 ・今日の課題である学力向上や体力向上などを踏まえ、教育課程の意義及び編成の方法について理解するとともに、カリキュラムマネジメントの意義や重要性を理解します。  
 ・授業、教材、指導、評価、指導、児童の発達、指導法、指導者及び教材について理解し、その方法を身に付けます。  
 ・小・中学校各科目の目標、学習内容、指導法、指導者及び教材について理解を深め、教科の特性を基にした指導計画を作成する力や指導的実践力、教材活用能力を身に付けます。  
 ・身体を基にした運動の授業づくりや運動的実践力の育成等について理解し、児童が自らの生き方について考えを深め運動的実践力を身に付ける力や実践的指導力を身に付けます。  
 ・総合的な学習の時間の意義と原理解及び指導計画作成や指導・評価の考え方を理解し、実践的指導力を身に付けます。  
 ・さまざまな集団活動や体験活動、コミュニケーションスキルを基にした指導等について理解を深め、特別活動の特性に応じた適切な指導計画を作成する力や実践的指導力を身に付けます。  
 ・特別の支援を必要とする児童の障害の特性及び心身の発達を理解するとともに、教育課程や支援の方法を理解します。

■生徒指導、教育相談及び進路指導について理解する  
 児童生徒に関する基礎的な知識や方法を学ぶとともに、発達段階に応じた生徒指導や教育相談等のあり方や指導方法を身に付けます。  
 ・我が国や地域社会との関係性について理解を深め、児童の人格発達を目指した指導ができる実践的指導力を身に付けます。  
 ・子ども理解や保護者との関係性に加え、大卒ないかなりカウンセリング・マインド、コミュニケーション・スキルについて理解を深め、教育相談の理論や方法を身に付けます。  
 ・勤労観の育成やキャリア教育等について理解を深め、適切な指導や助言に必要な進路指導の理論や技法を身に付けます。

■教育の現場を支援に活用する  
 教育現場での実践を通して、実践に必要な基礎的な知識・技能等を確認するとともに、教育現場の課題や教育者としての自己の能力や適性について問題点や改善点を考察するとともに、教育者としての実践的な能力を身に付けます。  
 ・教育現場の課題を通して、実践に必要な基礎的な知識・技能について自覚するとともに、学校教育が抱えている現場の課題への理解を深めます。  
 ・教育の基となる知識・技能をもとに、多様に変化する教育現場にに対応する能力を養い、教員としての力量を高めるための実践的な学習を行います。  
 ・初等教育実習を通して、様々な教育現場を体験し、教育現場の課題に臨み、教育現場への理解と自己理解を深め、実践的指導力を身に付けます。

■教科の内容について理解する  
 小学校の教育課程で取り扱われる各教科について、それぞれが持つ特性と内容の理解を深めるとともに、各教科の特性と教育の意義を加味した効果的な教科指導ができる力を身に付けます。  
 ・小学校各教科について理解を深め、各教科に関する基礎的な知識及び技能を身に付けます。  
 ・「国語」では、話す、聞く、書く、読むの活動に関する読解力、理解力、思考力、想像力及び言語感覚を身に付けます。  
 ・「社会」では、地域社会や我が国の国土と歴史に関する理解を深めるとともに、観察や調査・見学などの体験的な活動や、それに基づき表現活動の進め方を身に付けます。

教育心理学②

福祉デザインの基礎②

教育概論②

教育原理②

教育心理学②  
 発達心理学②

教育課程②

教育相談②

生活①  
 体育①

国語(書写を含む)①算数①  
 音楽①  
 図画工作①

社会①  
 理科①  
 家庭①

英語①

◆基本型の履修モデル

125 単位

★主要授業科目を青フオンで表記

【社会福祉学】令和7年度入学生用 基本型の履修モデル

学位：学士  
(社会福祉学)

	1年次		2年次		3年次		4年次		計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	6	8	6	2	2	2	0	1	27
基礎科目	★●現代社会と福祉 4 ●市民社会の発展と専門職Ⅰ 2 ●市民社会の発展と専門職Ⅱ 2	★相談援助の基礎と専門職Ⅱ 2 ●相談援助の基礎と専門職Ⅰ 2	★相談援助の理論と方法Ⅰ 4 ★社会支援 4	相談援助の理論と方法Ⅱ 4	★地域福祉の理論と方法 4	社会調査の基礎 2			16
基礎科目	医学概論 2 生活問題論 2	福祉デザインの基礎 2	●高齢者に対する支援と福祉制度 2	●高齢者に対する支援と福祉制度 2	●高齢者に対する支援と福祉制度 2	●高齢者に対する支援と福祉制度 2	●高齢者に対する支援と福祉制度 2	●高齢者に対する支援と福祉制度 2	18
専門教育科目									
展開科目									
教育分野									
演習科目	★●相談援助演習Ⅰ 2		相談援助演習Ⅱ 2	相談援助演習Ⅲ 2	相談援助演習Ⅳ 2	相談援助演習Ⅴ 2			10
実務・実習科目									
関連科目									
実務・実習科目									
関連科目									
専門教育科目(小計)	12	12	12	16	16	16	6	4	98
合計	18	20	18	18	18	18	6	5	125

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他科目は選択科目である(ただし免許・資格取得に必修となる科目は、履修の手引きの該当箇所を確認すること)。  
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間割の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期についても、基本カリキュラム通りに実施する予定ですが、年度によっては入れ替わることもあり、各年度当初に必ず確認してください。  
 ※「相談援助実習Ⅰ」「相談援助実習Ⅱ」：履修登録制限除外科目(集中講義)

# 教育福祉学科

## ◆三つの方針（各学科独自設定箇所）

### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び教育福祉学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

#### 【2 教育福祉学分野における知識・技能・態度】

教育福祉学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、使命感や責任感、教育的愛情をもって教育福祉的援助を実践できる能力を身に付けている。

- (1) 人が成長すること・支え合うことに関する基本的かつ体系的な知識・技能及び態度を身に付けている。
- (2) 学校教育や児童福祉、健康教育に係る免許・資格などの専門性や協働的实践力を修得する。
- (3) 教育や福祉のさまざまな分野で活躍し、社会に貢献しようとする意欲や態度を身に付けている。

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育福祉学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

#### 【1 教育課程の編成・教育内容】

(2) 教育福祉の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門的な知識・技能を修得するとともに、使命感や責任感、教育的愛情をもって教育福祉的援助を実践していこうとする態度を身に付けるため、「専門教育科目」を置く。

①「基礎科目」及び「基幹科目」では、子どもの健康と成長を支援する際に必要となる教育福祉の基本的な考え方や知識・技能を教育内容とする。

②「展開科目」では、教育福祉の基本的な考え方や知識・技能を踏まえ、教育福祉のより専門的な知識・技能とそれらを実践する力の修得をめざす他、関連する諸分野の知識・技能を教育内容とする。

③「実習科目」では、これまでの学びを実際の場において確認・実践することで、修得した知識・技能を総合的に実践する力の育成を教育内容とする。

④教員免許取得に係る科目は、別途に配置する。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

#### 【2 教育方法】

《大学の方針に準ずる》

#### 【3 教育評価】

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「保育・教職実践演習」「教職実践演習」で確認を行う。

学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

(6) 専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

教育福祉学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

### 【1 求める学生像】

(1) 高等学校で履修した主要科目について基礎的な学力を有するとともに、論理的に考え、根気強く課題に取り組む姿勢を身につけている。

(2) 教育や社会福祉あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、そうした分野に関わっていこうという強い意欲を有している。

(3) 教員免許や各種資格の取得に向けた目的意識をもち、必要な努力を惜しまない姿勢を有している。

(4) 自分の考えを口頭や文章で適切に表現し、他者とのコミュニケーションを図ることができる。

(5) 物事に主体的に取り組む、他者と協調・協働して行動できる。

### 【2 入学者選抜の方法】

教育福祉学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

(1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査

(2) 高等学校での履修科目に対する学力検査

(3) 小論文

(4) 面接

(5) プレゼンテーション

(6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

### 【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

教育福祉学科を志望するみなさんには、大学での学修が円滑に進むよう、特に以下の学習内容及び学習態度の習得が望まれる。

(1) 「国語」及び「英語」を中心とした、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことに関する基礎的な知識・技能

(2) 幅広い分野に興味・関心を広げ、自分から調べようとするなど、学習に対する意欲的な態度

(3) 免許資格を取得する上で求められる基本的な知識・技能の他、読書やボランティア体験などを通じて人間性を豊かにしようと努める態度

## ◆カリキュラムマップ

### カリキュラムマップ 教育福祉学科科目

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<教育福祉学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び教育福祉学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【2 教育福祉学分野における知識・技能・態度】

教育福祉学に関する考え及び基礎知識・技能を体系的に理解し、使命感や責任感、教育的愛情をもって教育福祉的援助を実践できる能力を身に付けている。

- (1) 人が成長すること・支え合うことに関する基本的かつ体系的な知識・技能及び態度を身に付けている。
- (2) 学校教育や児童福祉、健康教育に係る免許・資格などの専門性や協働の実践力を修得する。
- (3) 教育や福祉のさまざまな分野で活躍し、社会に貢献しようとする意欲や態度を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2			主要授業科目			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	1	2	3	4	5	1	2	3				
の基礎科目	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前	1	講義・演習	●																			
	利他共生	1前	1	講義	●																			
思考能力の養成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●																			★
	データリテラシー	1後	1	講義・演習		●																		★
	統計分析法	2前	1	講義・演習				○																
	問題解決法	3後	1	講義・演習						●														
	創造思考法	4後	1	講義・演習								●												
表現力の養成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●																			★
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●																		★
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●																	★
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1	講義・演習				○																
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●																			
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●																		
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●																	
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1	講義・演習				○																
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3前	1	講義・演習						○														
	自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW	●																			
	チームワークとリーダーシップ	1後	1	講義・演習		●																		
人間性の養成	地域活動と社会貢献	2前	1	講義・FW			●																	★
	他者理解と信頼関係	2後	1	講義・演習				●																
	社会的・職業的自立Ⅰ	2前	1	講義・FW			●																	★
	社会的・職業的自立Ⅱ	2後	1	講義・演習				●																★





# ◆履修体系図（専門科目）

## 4. 教育福祉学科 専門教育科目 体系図

科目群の学習目標・到達目標	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<p><b>■教育福祉の概念及び教育の発展について理解する</b> 教育福祉学科の教育課程構成の基本方針とともに、学校教育の重要性、教職の意義と責務及び職務内容について理解を深め、教育に対する情熱や使命感、及び福祉マインドを持った教育者としての自らの自覚や方向性を明確にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育福祉とは何かについての理解を通して、現代社会において教育・福祉の果たす役割の重要性を認識し、福祉マインドを持った教育者としての自らの目指す方向性を理解します。</li> <li>・教職の意義と責務、職務内容及び一上・下・中・小・高・大の各学段について理解するとともに、教職に対する自分の適性を判断し、教育に対する情熱や使命感を養います。</li> </ul>	教育福祉総論②	教育福祉総論②						
<p><b>■教育の基礎理論及び教育の基礎的知識について理解する</b> 教育学、心理学など教育に関する基礎的な知識を学び知識を習得するとともに教育の基礎的知識に関する知識を身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育福祉学の発展を促す教育学、心理学についての基礎的な知識を理解します。</li> <li>・教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それがどのように変遷してきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の学びがどのように変遷し、発展してきたのかを理解します。</li> <li>・現代社会における教育の重要性の裏面を背景に、教職の役割、資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解します。</li> <li>・現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経済的の事項のいずれかについて、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解します。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校全体への対応に関する基礎的知識を身に付けます。</li> <li>・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解します。</li> <li>・通常の学級に在籍する児童・生徒の発達段階に合わせた授業計画を行う方法を身に付けます。特別支援教育を受ける児童、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実態・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を把握し、個別の教育ニーズに応じて、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解します。</li> <li>・特別支援教育を基盤として各学校において達成される教育目標について、その意義や達成の方法を把握するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意味を理解します。</li> </ul>	教育基礎②	教育基礎②						
<p><b>■教科の指導法及び保育内容の指導法について理解する</b> 各学段における教科・科目の指導法、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について育養となる学習領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導要領を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、幼稚園教育においては、幼稚園教育について学び、児童・能力を把握し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について育養となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構築する方法を身に付けます。</li> <li>・学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構成を理解します。</li> <li>・教科の学習目標の考え方を理解します。</li> <li>・教科と育養となる学習領域との関係を理解し、教材研究に活用する力を身に付けます。</li> <li>・発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる力を身に付けます。</li> <li>・子供の経験・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解します。</li> <li>・当該教科の特性に即した情報通信技術の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用する力を身に付けます。</li> <li>・学習指導要領に即した理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する力を身に付けます。</li> <li>・課程開発の実態と今後の展開を通して、課程改善の視点も身に付けます。</li> <li>・当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる力を身に付けます。</li> <li>・幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構成を理解します。</li> <li>・領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解します。</li> <li>・領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりも理解します。</li> <li>・子供の経験・思考、学力等を視野に入れた保育の重要性を理解します。</li> <li>・各領域の特性や幼児の発達との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育の構築に活用することができる力を身に付けます。</li> <li>・授業案の構築を理解し、具体的な授業を想定した指導案を作成することができる力を身に付けます。</li> </ul>	保育内容総論①	保育内容(環境)②	保育内容(健康)②	保育内容(人間関係)②	保育内容(言葉)②	保育内容(音楽表現)②	保育内容(造形表現)②	
<p><b>■道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談、進路指導、教育の方法と技術について理解する</b> 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び幼児・児童・生徒指導に関する基礎的な知識や方法、教育の方法と技術を学ぶとともに、発達段階に応じた生徒指導や教育相談等のあり方や指導方法を身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識、技能を身に付けます。</li> <li>・道徳の意義や指導方法を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその必要な道徳性の目標や内容、授業設計や実施することにより、教材研究や学習指導のあり方、授業改善を進め、実践的な指導力を身に付けます。</li> <li>・各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から捉えて捉え、実社会・実生活の課題を研究する学習活動のために、視野を広げるとともに、長期的な視点での教材の扱い、並びに学習活動の計画に関する知識・技能を身に付けます。</li> <li>・学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参加」「自己実現」の三つの観点から一貫しての学校の教育活動として、学習の場における活動の展開、各教科等との連携的な連携、地域住民や他校の教職員と連携しながら組織的な特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けます。</li> <li>・生徒指導の意義や指導の目的及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導のあり方を理解し、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けます。</li> <li>・幼稚園教育についての知識や理解の方法を具体的に理解し、幼稚園における幼児の生活や遊びの活動に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じつつある、その要因を把握するための原理や対応の方法を考慮することができる力を身に付けます。</li> <li>・学校における教育相談の意義と理解し、幼児、児童及び生徒の発達状況に即して、様々な心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付けます。</li> <li>・進路指導(キャリア教育の意義や価値を理解し、進路指導(キャリア教育)の推進に資する基礎的知識や実践活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それらに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けます。</li> </ul>	進路の指導法②			総合的な学習の時間と特別活動の指導法②				
<p><b>■教育の運動を實踐に応用する</b> 経験・参加・実践をいっしょに教育実践に関わることを通じて、一定の実践的指導力を有する指導教員としての実践を積み、学校現場の主体的・総合的に理解し、教育実践を促すに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・保育現場での各種実習を通して、教育・保育現場に必要な基礎的な知識・技能を習得するとともに、教育・保育現場の課題や教育・保育現場での自分の能力や責任について問題意識を養育するなど、教育・保育者としての実践的な能力を身に付けます。</li> <li>・事前指導では教育実践を促すとして学校の教育活動に参画する意義を高め、事後指導では教育実践を促すとして教育実践を促すとして、教員や指導員に指導する知識や技能を身に付けていくことで理解を深め、これらを通して教育実践の意義を理解します。</li> <li>・幼児、児童及び生徒や学習指導要領に対して適切な観察を行うとともに、学校現場に対する補助的な役割を担うことを通じて、教育実践(園)の幼児、児童又は生徒の活動と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解します。</li> <li>・大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導現場で実践するための基礎知識を身に付けます。</li> <li>・幼児教育実習、初等教育実習、中等教育実習を通して、様々な教育現場を踏む教育現場の実際に触れ、教育現場の経験と自己理解を深め、実践的指導力を身に付けます。</li> <li>・実践実習を通して、学校における保護教育や保護指導等の学校保護活動の実際に触れ、実践活動の果たすべき役割を把握するとともに、総合的な学校保護活動を展開する知識や技能を身に付けます。</li> <li>・特別支援教育実習を通して、障害のある児童、生徒の教育現場の実際に触れ、障害の状態や教育ニーズを踏まえた実践的指導力を身に付けます。</li> <li>・教育実習を通して、保育士としての専門内容や職場環境への理解を深め、保育士として必要な知識・技能や実践的指導力を身に付けます。</li> </ul>	教育実践研究①							
<p><b>■教科及び領域の内容について理解する</b> 小学校の教育課程で取り扱われる各教科について、それぞれ持つ特性と内容の理解を深めるとともに、</p>								

<p>もに、各教科の特質性と教育的な意義を加味した効果的な教科指導ができる力を身に付けます。</p> <p>・小学校各教科について、学習指導要領の趣旨を理解するとともに、教科毎の目標と内容及びその果たすべき役割について理解を深め、各教科に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けます。</p> <p>「国語」では、話す、聞く、書く、読むの活動に関する読解力、理解力、思考力、想像力及び言語感覚を身に付けます。</p> <p>「社会」では、地域社会や我が国の国土と歴史に対する理解を深めるとともに、観察や調査・見学などの体験的な活動や、それに基づく表現活動の場を身に付けます。</p> <p>「算数」では「物と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用」の5領域についての理解を深め、数学的な思考を身に付けます。</p> <p>「理科」では、物理、化学、生物、地学に関する理解を深め、科学的な見方、考え方を身に付けます。</p> <p>「生活」では、児童の発達段階を考慮して、生活の中での具体的な活動や体験を授業内容として構想する力を身に付けます。</p> <p>「音楽」では、歌謡・音楽・劇作などの表現活動及び鑑賞の活動を通して、音楽に対する感性や知識・技能を身に付けます。</p> <p>「図画工作」では、表現や鑑賞の活動を通して、造形的な創造活動を展開する力を身に付けます。</p> <p>「家庭」では、衣食住などの家庭生活に関する知識を深め、実践的・体験的な活動を展開する力を身に付けます。</p> <p>「体育」では、運動や健康安全に関する理解を深め、基本的な運動、ゲーム、体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳、表現運動、ボール運動に関する知識・技能を身に付けます。</p> <p>「英語」では、中・高等学校の外国語科で使うコミュニケーション能力を支える基礎づくりとしての小学校における外国語活動(中学校)・外国語(高等学校)の学習・指導・評価に関する基本的な知識・指導技術を身に付けます。</p> <p>幼稚園の教育課程で取り扱われている領域について、それぞれの領域に関する専門的事項について理解を深めるとともに、領域の統合性を踏まえた指導ができる力を身に付けます。</p> <p>「子どもと健康」は幼児期の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの知識を身に付けます。</p> <p>「子どもと人間関係」は幼児の人と関わる力の育ちについて知識を身に付けます。</p> <p>「子どもと環境」は幼児を取り巻く環境や、幼児の環境との関わりについての知識及び技能を身に付けます。</p> <p>「子どもと言葉」は幼児の豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、想像する楽しさを広げるための知識を身に付けます。</p> <p>「子どもと表現」は幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの知識・技能、表現力を身に付けます。</p>	<p>生活②</p> <p>体育②</p> <p>子どもと人間関係②</p> <p>子どもと環境②</p>	<p>国語②</p> <p>社会②</p> <p>理科②</p> <p>音楽②</p> <p>図画工作②</p> <p>子どもと言葉②</p> <p>子どもと表現(音楽)②</p> <p>子どもと表現(造形)②</p>	<p>算数②</p>	<p>英語②</p> <p>家庭②</p>
<p>■保育の本質・目的について理解する</p> <p>社会福祉の基本的な考え方やその対象、援助の仕方などについて理解するとともに、保育の現状と課題を考察し、現代社会に求められる保育や児童の発達の責務などについて理解します。</p> <p>・教育福祉の意義を把握する社会福祉学についての基礎的な知識を習得します。また、子どもや子育て家庭、障害者への支援のあり方、保育実践の基本的な考え方や社会的責務サービスとしての役割を学び、保育の本質や目的を理解します。</p> <p>・保育や児童の現状と課題について考察するとともに、その意義(歴史・法体系、理念など)について理解し、保育実践や社会的責務サービスの基本的な考え方を身に付けます。</p>	<p>社会福祉概論②</p> <p>保育概論②</p>	<p>子ども家庭福祉②</p> <p>社会的責務Ⅱ②</p>	<p>子育て支援①</p> <p>障害者福祉②</p>	<p>社会的責務Ⅱ①</p>
<p>■保育の対象について理解する</p> <p>子どもの保護、育生活、家族援助等の分野が必要となる保育の基礎的な内容を学び、保育対象者に応じた保育や援助のあり方を身に付けます。</p> <p>・保育の対象となる子どもの発達、健康の増進、疾病の予防について理解します。また、子どもの健康観察や事故予防、救急処置、基本的な生活習慣指導への援助などについて学び、小児保健の基本的な考え方やその活用、及び今日の課題について理解を深めます。</p> <p>・小児科における保育の意義と役割に関する基本的な知識を身に付けるとともに、保育の対象は子どもも保護者を含めた家族であることと理解し、家族の家族と子育て支援の重要性を認識します。</p>		<p>子ども家庭支援②</p> <p>子どもの食と栄養②</p>	<p>子どもの健康②</p> <p>子どもの健康と安全①</p>	
<p>■保育の内容・方法について理解する</p> <p>乳幼児や障害児の成長と発達、保育課程の対称法や介助技術の基本ならびに、保育等における保育内容の特性および基本的な保育方法のあり方について学び、乳幼児保育、障害児保育の基本と援助の仕方を身に付けます。</p>			<p>乳児保育Ⅰ②</p> <p>乳児保育Ⅱ①</p> <p>障害児保育②</p>	<p>社会的責務Ⅱ②</p> <p>保育内容の理解と方法Ⅰ②</p> <p>保育内容の理解と方法Ⅱ②</p>
<p>■特別支援教育の基礎理論について理解する</p> <p>特別支援教育の理念とは何か、また、特別支援教育の基本的な考え方がどのように定めてきたかについて学ぶとともに、これまでの特別支援教育の取り組みや特別支援学校の取り組みなどについて見直し、改善してきたかを確認します。</p> <p>歴史的特別支援学校の教育に関する社会的、制度的又は経済的課題のいずれかについて、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解します。</p>		<p>特別支援教育概論②</p>		
<p>■知的障害、肢体不自由、病弱(身体虚弱を含む)のある幼児、児童及び生徒の心身、生活及び病弱について専門的に理解する</p> <p>心身に障害のある幼児、児童及び生徒、特に、知的障害、肢体不自由、病弱(身体虚弱を含む)のある子ども達の心身、生活及び病弱について、その特徴やそれらの相互作用、発達の特徴を理解するとともに、家庭や関係機関との連携について専門的に理解します。</p>		<p>知的障害者の心身・生活・発達②</p> <p>肢体不自由者の心身・生活・発達②</p> <p>病弱者の心身・生活・発達②</p>		
<p>■知的障害、肢体不自由、病弱(身体虚弱を含む)に障害のある幼児、児童及び生徒の教育課程及び指導法について専門的に理解する</p> <p>特別支援学校教育関係・学習指導要領を基準として特別支援学校(知的障害・肢体不自由・病弱)において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて専門的に理解します。</p> <p>知的障害・肢体不自由・病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の病状や障害の状態、特性及び心身の発達段階等を踏まえた各教科等(「自立活動」を除く。*)の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計や方法を専門的に身に付けます。</p>		<p>知的障害者教育②</p> <p>肢体不自由者教育②</p> <p>病弱者教育②</p>	<p>知的障害者教育②</p> <p>知的障害者指導②</p> <p>肢体不自由者指導②</p> <p>病弱者指導②</p>	<p>知的障害者教育②</p> <p>知的障害者指導②</p> <p>肢体不自由者指導②</p> <p>病弱者指導②</p>
<p>■視覚・聴覚障害、重症障害、発達障害のある幼児、児童及び生徒の心身・生活・病弱、教育課程及び指導法について包括的に理解する</p> <p>特別支援学校教育関係・学習指導要領を基準として特別支援学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解します。</p> <p>視覚・聴覚障害、重症障害、発達障害のある幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達段階等を踏まえた各教科等(「自立活動」を除く。*)の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計や方法を身に付けます。</p>		<p>視覚・聴覚障害者教育②</p> <p>重症障害者教育②</p>	<p>視覚・聴覚障害者教育②</p> <p>重症障害者教育②</p>	<p>発達障害者教育②</p>
<p>■障害運動の理論と方法について理解する</p> <p>障害運動の理念に基づく実践と指導について、生涯スポーツに関わっていくための基礎的な知識の理解を深めるとともに、各年齢層に応じた障害運動実践指導するための能力を身に付けます。</p> <p>・スポーツがもたらす人間への心身の働きを理解し、各運動種目の基本的な技術、ルール、指導法及び様々なスポーツ場面においても活躍できるリーダーとしての資質を身に付けます。</p> <p>・スポーツの特性・特徴について考察するとともに、スポーツの現状や将来、経営管理、社会学、医学などの様々な面から理解する能力を身に付けます。</p> <p>・自ら見本を示せる技術を身に付け、集団への運動指導力やそれぞれの運動の理論を習得し、積極的な指導(コーチ)を目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力を身に付けます。</p>	<p>スポーツ概論②</p>	<p>スポーツ実践Ⅰ②</p> <p>運動学②</p> <p>体力測定②</p> <p>コーチング②</p> <p>スポーツ心理学②</p> <p>スポーツ経営管理②</p>	<p>スポーツ実践Ⅱ②</p> <p>スポーツ指導②</p> <p>スポーツ医学②</p> <p>健康運動実践指導Ⅰ②</p>	<p>スポーツ実践Ⅲ②</p> <p>リハビリテーション②</p> <p>スポーツ社会学②</p> <p>健康運動実践指導Ⅱ②</p>
<p>■障害管理の理論と方法について理解する</p> <p>学校運営上求められる学校保護推進のための基本的な知識の理解を深めるとともに、子どもの成長・発達に応じた障害管理を行う能力を身に付けます。</p> <p>・子どもの成長・発達の特徴や障害の特性・程度に関する基礎的な知識を習得し、子どもの健康状態(身体・精神)について、(発達・生活)障害(身体・精神)の特性・程度に関する基礎的な知識を習得し、子どもの健康</p>	<p>生活習慣概論②</p>	<p>生活習慣概論②</p>	<p>健康育②</p>	

関心に基づいて「理論」を学ぶ。この「理論」を授業で習得し、実践への応用を身に付ける。実践の場を踏まえて「理論」を学ぶ。実践の場を踏まえて「理論」を学ぶ。実践の場を踏まえて「理論」を学ぶ。

■心身と行動の相互作用と方法について理解する  
教育現場での相談や援助のあり方について理解し、具体的な問題に対してそれぞれに適した対応をすることができる知識と、カウンセリング・マインドで対応できる能力を身に付ける。  
・心身学において必要な様々な研究方法について学び、基礎的な統計法や実験的研究方法の知識を身に付ける。  
・心理学の実験・実習を通して、データ解析や心理検査等の基礎的な手法を実践的に身に付ける。  
・知覚、記憶、意識、思考、学習など、人間が生活を営む上で基礎となる心身学に関する知識を身に付ける。  
・人が集団の中でどのように振舞うかという点、行動理解の基礎となる社会心理学の知識を身に付ける。  
・性格や人格特性などの個性や個人差の問題を学び、人格心理学の知識を身に付ける。  
・心の問題を抱えた人を理解するための理論とその援助方法について、事例研究を通じて、心理臨床の実践的知識への基本姿勢を身に付ける。  
・カウンセリング・マインドについての理解を深めるとともに、自己を振り返り、洞察を深め、他者理解へと関心を広げる姿勢を身に付ける。

S心理学②  
免疫学②

解剖生化学②

衛生学②  
公衆衛生学②

栄養学②

薬理総論②

学校保健②  
精神保健学④  
感染症学②

小児保健②

看護学総論②  
看護技術論②

看護学実習Ⅰ②  
看護学実習Ⅱ②

健康相談活動②

看護学実習Ⅲ(救急病室)②

心理統計法②

心理学的研究法②  
心理学調査実習②

心理学総論②  
教育心理学②

知覚・認知心理学②

発達心理学②

社会心理学②

社会・集団・家族心理学②

学習・言語心理学②

発達臨床心理学②

障害者・障害児心理学②

臨床心理学総論②

心理学的支援法②

社会心理学②

心理学的アセスメント②

心理アセスメント実習②

心理学基礎実験②

☆印刷業者へのご依頼  
体系図の全てのページ左下(横向きの場合)に以下の文章を挿入してください。  
※表中の数字は単位数を表し、[ ]は必修科目、[ ② ]は選択科目です



# 実践心理学科

## ◆三つの方針（各学科独自設定箇所）

### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び心理学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

#### 【2 心理学分野における知識・技能・態度】

対人援助場面を含む多様な社会状況で活かすことのできる心理学及び人間科学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、人間が直面する諸課題の解決のために活用する意欲・能力を身に付けている。

(1) 自己理解、他者理解、人間関係についての理解をもたらす心理学及び人間科学の基本的かつ体系的な知識・技能を身に付けている。

(2) 人間が社会生活や職業生活で直面する諸課題を、一般心理学及び臨床心理学、発達心理学、社会心理学の観点から総合的に理解して、その理解を課題の解決のために活用する意欲や能力を身に付けている。

(3) 心理学及び人間科学に関する諸理論を用いて、人間の行動に関する新たなアイデアを創出し、それについて科学的・実証的に説明する能力を身につけている。

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

実践心理学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

#### 【1 教育課程の編成・教育内容】

(2) 心理学の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技能を実践に応用しうる知識・技能・資質の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「基礎科目」及び「基幹科目」では、一般心理学に関する理論とその研究方法、さらにそれらの知識や技能を応用した心理学領域の知識と技能を教育内容とする。

②「展開科目」では、臨床心理学領域、発達心理学領域、社会心理学領域における、より専門性の高い知識と技能、及びそれらの適用背景となる社会福祉についての知識を教育内容とする。

③「実践科目」では、幅広い心理学の知識と技能を、様々な実践の場で適用するための総合的な知識・技能・態度の育成を教育内容とする。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

#### 【2 教育方法】

《大学の方針に準ずる》

#### 【3 教育評価】

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「心理学総合演習Ⅱ」で確認を行う。

学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

(6) 専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

実践心理学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

### 【1 求める学生像】

(1) 高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有し、課題を解くことができる。

(2) 心理学及び人間科学、さらにそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かす意欲を有している。

(3) 本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがうことができる。

(4) 心理学に関係する資格の取得、心理学を活かせる様々な場での活躍に向けて、高い意欲と絶えざる努力ができる態度を有している。

(5) 自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に課題に取り組むことができる。

### 【2 入学者選抜の方法】

実践心理学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

(1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査

(2) 高等学校での履修科目に対する学力検査

(3) 小論文

(4) 面接

(5) プレゼンテーション

(6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

### 【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

実践心理学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

(1) 「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付ける学習

(2) 幅広い分野に興味・関心を持ち、また高い学習への意欲の持続

## ◆カリキュラムマップ

### カリキュラムマップ 実践心理学科目

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

本学は、大衆仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育による人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<実践心理学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び心理学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【2 心理学分野における知識・技能・態度】

対人援助場面を含む多様な社会状況で活かすことのできる心理学及び人間科学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、人間が直面する諸課題の解決のために活用する意欲・能力を身に付けている。

- (1) 自己理解、他者理解、人間関係についての理解をもたらす心理学及び人間科学の基本的かつ体系的な知識・技能を身に付けている。
- (2) 人間が社会生活や職業生活で直面する諸課題を、一般心理学及び臨床心理学、発達心理学、社会心理学の観点から総合的に理解して、その理解を課題の解決のために活用する意欲や能力を身に付けている。
- (3) 心理学及び人間科学に関する諸理論を用いて、人間の行動に関する新たなアイデアを創出し、それについて科学的・実証的に説明する能力を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2			主要授業科目					
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	1	2	3	4	5	1	2	3						
基礎	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前	1	講義・演習	●										◎											
	利他共生	1前	1	講義																						
	思考力の養成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●										◎										★
		データリテラシー	1後	1	講義・演習		●									◎										★
		統計分析法	2前	1	講義・演習			○																		
		問題解決法	3後	1	講義・演習					●																
		創造思考法	4後	1	講義・演習						●															
	表現力の養成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●										◎										★
		コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●									◎										★
		コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●								◎										★
		コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1	講義・演習				○																	
		表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●										◎										
		表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●									◎										
		表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●								◎										
		表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1	講義・演習				○																	
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3前	1	講義・演習					○																	
	人間力の育成	自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW	●																				
		チームワークとリーダーシップ	1後	1	講義・演習		●																			
		地域活動と社会規範	2前	1	講義・FW			●																		★



# ◆履修体系図（専門科目）

実践心理学科 専門教育科目 体系図

は主要授業科目

科目群の学習目標・到達目標	1年		2年		3年		4年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
<p>■基礎的な心理学およびその周辺領域の知識を修得する 心理学のなかで基礎心理学に分類される科目の理論的視点を身に付けることで、その後の発展科目を理解するための心理学的視点を獲得します。</p> <p>心理学概論② 感情・人格心理学②</p>			<p>心理学の展開② 教育心理学②</p>				<p>哲学概論② 社会学概論② スポーツ心理学②</p>	
<p>心理学概論では、心理学全体について広く学ぶことで、それぞれの下位科目の関連等、学問的体系を理解するとともに、自身の関心領域を見いだすことができるようになります。 学習・認知心理学、知覚・認知心理学、感情・人格心理学においては、心理学的な科学としての行動への理解の視点を修得します。 神経・生体心理学、人体の構造と機能及び疾病では、行動の生物学的メカニズムを理解します。</p>			<p>知覚・認知心理学② 学習・言語心理学②</p>	<p>人体の構造と機能及び疾病② 神経・生体心理学②</p>				
<p>■心理学研究法とその分析的視点を修得します。 学問としての心理学における研究方法およびデータの分析手続の理論的理解および実践的技能を修得します。</p> <p>心理学研究法② 心理学実験②</p>			<p>心理学研究法② 心理学調査実習②</p>	<p>心理学実験② 心理学基礎実験②</p>			<p>対人・集団行動分析①</p>	
<p>心理学研究法では、心理学における各種研究手続の理論的視点について理解します。心理学実験では、ヒトを対象としたさまざまな心理学実験を行い、分析の結果についてのレポートを作成することで、心理学における科学論文の書き方を修得します。 心理学統計法では統計的処理の理論的理解、心理学調査実習では、統計の基礎で学んだ手続を実際のデータに適用させることで、データ処理・分析、その結果報告方法の技能を修得します。対人・集団行動分析では、心理学的データを科学的に分析する手法を身に付けます。</p>								
<p>■発達心理学に関する知識を修得する 発達心理学を実践的心理学のひとつと位置づけ、ヒトの発達についての理解、発達支援の方法についての理解を目指します。</p> <p>発達心理学②</p>					<p>児童心理学② 高齢者心理学②</p>		<p>青年心理学②</p>	
<p>発達心理学において、発達心理学全体の体系について理解します。 児童心理学、青年心理学、高齢者心理学においては、各ステージの発達の特性を理解します。発達臨床心理学、障害者・障害児心理学では、発達心理学と関連の深い臨床問題を対象とした支援の方法について理解します。</p>					<p>発達臨床心理学②</p>		<p>障害者・障害児心理学② 発達障害教育概論②</p>	
<p>■社会心理学に関する知識を修得する 社会心理学を実践的心理学のひとつと位置づけ、ヒトと社会との関係について心理学的に理解します。</p> <p>社会心理学②</p>			<p>対人関係心理学② 消費者心理学②</p>	<p>社会・集団・家族心理学② キャリア心理学②</p>		<p>消費者行動分析②</p>		
<p>社会・集団・家族心理学において、社会心理学全体の体系について理解します。 対人関係心理学、消費者心理学においては、社会心理学領域の具体的な理論、背景知識を身に付けます。さらに対人スキル実習では実際の場での実践力を養います。 キャリア心理学では、社会心理学の知見を対人援助に応用した具体的な支援方法の視点を身に付けます。消費者行動分析では、社会心理学の知見を科学的に分析する手法を身に付けます。</p>				<p>対人スキル実践演習②</p>				
<p>■臨床心理学に関する知識を修得する 心理学を実践的心理学のひとつと位置づけ、対人援助のための理論についての知識を修得します。</p> <p>臨床心理学概論②</p>			<p>心理的アセスメント② 心理学的支援法②</p>	<p>精神疾患とその治療② 心理療法②</p>				
<p>臨床心理学概論において、臨床心理学全体の体系を理解します。 精神疾患とその治療では、ヒトが示す心理学的な臨床問題についての知識を修得します。 心理学的支援法において、臨床心理学的介入の全体像を理解したうえで、心理療法では、精神分析療法、認知行動療法などの心理療法の視点を修得します。心理的アセスメントでは、各種心理検査等の概要、具体的な手続について修得します。</p>								
<p>■実践的心理学に関する技能を修得する 実践的心理学を応用するため、対人援助のための具体的なスキルを修得します。</p> <p>心理アセスメント実習② 心理演習②</p>				<p>心理アセスメント実習② 心理演習②</p>			<p>心理実習②</p>	
<p>心理アセスメント実習、心理演習では、さまざまな実践的な心理学の介入の基礎的視点を修得します。 心理実習では、臨床心理士や公認心理師が活動する領域の現場への見学を通して、実際の業務について理解します。</p>								
<p>■実践的心理学に関する職業や各領域の課題・支援を修得する 実践的心理学を応用し、各領域の現場で働く上で求められる役割や責任を学び、各現場で生じる課題に必要な支援について修得します。公認心理師の職業では、公認心理師として働く上で求められる倫理や能力について理解します。健康・医療心理学、福祉心理学、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学では、各現場で生じる課題とその背景、及び必要な支援について修得します。発達行政職では、各現場に關する法律、制度について理解します。</p>			<p>教育・学校心理学② 健康・医療心理学②</p>	<p>福祉心理学② 司法・犯罪心理学② 公認心理師の職業②</p>			<p>関係行政職② 更生保護制度② 保健医療サービス②</p>	
<p>現代社会と福祉④ 福祉行政職④</p>							<p>高齢者に対する支援と介護保険制度② 若年者に対する支援と介護保険制度②</p>	
<p>■社会福祉に關する知識を修得する 心理学の知見を実際の対人援助現場で活用できるものにするべく、対人援助の基盤となる福祉社会に關する基礎的知識を習得します。 様々な領域の福祉の現状とその支援制度について理解することで、共生社会の実現に資する実践力を獲得します。</p>			<p>現代社会と福祉④ 福祉行政職④</p>	<p>障害者に対する支援と障害者自立支援制度② 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度② 共生援助論②</p>			<p>高年齢者に対する支援と介護保険制度② 若年者に対する支援と介護保険制度② 貧困に対する支援 ジェンダー福祉論② 社会的養護Ⅰ② 医学概論② 障害者スポーツ論②</p>	
<p>■心理学に関する新たな視点を獲得する 心理学基礎演習では、心理学全体の体系について理解し、学習やディスカッション、プレゼンテーションを行うためのスキルについての修得します。心理学実践演習、心理学総合演習では、これまでに修得してきた心理学の知識を基に、考えを表現するためのスキル・研究スキル等を用いて、ゼミ形式の講義の中で自身の新たな心理学的知見を展開する力を修得します。具体的に、卒業研究として心理学の論文作成を行い、知識を創造し、報告する力を身に付けます。</p> <p>心理学基礎演習Ⅰ② 心理学基礎演習Ⅱ②</p>				<p>心理学実践演習Ⅰ② 心理学実践演習Ⅱ②</p>			<p>心理学総合演習Ⅰ② 心理学総合演習Ⅱ②</p>	

◆基本型の履修モデル

★主要授業科目を青フオンントで表記

124 単位

【実践心理学科】令和7年度入学生用 基本型の履修モデル

学位：学士  
(心理学)

	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
学習力の養成	●利他共生 1								2	
思考力の養成	★情報リテラシー 1	★データリテラシー 1				●問題解決法 1		★●創造思考法 1	4	
表現力の養成	●コミュニケーションスキル(基礎) 1	●コミュニケーションスキル(応用) 1	●コミュニケーションスキル(発展) 1						6	
人間力の養成	●表現技法Ⅰ(作文・論文) 1	●表現技法Ⅱ(作文・論文) 1	●表現技法Ⅲ(発表・討論) 1						4	
社会力の養成	●自己管理と社会規範 1	●チームワークとリーダーシップ 1	●社会的・職業的自立Ⅰ 1	●他者理解と信頼関係 1					4	
人間の理解	人間心理と人間行動 1	健康管理と身体活動 1	日本社会と歴史文化 1	法律社会と法曹問題 1					11	
社会の理解	労働社会とデータサイエンス 1	国際社会と国際問題 1		世界動向と国際貢献 1					2	
基礎教育科目(小計)	8	6	4	5	0	2	0	2	27	
心理学概論系	★●心理学概論 2	知覚・認知心理学 2	★●心理学の発展 2		教育・学校心理学 2		現代社会と福祉 4		16	
量的研究法系	心理学統計法 2	心理学心理学 2	★●心理学研究法 2	心理学調査実習 2			対人・集団行動分析 1		9	
心理査定系		心理学実験 2	★●心理学基礎実験 2	心理的アセスメント 2	心理演習 2				6	
神経心理学系			人体の構造と機能及び疾患 2	神経・生理心理学 2	精神疾患とその治療 2				8	
臨床心理学系	感情・人格心理学 2	★臨床心理学概論 2		★●心理学の支援法 2	心理療法 2	司法・犯罪心理学 2	キャリア心理学 2	社会学概論 2	10	
社会心理学系	★●社会心理学 2		対人関係心理学 2		社会・集団・家族心理学 2	産業・組織心理学 2	消費心理学 2		22	
発達心理学系		★発達心理学 2			対人スキル実践演習 2	関係行動分析 2	消費者行動分析 2	青年心理学 2	14	
実践科目	★●心理学基礎演習Ⅰ 2	★●心理学基礎演習Ⅱ 2		★●心理学基礎演習Ⅰ 2	★●心理学基礎演習Ⅱ 2	★●心理学実践演習Ⅰ 2	★●心理学実践演習Ⅱ 2	★●心理学総合演習Ⅰ 2	★●心理学総合演習Ⅱ 2	12
専門教育科目(小計)	10	12	12	12	16	16	13	6	97	
合計	18	18	16	17	16	18	13	8	124	

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他の科目は卒業要件選択科目です(ただし免許・資格取得に必修となる科目は、履修の手引の該当箇所を確認すること)。  
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間割の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期については、基本カリキュラム表通りに実施する予定ですが、年度によっては入れ替わること  
 もありますので、各年度当初に必ず確認してください。

## 7.コミュニティ政策学部

### 教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像

#### ◆淑徳大学教育に関する規則(教育の基本方針)第2条

#### (4) コミュニティ政策学部

##### ア 教育目的

地域社会におけるコミュニティ形成に関する諸課題を的確に認識し、幅広い視点からの問題分析や課題解決のための方向性を見だし、政策提言や価値創造、地域活動等の社会開発や地域開発の能力を身に付ける。

##### イ 人材像

地域社会の多様な場においてコミュニティ形成の中核を担い、広くは社会開発や地域開発に貢献する人材

### コミュニティ政策学科

#### ◆三つの方針（各学科独自設定箇所）

#### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及びコミュニティ政策学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

##### 【2 コミュニティ政策学分野における知識・技能・態度】

コミュニティ政策学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、地域がもつ課題の解決にあたる意欲、能力を身に付けている。

- (1) コミュニティ政策学の基礎的かつ専門的な知識・技能を体系的に身に付けている。
- (2) 講義科目で学んだ専門的な知識とサービスラーニング活動を通じて得た実践的な経験を統合し、課題解決に必要な知識や技能を身に付けている。
- (3) 地域社会の多様な場において、コミュニティ形成や課題解決に主体的に参画する態度・志向性を持っている。

#### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

コミュニティ政策学科では、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

### 【1 教育課程の編成・教育内容】

(2) コミュニティ政策の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技能を実践に応用しうる知識・技能・能力の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「導入科目」では、コミュニティ政策の概念及びその政策過程の基礎的な考え方、コミュニティ政策に関わる仕組みや行動主体の役割について理解する教育内容とする。

②「基礎科目」及び「基幹科目」では、社会学、経済学、法律学、政策学の4分野における基礎的な知識と、専門的な学びに発展させるために必要な知識と考え方を理解する教育内容とする。

③「展開科目」では、専門的な知識や考え方を深め、課題に対して、自ら考えるための知識と技能を身に付ける教育内容とする。

④「関連科目」では、コミュニティ政策や現代社会の課題を考えるために必要な関連領域・分野の知識や考え方、具体的な方法や事例などを理解する教育内容とする。

⑤「実践科目」では、コミュニティ政策に対する興味や関心を高めるための動機づけと、サービスラーニング教育を用いた具体的な事例の理解を深める教育内容とする。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

### 【2 教育方法】

《大学の方針に準ずる》

### 【3 教育評価】

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「ワークショップⅡ」で確認を行う。

学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

コミュニティ政策学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

### 【1 求める学生像】

(1) 高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有し、基礎的な課題を解くことができる。

(2) コミュニティ政策学の学びに強い興味と関心を持ち、学んだことをサービスラーニング等の活動を通じて、実践の場で生かす意欲を有している。

(3) コミュニティ政策や現代社会の課題に対する強い興味と関心を持ち、自ら学び、課題解決に取り組む意欲を有している。

(4) 本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力・意欲があることを、高等学校での活動等から確認することができる。

(5) 将来の職業選択や各種資格の取得に向け、高い意欲と絶えざる努力ができる態度を有している。

(6) 自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に進んで取り組むことができる。

## 【2 入学者選抜の方法】

コミュニティ政策学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

## 【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

コミュニティ政策学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- (1) 「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付ける学習
- (2) 「現代社会」や「政治経済」など、社会事象や社会のしくみ、政治や経済に関する基礎知識を身に付ける学習、現代社会や政治・経済の問題に対する興味や関心などの意欲
- (3) インターンシップ（職業体験）やボランティア等を通じて、社会の現場に参画することへの意欲

## ◆カリキュラムマップ

### カリキュラムマップ コミュニティ政策学科科目

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

#### 【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

#### 【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<コミュニティ政策学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及びコミュニティ政策学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

#### 【2 コミュニティ政策学分野における知識・技能・態度】

- コミュニティ政策学に関する考え方や基礎知識・技能を体系的に理解し、地域がもつ課題の解決にあたる意欲、能力を身に付けている。
- (1) コミュニティ政策学の基礎的かつ専門的な知識・技能を体系的に身に付けている。
  - (2) 講義科目で学んだ専門的な知識とサービラーニング活動を通じて得た実践的な経験を統合し、課題解決に必要な知識や技能を身に付けている。
  - (3) 地域社会の多様な場において、コミュニティ形成や課題解決に主体的に参画する態度・志向性を持っている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2			主要授業科目			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	1	2	3	4	5	1	2	3				
学習力の養成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前	1	講義・演習	●																			
	利他共生	1前	1	講義	●																			
思考力の養成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●																			★
	データリテラシー	1後	1	講義・演習		●																		★
	統計分析法	2前	1	講義・演習			○																	
	問題解決法	3後	1	講義・演習																				
	創造思考法	4後	1	講義・演習																				
表現力の養成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●																			★
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●																		★
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●																	★
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1	講義・演習				○																
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●																			
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●																		
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●																	
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1	講義・演習				○																
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3前	1	講義・演習																				
	自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW	●																			
基礎教育科	チームワークとリーダーシップ	1後	1	講義・演習		●																		
	地域活動と社会貢献	2前	1	講義・FW			●																	★
	他者理解と信頼関係	2後	1	講義・演習				●																
社会力の養成	社会的・職業的自立Ⅰ	2前	1	講義・FW			●																	★
	社会的・職業的自立Ⅱ	2後	1	講義・演習				●																★



# ◆履修体系図（専門科目）

コミュニティ政策学部 専門科目 体系図

は主要授業科目

科目群の学習目標・到達目標	1年		2年		3年		4年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
<p>■コミュニティ政策学に関する考え方や基礎知識・技能を体系的に理解する</p> <p>コミュニティ政策学に関する考え方や基礎知識・技能を体系的に理解し、地域がもつ課題の解決への道筋等を身に付けます。</p> <p>「コミュニティ政策論」では、コミュニティ政策の概念及びその政策過程の基礎的な考え方、コミュニティ政策に関わる仕組みや行動主体の役割について理解します。</p> <p>「地域総合論」では、地域社会における課題を的確に認識し、幅広い視点からの課題分析や課題解決のための方向性を見出し、政策提言や価値創造に至るための基礎力を身に付けます。</p>								
<p>■社会学における基礎的な知識と、専門的な学びに発展させるために必要な知識と考え方を理解する</p> <p>「社会学概論」では、コミュニティ政策学の学びの土台として、社会学の基礎的な知識を身に付け、社会学の構造および機能への理解を深めるための基本的な分析方法を修得し、専門的な学びに発展させる力を身に付けます。</p> <p>社会学の構造および機能への理解を深めるためには、学生にとって身近な現代を分析することが基本となります。「階級社会学」では、コミュニティを考えるうえで大切な条件である、戦後の日本社会の全体的な経緯と変動を理解し、「地域社会学」では、地域社会レベルでの構造的変化と諸問題を理解します。</p> <p>社会への理解は人間への理解にもつながります。「社会心理学」では、社会と心理との相互作用過程である社会心理の理解を深め、そうした基本的知識を修得します。「比較社会学」では、日本以外の諸外国の社会や文化を理解して我が国と比較を試み、視野を広めるとともに我が国の地域社会への理解を深めます。</p>								
<p>■社会調査に関する基礎理論と方法の両面から理解する</p> <p>社会調査や社会に関する諸事象を明らかにするために、データの収集から分析にいたるまでの基礎的な事柄を理論と方法の両面から理解します。</p> <p>「社会調査論」では社会調査に関する基本的事項を修得し、「社会調査法」では社会調査の企画・設計段階からデータ収集しおこなう段階までの一連の作業過程を具体的に理解します。</p> <p>「社会統計学」では基礎的な知識としての統計学の基礎を学び、「統計解析法」および「応用統計解析法」では実際に統計パッケージソフトを操作し、重要なデータを分析する力を身に付けます。さらに、「社会調査実習」では調査票作成、調査実施、データ入力、クリーニング、解析、結果の報告という一連のデータ処理過程の具体的な方法を修得します。</p>								
<p>■経済学における基礎的な知識と、専門的な学びに発展させるために必要な知識と考え方を理解し、経済社会における課題の解決について自ら考えることができる。</p> <p>「経済学概論」では、コミュニティ政策学の学びの土台として、経済学的作用や市場の役割について基礎的な知識を身に付け、経済学の基礎を理解します。</p> <p>経済の動きを理解し、そこにおいて生じる問題を解決するために行われる経済政策の基本を理解するために、経済の理論・政策・実証の基礎を身に付けます。</p>								
<p>「ミクロ経済学」「マクロ経済学」では、経済を分析する枠組みである経済理論の基礎を理解し、経済モデルを用いて経済の動きを分析し、経済政策に関する意義を考察する力を身に付けます。「経済政策論」では、経済社会において生じるさまざまな課題の解決に向けた政策的対応としての経済政策を理解し、その有効性と限界について理論的・実証的に考察する能力を修得します。「社会経済学」では、経済モデルの妥当性について実証的に検証し、経済政策の策定とその評価への活用可能性について考察する能力を修得します。そのため、分析目的に応じた資料・データを収集し、必要に応じて加工し、適切な解析手法を選択するなどの数量的な分析手法を身に付けます。</p> <p>経済社会における諸問題の解決にアプローチするうえで、金融、財政、国際経済に関する制度、理論、政策を理解します。</p> <p>金融論では、金融の制度・仕組み、および金融市場に関する基礎的な知識を身に付け、金融・金融政策の理論を理解し、現実を実施されている金融政策の効用について考察する能力を修得します。「財政学」では、政府の政策の立案・実施における制度・仕組みに関する基礎的な知識を身に付け、財政の役割について理解し、経済政策の解決のための財政政策の必要性・実現性について考察する能力を修得します。「国際経済学」では、対・サービス・資本の国際取引に関する制度・仕組みに関する基礎的な知識を身に付け、貿易や国際金融に関する理論・政策を理解し、現実経済における課題解決について考察する能力を修得します。</p> <p>日本や地域社会における経済問題について、課題解決につながる政策を考える力を身に付けます。</p> <p>「公共経済学」では、政府や他の公共的団体が取り組むべき現実の経済問題を取り上げ、その解決に向けた具体的な政策を自ら考えることができる能力を修得します。「地域経済論」では、地域経済を分析し、その構造を理解し、そこで生じる問題の解決のための具体的な施策について考えることが可能な能力を修得します。「地方財政論」では、人々の生活に密着した地方財政の理論、制度・仕組みに関する基礎的な知識を身に付けます。また、国との役割分担のもとで地方政府が取り組むべき経済問題とそれを解決するための地方財政の財政政策について考察する能力を修得します。</p>								
<p>■法学における基礎的な知識と、専門的な学びに発展させるために必要な知識と考え方を理解する</p> <p>法律学分野では、コミュニティ政策に関連する法律や判例について基礎的な理解を深め、リーガルマインド(法的思考力)を身に付けます。「法律学概論」では、コミュニティ政策における法の意義や役割を踏まえ、それらを学ぶための土台を固めるべく、憲法を含む法律学の位置づけ、法律学の基本的理論や考え方を理解します。</p> <p>公法分野では、「憲法」「行政法(総論・作用法)」「行政教養法」「地方自治法」「刑法」を学びます。「憲法」では統治構造や人権保障の仕組み、「行政法(総論・作用法)」では行政の組織や活動に関する原理原則や法制度を学びます。また、「行政教養法」では行政活動によって侵害された権利利益の救済のための法制度を、「地方自治法」では地方自治の本質に基づき地方自治の法制度を、さらに「刑法」では国家の強制力による行政活動に関する刑法と民法の役割や論議を学びます。これらの科目の学びを通じて、刑罰権を含む国家や自治体の統治機構や統治構造を学習し、そこで個人の権利自由がいかに保障されているのかを知り、社会生活における公法上の諸問題について対応できる能力を身に付けます。</p> <p>私法分野では、「民法(総論・物権法)」「債権法」「商法・会社法」「消費者法」を学びます。民法は財産法と家族法に大別され、「民法(総論・物権法)」では民法全体の基本理論と基本概念を定めている総論及び権利義務に発生する人と物の権利関係を定めた物権を中心と学びます。また、「債権法」では契約や不法行為(例えば交通事故)等の財産法の基礎的論点の理解を目的とし、社会生活をめぐる紛争の予防・事後の解決の手段・方法を提示できる能力を身に付けます。「商法・会社法」は株式会社制度の基本的な仕組みを理解するとともに、企業経営や取締役の役割や責任など、株式会社をめぐる重要論点を中心に学習します。「消費者法」は事業者と消費者間の交渉力・情報量の均衡を目的とし消費者契約法やクーリング・オフ制度に代表される特定商取引法の内容を習得することにより、消費を生活めぐる法的問題に対する解決力を高めます。これらの科目の学びを通じて、社会生活や企業活動において発生する私法上の法的諸問題に適切に対応できる能力を身に付けます。</p> <p>社会法分野では、「労働法」と「社会保険法」を学びます。「労働法」は、雇う者と雇われる者との間の雇用関係を中心として成立していることから、雇用関係の法的ルールがその主たる対象であり、例えば労働契約の締結や労働争議等に関する労働契約法、労働組法の労働組合の保護に関する労働基準法を学びます。「社会保険法」は、国民の生活と社会を安定的に維持することを目的とする社会保険制度の法的仕組みの理解を目的とします。具体的には、失業、労災、年金、医療、介護あるいは生活保護等の法的仕組みを学びます。これらの科目の学びを通じて、社会生活や企業活動における法的問題を体系的に学習し、職業生活と家庭生活をめぐる法的諸問題について対応できる能力を身に付けます。</p>								
<p>■政治学における基礎的な知識を元に、専門的な学びに発展させるための考え方を理解する</p> <p>政治学を学ぶ基礎として「政治学概論」「公共哲学」を学びます。「政治学概論」では、政治学の土台として、公共政策の基礎的な考え方や政策過程について理解を深め、政策立案・実施・評価・検証の基本的な視点と方法を身に付けます。「公共哲学」では、公共政策における倫理的・思想的決定の基礎となる正義・人権・徳・責任の観点から、制度設計の基本理論を理解します。</p>								

政策形成過程分野として、「政策過程論」「政策立案論」「政策評価論」を学びます。「政策過程論」では多様な利害関係者の行動や政策形成のプロセスを理解し、「政策立案論」では課題解決に向けた具体的な提案や計画の立案方法などを学びます。さらに「政策評価論」では政策の実効性を測定し、改善につなげる方法を理解します。これらの科目の学びを通じて、政策の企画立案から実施、評価に至る一連のプロセスを体系的に理解し、実践的な政策形成能力を身に付けます。

行政運営の仕組みを理解するために「行政学」「地方自治行政論」「公共管理論」を学びます。「行政学」では行政組織と政策執行の基本的な仕組みを理解し、「地方自治行政論」では国と地方の役割分担、権限配分や地方行政及び議会の仕組みについて学びます。また「公共管理論」では行政組織などのように運営されるべきが、また社会問題が複雑化する中で企業やNPOなど多様な主体を巻き込んだ行政運営のあり方を学びます。これらの科目の学びを通じて、政策実施の担い手となる諸機関の役割や相互関係、さらに効果的な政策実施のための管理手法について理解を深めます。

政策実施を理解するために「公共政策論」「地域政策論」「比較政策論」を学びます。「公共政策論」では社会の価値観の変化に対応した政策課題の設定と解決方法について検討します。「地域政策論」では住居について身近な地域の問題について、地理的要因や他の自治体との関係を考慮しながら、実際の政策問題について理解を深めます。「比較政策論」では具体的な事例研究を通じて、政策の有効性や限界について分析的に理解します。これらの科目の学びを通じて、エビデンスに基づいた政策分析の実践と、適切な政策対応を検討できる能力を身に付けます。

これら政策分野の諸科目を通じて、現代社会の課題に対する政策的な対応力や力を身に付け、具体的な政策を構想・実施・評価できる能力を養います。基礎理論を土台としながら、政策の立案過程や行政の仕組みを理解し、さらに実践的な政策形成へと段階的に学びを深めています。理論と実践を結びつけるため、適宜、実務家を招聘します。

**■現代社会や地域がもつ課題を理解するとともに、その要因となる制度や仕組み、問題を探掘し、分析するための方法について理解することで、コミュニティ政策学の考え方を把握する。**

社会学、経済学、法学、政治学、行政学等の専門分野の基礎知識に加え、学際分野としての「コミュニティ政策学」の考え方を理解するために、その関連領域として、社会学、教育心理学の基本的な知識を修得するとともに、現代社会や地域がもつ諸課題の背景やそれに関連する制度等に関する基本的な知識を身に付けます。

**■参加型・双方向型の授業を通して地域コミュニティをめぐって生じる諸課題解決の手法等を身につける**

コミュニティ政策学に対する興味や関心を高めるための動機づけを図るとともに、サービスマーケティングの手法を用い、具体的な事例研究を通して、実践的なコミュニティ政策学の理解を深めます。

行政機関や企業、地域と連携し、幅広い視点から問題解決の課題の探察や、新しい社会のあり方を構想し、実現できる能力を修得します。学外での体験授業を通じて実践的な事例研究、行政や企業の実務者を招いての授業等を通して、社会における諸課題について実践的に演習形式により学びます。

コミュニティ研究Ⅰ②    コミュニティ研究Ⅱ②  
 コミュニティ研究Ⅲ②

地域政策論②	観光経済学②	NPO論②
	社会福祉論②	社会保護論②
		地域福祉論②
	社会病理学②	福祉社会学②
		犯罪社会学②
	地域防災論②	地域防災論②
		危機管理論②
	産業社会学②	労働社会学②
		産業心理学②
	教育社会学②	社会教育学②
		教育行政学②
地域スポーツ概論②		スポーツマネジメント②
	キャリアデザイン①	
環境経済学②		地域環境論②
		共有資源管理論②

ケーススタディⅠ②	ケーススタディⅡ②	ワークショップⅠ②	ワークショップⅡ②
-----------	-----------	-----------	-----------

◆基本型の履修モデル

	1年次		2年次		3年次		4年次		計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎教育科目	学習力の養成	●専攻科生(専攻科生) 1 ●利他共生 1								
	思考力の養成	★●情報リテラシー 1								
	表現力の養成	●表現技法Ⅱ(作文、論文) 1 ★●コミュニケーション実践Ⅰ 1	●表現技法Ⅰ(演習、分析) 1	●表現技法Ⅳ 1	●表現技法Ⅴ 1				★●創造思考法 1	
	人間力の養成	●自己管理と社会規範 1	●チームワークリーダーシップⅠ 1	●表現技法Ⅲ(演習、討論) 1 ★●コミュニケーション実践Ⅱ 1	●表現技法Ⅳ 1					
	社会力の養成		●自己管理と社会規範 1	●社会的・職業的自立Ⅰ 1	●他者理解と信頼関係 1					
	人間の理解		●自己管理と社会規範 1	●社会的・職業的自立Ⅰ 1	●他者理解と信頼関係 1					
	社会の理解		●自己管理と社会規範 1	●社会的・職業的自立Ⅰ 1	●他者理解と信頼関係 1					
	国際の理解		●自己管理と社会規範 1	●社会的・職業的自立Ⅰ 1	●他者理解と信頼関係 1					
	国際の理解		●自己管理と社会規範 1	●社会的・職業的自立Ⅰ 1	●他者理解と信頼関係 1					
	国際の理解		●自己管理と社会規範 1	●社会的・職業的自立Ⅰ 1	●他者理解と信頼関係 1					
基礎教育科目(小計)	6	8	4	4	1	1	2	1	27	
専門教育科目	導入科目	★●コミュニケーション教育論 2 ★●地域総合論 2								
	基礎科目	★●社会学概論 2 ★●経済学概論 2 ★●法学概論 2 ★●政策学概論 2								
	社会学分野	社会学概論 2								
	経済学分野	ミクロ経済学 2 マクロ経済学 2	経済政策論 2 ★●財政学 2							
	法律学分野	憲法 2 ★●民法(総則・物権法) 2 ★●刑法 2	債権法 2 行政学 2							
	政策学分野	★●政策過程論 2 公共哲学 2	行政学 2							
	社会学分野	社会学概論 2	社会学 2							
	経済学分野	社会学概論 2	社会学 2							
	経済学分野	社会学概論 2	社会学 2							
	法律学分野	社会学概論 2	社会学 2							
	政策学分野	社会学概論 2	社会学 2							
	関連	社会学概論 2	社会学 2							
	実践科目	★●コミュニケーション研究Ⅰ 2 ★●コミュニケーション研究Ⅱ 2	★●コミュニケーション研究Ⅲ 2							
	専門教育科目(小計)	12	10	14	14	17	14	10	6	97
	合計	18	18	18	18	18	15	12	7	124

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他科目は卒業要件選択科目です(ただし免許・資格取得に必修となる科目は、履修の手引の該当箇所を確認すること)。  
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間制の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期について、基本カリキュラム通りに実施する予定ですが、年度によっては入れ替わることもあり、各年度当初に必ず確認してください。

【コミュニケーション政策学科】令和7年度入学生用 基本型の履修モデル 124 単位

★主要授業科目を青フロントで表記

学位：学士 (コミュニケーション政策学)

## 8.看護栄養学部

### 教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像

#### ◆淑徳大学教育に関する規則(教育の基本方針)第2条

##### (3) 看護栄養学部

###### ア 教育目的

人々の健康の保持増進と病む人の生活を支えるために、看護学又は栄養学の分野において、専門性の高い知識、技術及び豊かな対人能力を身に付ける。

###### イ 人材像

看護分野又は栄養分野で働く専門職として、対象となる人々の尊厳と人権を擁護し得る高い倫理観と確かな実践能力を備え、更に、他の保健、医療、福祉等の専門職者と有機的に連携して協働できる人材

### 看護学科

#### ◆三つの方針（各学科独自設定箇所）

##### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び看護学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

###### 【2 看護学分野における知識・技能・態度】

看護学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、さまざまな実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。

- (1) 共生の精神を基盤とし、人々の生老病死に寄り添い、尊厳と人権を擁護しうる高い倫理観を身に付けている。
- (2) 看護専門職者として、対象者の多様な背景を理解し、最善について共に考え、柔軟に行動できる技能を身に付けている。
- (3) 全人的に対象者をとらえ、健康と安寧について対象者と共に課題を見出し、問題解決に取り組む態度を身に付けている。
- (4) 看護学の基礎的な知識・技術、対人関係能力に加えて、適切な情報を活用し、対象者のニーズや地域社会の特性に合わせて、根拠に基づく看護を実践できる技能を身に付けている。
- (5) 人々の健康と生活の質向上に向けて、保健医療福祉チームの一員として看護専門職者の役割を理解し、連携・協働・実践する技能を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

看護学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

### 【1 教育課程の編成・教育内容】

（2）看護学の主要分野における基礎・基本となる知識・技術及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技術を実践に応用しうる知識・技能・態度の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「専門基礎科目」では、看護対象者を心理・社会・行動面から理解するとともに、疾患による人体への影響や看護援助の基礎となる知識・技術を教育内容とする。

②「看護専門科目」では、看護学の各領域に関する基礎知識及び技術を修得し、各領域での実習でさらに深める教育内容とする。

③「看護発展科目」では、現代社会で看護学に要請される保健医療福祉職との連携と協働、さらに、人々の生老病死に寄り添う看護の理解を深め発展させる教育内容とする。

④ 看護師・保健師免許取得に係る科目は、上記科目内に配置する。

（3）科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

### 【2 教育方法】

《大学の方針に準ずる》

### 【3 教育評価】

（4）学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「卒業研究」で確認を行う。

学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

（5）学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

（6）専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

看護学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

### 【1 求める学生像】

（1）高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有し、課題を解くことができる。

（2）看護あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かす意欲を有している。

（3）本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがわれる。

（4）看護師・保健師免許の取得に向け、高い意欲と絶えざる努力ができる態度を有している。

（5）自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に進んで取り組むことができる。

### 【2 入学者選抜の方法】

看護学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) 入学志願者本人が記載する資料による審査

### 【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

看護学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- (1) 社会に対し広く深い興味・関心を示し、常に知識の向上へ深い欲求をもち続けている。
- (2) 文章の読解力、基礎的語学力を身につけている。
- (3) 「化学」、「生物」、「数学」の基礎的な知識・学力を有し、さらなる知識の習得に意欲を有している。

### ◆カリキュラムマップ

#### カリキュラムマップ 看護学科科目

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数論的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<看護学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

本学に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び看護学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【2 看護学分野における知識・技能・態度】

- 看護学に関する考え方や基礎知識・技能を体系的に理解し、さまざまな実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。
- (1) 共生の精神を基盤とし、人々の生老病死に寄り添い、尊厳と人権を擁護しうる高い倫理観を身に付けている。
- (2) 看護専門職者として、対象者の多様な背景を理解し、最善について共に考え、柔軟に行動できる技能を身に付けている。
- (3) 全人的に対象者ととらえ、健康と安寧について対象者と共に課題を見出し、問題解決に取り組む態度を身につけている。
- (4) 看護学の基礎的な知識・技術、対人関係能力に加えて、適切な情報を活用し、対象者のニーズや地域社会の特性に合わせて、視察に基づき看護を実践できる技能を身に付けている。
- (5) 人々の健康と生活の質向上に向けて、保健医療福祉チームの一員として看護専門職者の役割を理解し、連携・協働・実践する技能を身に付けている。

区 分	授 業 科 目	配当年次	単位数		授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2					必修/選択	卒業修業科目			
			必修	選択		前期	後期	1	2	3	4	5	1	2	3			4	5									
実力養成の基	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1期	1		講義・演習	●																						
	創始共生	1期	1		講義	●																						
	情報リテラシー	1期	1		講義・演習	●																					*	
	データリテラシー	1後	1		講義・演習		●																				*	
	統計分析法	2期	1		講義・演習			●																				
	問題解決法	3後	1		講義・演習				●																			
	創造的思考	4後	1		講義・演習					●																	*	
	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1期	1		講義・演習	●																					*	
基	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1		講義・演習		●																				*	
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2期	1		講義・演習			●																			*	
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1		講義・演習				●																		*	
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1期	1		講義・演習	●																						
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1		講義・演習		●																					
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2期	1		講義・演習			●																				
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1		講義・演習				●																			
教	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3期	1		講義・演習					●																		
	自己管理と社会連携	1期	1		講義・FW	●																						
	チームワークとリーダーシップ	1後	1		講義・演習		●																					
	地域活動と社会貢献	4期	1		講義・FW						●																*	
育	他者理解と信頼関係	4後	1		講義・演習							●																
	社会的・職業的自立Ⅰ	2期	1		講義・FW			●																			*	
	社会的・職業的自立Ⅱ	2後	1		講義・演習				●																		*	
人間心理と人間行動	1・2・3・4期後	1		講義・演習		○	○	○	○	○	○	○	○										○					



# ◆履修体系図（専門科目）

## 看護学科 専門教育科目 体系図

※青字記載科目は主要授業科目

※保健師課程履修者 必修科目  
※大字下線 主要授業科目

科目群の学習目標・到達目標	1年		2年		3年		4年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
<p><b>■人間関係の構築</b> 看護職としてすべての人とのかわりの基本となる人間関係やコミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を学ぶ。</p>	人間関係学 2 対人関係援助論 1 2	対人関係援助論 1						
<p><b>■健康支援と社会保険</b> ★医学と統計 公衆衛生看護活動で用いられる保健統計について、その作成方法・利用方法・近年の動向・統計学の発展の基礎・文献調査法について理解できるようにする。</p> <p>★健康支援と社会保険制度 ★健康支援と社会保険制度 社会における組織的な働きかけにより、身体的・精神的機能を増進させる。公衆衛生学の基礎について理解し、社会保険制度の現状と課題、さらには保健師法領域での実践的知識の基礎を理解できるようにする。</p>		社会福祉概論 1		保健医学統計学 2				
<p><b>■人体の構造と機能・病態の成り立ちと回復の促進</b> 人体の構造と機能・病態の成り立ちについて医学やコンピュータ(医学や治療の専門知識)分野における基礎となる解剖学・生理学・免疫学について理解し、さらに人体の発育・消化器・呼吸器・循環器・神経系・内分泌系・腎・泌尿器系の構造や機能について理解する。</p>	生化学 2	人体の構造と機能学 1 人体の構造と機能学 2	人体の構造と機能学 1 人体の構造と機能学 2					
<p><b>■基礎看護学</b> 看護の対象であるその人が健康な日常生活を営んでいくために、健康の維持・増進、疾病を予防し、療養の回復と看護の緩和を目指すことを理解し、看護実践ができるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。</p> <p>看護の対象となる「人間」「健康」「看護」の概念を理解し、看護独自の機能と役割について学び、「看護とは何か」と考え、実践できるようにする。 「対象者の個別化ニーズ」を目的とし、人それぞれ異なることについて理解し、エビデンスに基づいたケア方法とは何かを明らかにする。</p>	看護学入門 2	看護学 2 (医学基礎・看護学・前編)	看護学 1 (看護学基礎・診断・症状)	看護学 2 (看護学基礎・診断・症状)	看護学 1 (看護学基礎・診断・症状)			
<p><b>■地域在宅看護論</b> 在宅看護の歴史、概念及び特徴を理解し、療養生活支援の方法を修得するとともに、在宅看護の役割と役割の範囲を明らかにする。</p> <p>在宅看護を担う在宅看護士としての役割を理解し、生活の場で看護を実践するための基本的能力を養う。</p> <p>在宅ケアにおける他職種との連携や協働の実際及びその重要性を理解する。</p>								
<p><b>■成人看護学</b> 成人に対する対象の看護をとおして、その特徴を理解し、あらゆる健康レベルの対象に対し看護が果たせる基礎的能力を養う。</p> <p>対象の身体的・精神的・心理的・社会的特徴を理解する。</p> <p>対象の看護に必要な情報を収集し、アセスメントを行い、健康上の看護問題を解決するための必要な方法を判断能力を養う。</p> <p>急性、慢性病に対する対象の特性と適切な援助を学ぶ。</p> <p>看護実践の必要性を理解し、対象及び家族への適切な生活指導について学ぶ。</p> <p>保健看護チームの一員としての看護師の役割を学ぶ。</p>		成人看護学 2		成人看護学 1 (看護学基礎・診断・症状)	成人看護学 2 (看護学基礎・診断・症状)			
<p><b>■老年看護学</b> 老年期における対象の看護をとおして、その特徴を理解し、あらゆる健康レベルの対象への看護が果たせる基礎的能力を養う。</p> <p>対象の身体的・精神的・心理的・社会的特徴を理解する。</p> <p>対象の看護に必要な情報を収集し、アセスメントを行い、健康上の看護問題を解決するための必要な方法を判断能力を養う。</p> <p>高齢者の特性を踏まえ、援助方法を学ぶ。また老年期に關連するケアの関連施設やケア実践の場について理解する。</p> <p>高齢者をとりまく保健、医療、福祉の現状と課題を理解し、それらの関連場における看護師の役割を学ぶ。</p> <p>保健医療チームの一員としての看護師の役割を学ぶ。</p>				老年看護学 1 (高齢者ケア)	老年看護学 2 (高齢者ケア)			
<p><b>■小児看護学</b> 療養及び健康増進をまっとうする子供とその家族を理解し、対象に応じた最善の利益を守る看護を実践するための基礎的能力を養う。</p> <p>子供は、成長発達の上であり、個性ある一人の存在であることを理解できる。</p> <p>看護実践をまっとうする子供とその家族のコミュニケーション・関係を学ぶ。</p> <p>子供特有の発育・成長、発達過程を理解し、子供に応じた日常生活援助ができる。</p> <p>受け持たる意思に応じた看護援助が計画でき、看護実践に基づき、看護援助を実施し評価できる。</p> <p>子供の日常生活、成長、発達、生活(入院)環境に応じた感染防止、安全の確保、事故防止ができる。</p>				小児看護学 1 (小児看護学基礎)	小児看護学 2 (小児看護学基礎)			
<p><b>■産科看護学</b> 母性及び女性の特性を知り、健康が守られる仕組みと母性看護活動について学び、性と生殖にかかわる健康増進・健康問題について理解する。</p> <p>妊娠、分娩、産後に関する母性及び女性の特性と適切な看護実践の必要性を理解し、個別化された看護実践を遂行する基礎的能力を養う。</p>				産科看護学 1 (産科看護学基礎)	産科看護学 2 (産科看護学基礎)			
<p><b>■精神看護学</b> 病状及び地域で生活する精神障害者を理解し、看護が果たせる基礎的能力を修得する。</p> <p>精神障害及び患者と社会的関係の構築について理解する。</p> <p>患者の情報を収集、分析、解釈、統合し、疾患に共通する援助方法及び個別化された援助方法を実践できる。</p> <p>患者のニーズや優先度を踏まえてケアプランを立案し、実施、評価、修正という看護過程を実践できる。</p> <p>患者と看護実践の協働を目的とし、自己開発を促すケア・治療的コミュニケーション技術の習得を目指す。</p>		精神看護学 1		精神看護学 1 (精神看護学基礎)	精神看護学 2 (精神看護学基礎)			
<p><b>■公衆衛生看護学</b> 公衆衛生看護学の歴史及び基礎となる概念を理解し、地域に暮らす人々を対象とした保健予防活動の歴史と役割を理解する。</p> <p>公衆衛生看護学を担う保健師としての役割と責任を理解する。また、その活動に際して必要な知識・技術を修得する。</p> <p>公衆衛生看護活動における社会資源の活用、評価と看護実践計画に対する評価活動、地域の健康増進や市民生活の向上に貢献する看護実践の重要性を理解する。</p> <p>公衆衛生看護及び学校保健の意義・重要性を理解し、地域保健活動に携わる看護師の役割・機能を学ぶ。</p>				公衆衛生看護学 2 (地域で暮らす人々の健康)	公衆衛生看護学 1 (公衆衛生看護学基礎)	公衆衛生看護学 2 (公衆衛生看護学基礎)		公衆衛生看護学 1
<p><b>■臨床実習</b> 既習の知識・技術を統合し、積極的に実習に臨むことを通じて、それぞれの臨床における学習目標を達成する。</p>		高度看護学実習 1 (看護学実習)		高度看護学実習 2 (地域で暮らす人々の健康)	高度看護学実習 1 (看護学実習)	高度看護学実習 2 (看護学実習)		
<p><b>■専門知識の基礎</b> 地域に生活する人々の健康増進活動のニーズにこたえ、生活の質を維持・向上するために、保健・医療・福祉の専門家が連携し、支援内容を統合した援助計画立案について理解する。</p>								公衆衛生看護学実習 1
<p><b>■看護実践を支える基礎</b> 実践・関心のある看護分野、あるいはより深めたい特別な状況下にある対象に対して、あるいはチーム医療の一員としての看護実践能力を高める。</p> <p>看護・福祉・医療の発展的な視点から看護の専門性・個別性を学習できる。</p> <p>自己の看護実践を振り返ることができ、</p> <p>将来における自分自身の看護の方向性を探求することができる。</p>								公衆衛生看護学実習 2



# 栄養学科

## ◆三つの方針（各学科独自設定箇所）

### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び栄養学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

#### 【2 栄養学分野における知識・技能・態度】

栄養学・健康に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、あらゆる実践の場で活用できるような技能・能力を身に付けている。

(1) 栄養学を構成する基本的かつ体系的な知識・技能の修得に加えて、健康の維持・増進に係る関連分野に関する知識について理解している。

(2) 医療・地域・福祉・学校等の現場で、栄養管理や栄養の教育並びに他部門等との総合マネジメントを行う意欲や技能・能力を身に付けている。

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

#### 【1 教育課程の編成・教育内容】

(2) 栄養学分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、実践に応用しうる知識・技能・態度の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「専門基礎科目」では、管理栄養士に必要な専門基礎分野として、環境や社会、人体や疾患、食品や調理加工に係る知識・技能を幅広く修得することを教育内容とする。

②「専門基幹科目」では、管理栄養士に必要な専門分野として、エネルギー・栄養素の生理的な意義を確認し、実践の場で活用できる知識や技能を修得することを教育内容とする。

③「専門関連科目」では、栄養専門職に関連する知識及び、他職種と協働しうる基礎的知識・技能の修得を教育内容とする。

④管理栄養士及び栄養士免許取得に係る科目は上記科目内に配置し、栄養教諭免許取得に必要な科目の一部は「教職科目」に配置する。

科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

#### 【2 教育方法】

《大学の方針に準ずる》

#### 【3 教育評価】

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては3年次の「臨地実習」、4年次の「卒業研究」で、複数の教員により確認を行う。知識については、「管理栄養士演習」または「総合演習Ⅰ・Ⅱ」も含めて確認を行う。

学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

(6) 専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

栄養学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

### 【1 求める学生像】

- (1) 中等教育段階で履修した主要科目について、基礎的な知識を十分に有し、課題を解くことができる。
- (2) 栄養あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かす意欲を有している。
- (3) 管理栄養士・栄養士免許等の取得に向け、高い意欲と絶えざる努力ができる態度を有している。
- (4) 本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、中等教育段階での活動等からうかがうことができる。
- (5) 自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に進んで取り組むことができる。

### 【2 入学者選抜の方法】

栄養学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) 入学志願者本人が記載する資料による審査

### 【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

栄養学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- (1) 社会に対し広い興味・関心を示し、常に知識の向上への欲求をもち続けている。
- (2) 文章の読解力を有し、基礎的な語学力を身につけている。
- (3) 基礎的な ICT スキルを身につけている。
- (4) 「化学」、「生物」、「数学」の基礎的な学力を有し、さらなる知識の習得に意欲を持っている。

# ◆カリキュラムマップ

## カリキュラムマップ 栄養学科科目

< 淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) >

本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

< 栄養学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) >

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び栄養学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【2 栄養学分野における知識・技能・態度】

- 栄養学・健康に関する考え方や基礎知識・技能を体系的に理解し、あらゆる実践の場で活用できるような技能・能力を身に付けている。
- (1) 栄養学を構成する基本的かつ体系的な知識・技能の修得に加えて、健康の維持・増進に係る関連分野に関する知識について理解している。
- (2) 医療・地域・福祉・学校等の現場で、栄養管理や栄養の教育並びに他部門等との総合マネジメントを行う意欲や技能・能力を身に付けている。

区分	授業科目	配当年次	単位数	必修	選択	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2		主要授業科目			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	1	2	3	4	5	1	2				
学習力の養成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前	1			講義・演習	●																		
	利他共生	1前	1			講義	●																		
思考力の養成	情報リテラシー	1前	1			講義・演習	●												◎						★
	データリテラシー	1後	1			講義・演習		●											◎						★
	統計分析法	2前	1		1	講義・演習			○										◎						
	問題解決法	3後	1			講義・演習						●							◎						
表現力の養成	創造思考法	4後	1			講義・演習								●					◎						★
	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1			講義・演習	●												◎						★
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1			講義・演習		●											◎						★
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1			講義・演習			●										◎						★
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1		1	講義・演習				○									◎						
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1			講義・演習	●												◎						
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1			講義・演習		●											◎						
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1			講義・演習			●										◎						
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1		1	講義・演習				○									◎						
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3前	1		1	講義・演習					○								◎						
人間力の	自己管理と社会規範	1前	1			講義・FW	●												◎						
	チームワークとリーダーシップ	1後	1			講義・演習		●											◎						





専門 基幹 科目	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教育に必要な理論・行動科学について理解し、活用できる能力を身につけます。</li> <li>・栄養教育の対象者をアセスメントし、栄養教育の目標を作成できる能力を身につけます。</li> <li>・栄養教育プログラムの作成・実施・評価のマネジメントを理解し、活用できる能力を身につけます。</li> <li>・身体的・精神的・社会的状況等のライフステージ、ライフスタイルにおける課題を理解し、対象に応じた栄養教育のマネジメントができる能力を身につけます。</li> <li>・行動科学や栄養カウンセリングの理論・技法を理解し、それらを用いて効果的な栄養教育を行うことができる能力を身につけます。</li> </ul>								
	■臨床栄養学									
	学修目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各病態の病態や栄養状態の特徴を学び、各種病態に応じた栄養アセスメント、栄養診断、栄養補給法及び栄養療法を学びます。</li> <li>・チーム医療を達成するための栄養療法の実践スキルを学びます。</li> <li>・各種病態に対応する栄養食事指導の知識と技術を学びます。</li> </ul>	※臨床栄養学Ⅰ	※臨床栄養学Ⅱ	※臨床栄養学Ⅲ	※臨床栄養学Ⅳ				
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床栄養学を実践するための倫理観を身につけます。</li> <li>・栄養療法の実践に必要な病態・病態の知識を身につけます。</li> <li>・栄養アセスメント、栄養診断、栄養介入法についての知識を身につけます。</li> <li>・各種病態に対応した治療食療法を達成するための技術を身につけます。</li> <li>・栄養食事指導の知識と技術を身につけます。</li> <li>・栄養食事指導に必要な臨床調理の理論と技術を身につけます。</li> </ul>		※臨床栄養学実習	※臨床栄養学実習Ⅱ					
	■公衆栄養学									
	学修目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々が生活する自然・社会環境の中で、おまに健康という観点から、望ましい栄養・食生活を実践できるようにするために、人々の健康・栄養課題をニーズを把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・評価・改善するための基礎知識とスキルおよび集団の特性に応じた公衆栄養プログラムの開発の方法を学びます。</li> </ul>								
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆栄養活動の概念と目的について説明でき、日本人の健康、栄養状態、食生活、食環境等の現状と課題を読み取る力を身につけます。</li> <li>・日本の栄養政策の目的と概要を説明する力を身につけます。</li> <li>・地方自治体の公衆栄養行政の役割について説明する力を身につけます。</li> <li>・国際的な健康・栄養課題と主要な政策等について説明する力を身につけます。</li> <li>・公衆栄養アセスメントの方法として、食事調査および栄養教育の手法を説明する力を身につけます。</li> <li>・対象地域のQOL、健康課題および関連要因の課題をアセスメントし、健康増進計画を策定する手順と評価の方法を具体的に説明する力を身につけます。</li> </ul>					※公衆栄養学Ⅰ	※公衆栄養学Ⅱ		
	■給食経営管理論									
	学修目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康増進法に関する特定給食施設における管理栄養士業務は、給食運営や関連の資源(食品流通や食品廃棄の状況、給食に関する組織や経費等)を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力が必要とされる。そのために、給食システムの理解、マーケティング原理や経営管理の理論を応用展開する知識と技術を学びます。</li> </ul>	※給食経営管理論	※給食経営管理論	※給食経営管理論実習					
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定給食施設の役割や管理項目を理解し、基礎および専門科目で学修したことを関連づけ、マネジメント能力を身につけます。</li> <li>・管理栄養士の役割や業務内容を理解し、給食経営管理に関連する知識と技術の統合を図ることができる能力を身につけます。</li> <li>・社会と相対する高度な管理栄養士に求められるスキル(栄養指導能力、マネジメント能力、コミュニケーション能力)を習得し、給食経営管理の場で実践する力を身につけます。</li> </ul>								
■総合演習										
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床実習の事前準備学習として、栄養管理の実践に必要な知識を学びます。</li> <li>・職業人としての適応性について学びます。</li> </ul>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床実習に向けた課題発見と課題解決方法を考え、実行する能力と態度を身につけます。</li> <li>・臨床実習および実習演習を通じて学修成果を報告・共有し、総合的学習能力を身につけます。</li> </ul>					※総合演習Ⅰ	※総合演習Ⅱ		※管理栄養士実習	
■臨地実習										
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践活動の中で、栄養の専門職として栄養管理を行うための知識・技術を学びます。</li> <li>・栄養の専門職としての使命感、責任感を持ち、課題発見と課題解決を通して専門的知識・技術の統合を学びます。</li> <li>・栄養の専門職としての職業倫理について学びます。</li> </ul>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床栄養学、公衆栄養学または給食経営管理論の実習先において、栄養の専門職として栄養管理を行うための知識・技術を身につけます。</li> <li>・栄養の専門職としての使命、責任を理解し、生活にわたり自己研鑽し、学び続ける能力と態度を身につけます。</li> <li>・栄養の専門職が果たすべき役割について理解し、自己キャリアデザインができる力を身につけます。</li> </ul>									
■卒業研究										
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養学における科学的探究の視点について学び、栄養学の科学的根拠に基づき管理栄養士・栄養士自ら関わるこの必要性を学びます。</li> <li>・卒業研究の一連の過程を理解し、研究計画や実施手法について学びます。</li> <li>・卒業研究の公表を通じて、科学的かつ論理的に思考する方法について学びます。</li> </ul>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養学実践の質を高めるため、栄養・食の課題に対して必要な情報を収集・選別できる力を身につけます。</li> <li>・栄養の専門職として生活にわたって学び続ける力を身につけます。</li> </ul>									
■専門関連科目										
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードチェーンや食品流通などの栄養学や食品に関連する知識を学びます。</li> <li>・多職種と連携する立場の分野、家庭における管理栄養士の役割について学びます。</li> </ul>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードチェーンや食品流通などの栄養学や食品に関連する知識を身につけます。</li> <li>・栄養管理を必要とする人々に関わる関係者の役割を理解し、他の専門職と協働性を持つための基礎的な知識・態度を身につけます。</li> </ul>	心理学概論②	フードスペシャリティ カウゼリング論②	食品流通論②	食品評価論②					
■教職科目										
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育推進法に基づき食育の重要性、食育実践の重要性、食育推進の重要性を理解し、食育実践の重要性を学びます。</li> <li>・食育推進法に基づき、学校における個別指導について学びます。</li> <li>・児童及び生徒の栄養の実態と課題、栄養教育の役割、職務内容、食生活に関する歴史的・文化的事項を踏まえて、幼児、児童・生徒の食育実践の重要性を理解し、食育実践の重要性を学びます。</li> <li>・食育実践の重要性を踏まえて、学習指導要領の作成、教材の作成、指導計画を立て、指導内容と方法を身につけます。</li> </ul>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育実践の重要性を踏まえて、食育実践の重要性を理解し、食育実践の重要性を学びます。</li> <li>・食育実践の重要性を踏まえて、食育実践の重要性を理解し、食育実践の重要性を学びます。</li> <li>・食育実践の重要性を踏まえて、食育実践の重要性を理解し、食育実践の重要性を学びます。</li> </ul>									



## 9.教育学部

### 教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像

#### ◆淑徳大学教育に関する規則(教育の基本方針)第2条

##### (6) 教育学部

##### ア 教育目的

子どもの知・徳・体にわたるバランスの取れた成長と支援、子どもの心と身体の健やかな成長や発達と援助に必要な学校教育と児童福祉のあり方について、人間形成、人間発達及び人間援助の観点から考究し、それを実践する能力を身に付ける。

##### イ 人材像

学校教育や児童福祉の分野において、子どもとともに学ぶ情熱を持ち、専門職としての能力を備え、幅広い視野と豊かな人間性に基づき同僚、保護者及び地域と連携しつつ教育実践に取り組む人材

### こども教育学科

#### ◆三つの方針（各学科独自設定箇所）

#### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び教育学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

##### 【2 こども教育分野における知識・技能・態度】

こども教育に関する考え方や基礎知識を体系的に理解し、学校教育や児童福祉の分野など、さまざまな実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。

- (1) 教育学や保育学に関する基礎的で体系的な知識を身に付けている。
- (2) 学校教育や児童福祉などの実践の場で活用できる技能・能力を身に付けている。

#### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

こども教育学科では、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

### 【1 教育課程の編成・教育内容】

(2) こども教育の主要分野における基礎的・基本的知識・技能及びより高度の専門知識の修得に加えて、理論知や技能を実践に応用しうる知識・技能・態度の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「基礎科目」及び「基幹科目」では、教職の意義、児童福祉や社会的養護の意義、教育や保育の基本原則、こどもの発達、特別支援教育、教育行政や学校経営、保育士の役割等に関する基礎的な理論を教育内容とする。

②「展開科目」では、小学校の各教科・道徳・特別活動とその指導法、幼稚園・保育所で教える保育内容の各領域、さらにはこども理解、生活指導や教育相談の理論と方法等を教育内容とする。

③「関連科目」では、教育と保育の現場における今日的課題を理解するための教育内容とする。

④「演習科目」「実習科目」及び「実践科目」では、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士として、課題解決に必要な実践的指導力を身に付けるための教育内容とする。

⑤免許・資格取得に係る科目は、適宜、必要に応じて上記科目内に配置する。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

### 【2 教育方法】

《大学の方針に準ずる》

### 【3 教育評価】

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「卒業研究」で確認を行う。

学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

(6) 専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

こども教育学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

### 【1 求める学生像】

(1) 高等学校で履修した主要科目について基礎的な知識を有しており、それを用いて課題を解決することができる。

(2) こども教育あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かそうとする意欲を有している。

(3) 本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがうことができる。

(4) 小学校教諭あるいは幼稚園教諭、保育士の免許・資格取得に向けた旺盛な意欲を持ち、不断に努力することができる。

(5) 自分の考えを口頭や文章で適切に表現するコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動することができ、物事に主体的に取り組むことができる。

## 【2 入学者選抜の方法】

こども教育学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

## 【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

こども教育学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- (1) 「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付ける学習
- (2) 幅広い分野に興味・関心を持ち、旺盛な学習意欲を保持すること。

## ◆カリキュラムマップ

### カリキュラムマップ こども教育学科科目

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<こども教育学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び教育学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【2 こども教育分野における知識・技能・態度】

こども教育に関する考え方や基礎知識を体系的に理解し、学校教育や児童福祉の分野など、さまざまな実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。

- (1) 教育学や保育学に関する基礎的で体系的な知識を身に付けている。
- (2) 学校教育や児童福祉などの実践の場で活用できる技能・能力を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2		主要授業科目	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	1	2	3	4	5	1	2		
学習力の養成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前	1	講義・演習	●																
	利他共生	1前	1	講義	●																
思考力の養成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●												◎				★
	データリテラシー	1後	1	講義・演習		●											◎				★
	統計分析法	2・3・4前	1	講義・演習			○		○		○										
	問題解決法	3後	1	講義・演習						●								◎			
	創造思考法	4後	1	講義・演習								●						◎			
表現力の養成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●												◎				★
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●											◎				★
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●										◎				★
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2・3・4後	1	講義・演習				○		○		○					◎				
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●												◎				
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●											◎				
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●										◎				
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2・3・4後	1	講義・演習				○		○		○					◎				
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3・4前	1	講義・演習					○		○						◎				
	自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW	●													◎			





◆履修体系図（専門科目）

教育学部 幼児教育学科 専門教育科目 体系図

※学習記載科目は主要授業科目

科目群の学習目標・到達目標

**■教育の基礎理論について理解する**  
教育の意義、子どもの発達、現代の教育や教育政策等に関する基礎的な知識について理解します。  
・教育の基本的概念が何か、教育の歴史や思想について学ぶとともに、教育及び学校のよみの実感を理解します。  
・幼児、児童及び生徒の学習上、生活上の困難を理解し、組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解します。  
・教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について理解します。  
・現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について、基礎的な知識を身に付けます。

**■保育の本質・目的について理解する**  
保育や社会福祉の意義、保育の基本、保育の内容・方法、保育士の役割等に関する基本的な知識を理解します。  
・社会福祉の意義、制度や実施体系および現状と課題、社会福祉における相談援助、利用者の保護に関わる仕組みについて理解します。  
・保育の意義、目的、思想と歴史的変遷および現状と課題、保育に関する法令や制度について理解します。  
・保育者の役割と倫理・連携・協働、保育士の制度的位置づけや専門性について理解します。  
・家庭・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解します。  
・保育実践において、実施に応じた子どもの心身の発達や学びを促進することの意義について理解します。  
・子ども家庭福祉の意義、歴史的変遷、制度や実施体系、現状と課題について理解します。  
・社会的養護の意義と歴史的変遷、制度や実施体系、現状と課題、社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解します。

**■保育の对象について理解する**  
子ども心身の発達課題、子どもの発達、健康づくり、食育、食生活に関する基礎的な知識を理解します。  
・子どもの身体的な発達・発達と健康、健康状態とその把握の方法について理解します。  
・保育における保護的対応を要する発達課題や障害、発生管理・事故防止・安全対策・危機管理・危機対応等について理解します。  
・食生活の意義や栄養に関する基礎的な知識を習得し、子どもの発達・発達と食生活の関連について理解します。  
・子育て家庭に対する支援の意義・目的、支援の体制について理解します。  
・障害児およびその保育について理解するとともに、個々の特性や心身の発達等に適切な援助や配慮について理解します。

**■保育課程及び指導法について理解する**  
・保育内容・教育課程の編成や子ども指導する具体的な方法について理解します。  
・保育の5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）における内容を、幼稚園や保育所での具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けます。  
・小学校各教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、様々な学習指導法を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けます。  
・遺徳の意義や環境を踏まえ、学校の教育活動全体を通して行う遠達教育の目標や内容、指導計画を理解するとともに、保護者等と連携して実践的指導力を身に付けます。  
・総合的な学習の時間の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の計画に関する知識・技術を身に付けます。  
・小学校各教科における特別活動の意義を理解し、特別活動の特徴を踏まえた指導に必要な知識や実践方法を身に付けます。

**■教科の内容について理解する**  
・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「給保連携型認定こども園教育・保育要領」の趣旨を理解するとともに、保育内容の理解（人間関係・健康・言葉・表現）の理解を深め、各領域の指導の基礎となる専門的知識及び技術を身に付けます。  
・保育内容の理解及び環境を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えたとともに、子どもの発達の特性を捉え、具体的な指導の取方方を身に付けます。  
・小学校の教科課程で取り扱われる各教科について、それぞれが持つ特性と内容の理解を深めるとともに、各教科の特質性と教育的な意義を加味した効果的な教科指導ができる方を身に付けます。  
・小学校各教科について、学習指導要領の趣旨を理解するとともに、教科書の目標と内容及びその果たすべき役割について理解を深め、各教科に関する基礎的な知識及び技術を身に付けます。

**■生徒指導、教育相談及び進路指導について理解する**  
幼児・児童・生徒理解に関する基礎的な知識や方法を学ぶとともに、発達段階に応じた生徒指導や教育相談の取方方や指導方法を身に付けます。  
・幼児の発達や学びおよびその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えたことができるようになります。  
・悩み相談と連携しながら生徒指導を組織的に進めていくために必要な知識・技術や実践を身に付けます。  
・幼児・児童の発達の状態に即しつづつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付けます。

**■保育の理論を実践に活用することに関して理解する**  
実践の場や現場やカウンセリング活動など、授業を通して学んだ理論を教育現場で応用できる実践的指導力を身に付けます。また、教育現場での各種実践を通して、教職に必要な基礎的な知識・技術を理解するとともに、教育現場の課題や教育としての自己の能力や適性について問題点や改善点を考察するなど、教育者としての実践的な能力を身に付けます。  
・学校教育の実践を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けます。  
・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めるとともに、保育前、児童福祉施設等の役割や機能について理解します。  
・子どもとふれ合いを通して子どもの実態を知り、また日常的な教師の指導の様子や仕事の様子を観察し、真の思い実践的指導力を身に付けます。  
・支援を必要とする児童に対する、適切な指導および支援を、どのように行えばよいかを、体験を通して学びます。  
・特別支援学校、及び福祉施設で、障害を持った人や認知症高齢者などの支援を体験することにより、それらの人々の支援方法を学び、人間関係を築きます。

**■海外の教育文化について理解する**  
海外研修先の教育・歴史、社会、環境について調査し、その教育について理解を深めるとともに、英語指導に資する教員を養成するという教育目的を達成する一環として、英語力を身に付けます。

**■自ら課題を発見し、課題を解決する能力を養育する**  
グループ討議、事例研究、現場経験などの実践的な授業方法により、専門科の各分野で学んだ知識・技術を基に、総合的な応用能力を養育するとともに、実践を行うための実践的方法を身に付けます。  
・学修のテーマを決定し、資料収集しながらグループ討議を行い、プレゼンテーション能力を向上させます。  
・提示されたテーマについて、学修した手法を活用し、観念的研究をします。  
・4年間の学修の成果として、実際に自らの手で研究を進行し、論文にまとめます。

1年	2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教育原理② 教育心理学② 数論概論② 日本国憲法②	教育心理学②	保育実習Ⅰ 社会福祉概論②	教育心理学②	教育行政学②		
保育学概論② 教育実習②	保育実習② 子ども家庭支援の心理学②	保育学概論② 社会的養護Ⅰ②	社会的養護Ⅱ① 子育て支援①			
	子どもの保護②	子どもの食と栄養② 子ども家庭支援論②	子どもの発達と安全① 子ども家庭支援論②			
	障害児保育② 乳児保育Ⅰ② 育児学②	乳児保育Ⅱ①	乳児保育Ⅲ①			
教育課程概論② 保育内容概論①	保育内容概論② 保育内容（言葉・表現）②	教材研究②				
	保育内容（言葉・表現）② 保育内容（身体表現）② 保育内容（造形表現）② 保育内容（音楽表現）②	保育内容（人間関係）② 保育内容（環境）② 保育内容（健康）② 保育内容（身体表現）② 保育内容（造形表現）② 保育内容（音楽表現）②				
	演義的指導法② 初等英語科教育法②	初等英語科教育法②	初等英語科教育法② 初等社会科教育法② 初等理科教育法② 初等算数科教育法② 初等音楽科教育法② 初等生活科教育法②	初等国語科教育法② 初等国語科教育法② 初等社会科教育法② 初等理科教育法② 初等算数科教育法② 初等音楽科教育法② 初等生活科教育法②	初等国語科教育法② 初等社会科教育法② 初等理科教育法② 初等算数科教育法② 初等音楽科教育法② 初等生活科教育法②	
スポーツ実践① 子ども人間関係②	体育② 遊園工作② 子ども人間関係②	音楽② 図画② 社会② 英語② 子ども表現（音楽）②	音楽② 図画② 社会② 英語② 子ども表現②	家庭② 児童文化② 子ども音楽②		言語教育②
	幼児理解の理論と方法② 生徒・進路指導の理論と方法②					教育相談の理論と方法②
	児童キャリア教育② 自然探究・野外活動② 新制時代3E（アクロバティック）②	児童キャリア教育② 自然探究・野外活動② 学校経営の理論と方法② ICT指導法②				教育実習指導Ⅰ② 教育実習Ⅰ④
学校インターンシップⅠ① フィールドスタディーⅠ②	学校インターンシップⅠ① フィールドスタディーⅠ②	学校インターンシップⅡ① フィールドスタディーⅡ②	学校インターンシップⅡ②			教育実習指導Ⅱ① 教育実習Ⅱ④ 教育実習Ⅲ② 教育実習Ⅳ②
		短期海外研修②				
	専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ	専門演習Ⅲ	専門演習Ⅳ		卒業研究 4

# ◆基本型の履修モデル

学位：学士  
(教育学)

★主要授業科目を青フォントで表記

124 単位

【こども教育学科】令和7年度入学生用 基本型の履修モデル

	1年次		2年次		3年次		4年次		計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
学習力の養成	●利他共生 ●情報リテラシー	●データリテラシー							2
思考力の養成	★●情報リテラシー	★●データリテラシー							4
表現力の養成	●コミュニケーション英語Ⅰ ●表現技法Ⅰ (読解、分析)	●コミュニケーション英語Ⅱ ●表現技法Ⅱ (作文、論議)	●コミュニケーション英語Ⅲ ●表現技法Ⅲ (発表、討論)				1		6
社会力の養成	●自己管理と社会規範	●チームワークとリーダーシップ	●社会的活動と社会貢献 ●社会的自立Ⅰ	●他者理解と信頼関係 ●社会的自立Ⅱ					4
人間の理解	人間心理と人間行動 健康心理と身体活動	スポーツと運動科学Ⅰ							3
社会の理解	法律社会と法律問題 健康社会とアータサイエンス				日本国家と政治行政Ⅰ				3
国際の理解	国際平和と安全保障				地球環境と環境対策 世界動向と国際貢献Ⅰ				3
基礎教育科目 (小計)	11	5	4	2	3	1	0	1	27
基礎科目	★教育原理	★教育心理学							4
基礎科目	★教育概論		★特別支援教育の理解と方法		★発達心理学		★教育行政学		7
展開科目	スポーツ実技	図画工作 体育 ★教育課程論	道徳の指導法 音楽 国語 英語 社会 ★教育の方法と技術 (情報通信技術の活用含む)	初等英語科教育法 初等社会科教育法 初等算数科教育法 理科 算数 生活 ICT指導法	初等国語科教育法 初等社会科教育法 初等算数科教育法 初等理科教育法 初等生活科教育法 家庭	初等家庭科教育法 初等音楽科教育法 初等図画工作科教育法 初等体育科教育法 ★初等国語の理論と方法 教材研究			55
関連科目	健康の若人コミュニケーション能力 日本国憲法	児童キャリア教育 日本国憲法				学校の安全管理と指導			10
実習科目			★●専門演習Ⅰ	★●専門演習Ⅱ			★●専門演習Ⅳ	★●教育実習 ★●教育実習前事後指導	5
演習科目					★●専門演習Ⅲ		★●卒業研究		10
実践科目		学校インターンシップⅠ	学校インターンシップⅡ	学校インターンシップⅢ		学校インターンシップⅣ		数職インターンシップ	6
専門教育科目 (小計)	7	13	14	16	15	17	7	8	97
合計	18	18	18	18	18	18	7	9	124

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他科目は選択科目である (ただし免許・資格取得に必修となる科目は、学生選定の段階で箇所を確認すること)。  
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間割の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期についても、基本カリキュラム表通りに実施する予定ですが、年度によっては入れ替わること  
 もありますので、各年度当初に必ず確認してください。

# 10.地域創生学部

## 教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像

### ◆淑徳大学教育に関する規則(教育の基本方針)第2条

#### (9) 地域創生学部

##### ア 教育目的

地域の見方や考え方を理解させ、実践的かつ体験的な学習活動を通して、地域資源の活用による地域文化の振興や地域産業の発展を担う職業人として必要な資質や能力を身に付ける。

##### イ 人材像

我が国の地域社会に関する基礎的な知識と地域資源や資源活用に関する能力を地域文化や地域産業の諸活動の場面に適用することができる行動力をもって、地域創生を主体的かつ創造的に行うことのできる幅広い人材

## 地域創生学科

### ◆三つの方針（各学科独自設定箇所）

#### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び地域創生学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

##### 【2 地域創生学分野における知識・技能・態度】

地域創生学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、地域資源の活用に関する能力を地域文化や地域産業の諸活動に適用することができる意欲、行動力と能力を身に付けている。

- (1) 地域創生を学ぶうえでの基盤となる各分野に関する基礎的な知識を論理的に理解し、地域創生を実践するために必要な基礎的な知識を身に付けている。
- (2) 地域調査に関する知識と技法を用いて地域動向や地域事象等を的確にとらえるための基本的な分析手法や評価方法を修得している。
- (3) 地域社会や地域資源と資源活用に関する知識と能力を総合して他者と共に商品やサービスの価値の創造に取り組むことができる知識、能力と態度を身に付けている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

地域創生学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

### 【1 教育課程の編成・教育内容】

（2）地域創生の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技能を実践に応用しうる知識・技能・能力の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「専門導入科目」「専門基盤科目」「専門基礎科目」では、地域創生を学ぶ目的、地域創生の学習分野の理解及び地域創生を学ぶにあたっての基盤となる基礎的な知識を修得させる教育内容とする。

②「専門基幹科目」「専門展開科目」では、地域社会や地域事情に関する知識を修得させ、地域文化や地域産業などの地域資源を理解させる教育内容とする。

③「専門実習科目」では、地域の現状と諸課題についての認識を深め、調査活動や資源活用を主体的に行う態度を育てながら地域創生の各分野に関する能力を実践的な活動を通して総合的に修得させる教育内容とする。

④「専門研究科目」では、地域創生に関する課題の解決を図り、専門的な知識と技能の深化と創造的な能力と態度を育てる教育内容とする。

（3）科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

### 【2 教育方法】

《大学の方針に準ずる》

### 【3 教育評価】

（4）学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「卒業研究」で確認を行う。

学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

（5）学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

（6）専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

地域創生学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

### 【1 求める学生像】

（1）高等学校で履修した主要科目について、教科書レベルの基本的な知識を有している。

（2）地域社会、経済、文化に対する強い興味と関心を有し、学部教育に対する学習意欲を有している。

（3）物事を正しく認識し、自分の考えを口頭や文章で適切に表現し、他者に対して的確に伝えられる。

（4）本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがうことができる。

（5）物事に主体的に取り組み、他者と協調・協働して行動できる。

## 【2 入学者選抜の方法】

地域創生学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

## 【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

地域創生学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- (1) 「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付ける学習。
- (2) 現代社会の課題や地域経済・地域文化の問題に対する関心に基づく探究学習。
- (3) 幅広い分野に興味・関心を持ち、旺盛な学習意欲を保持すること。

## ◆カリキュラムマップ

### カリキュラムマップ 地域創生学科科目

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語と英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<地域創生学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び地域創生学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【2 地域創生学分野における知識・技能・態度】

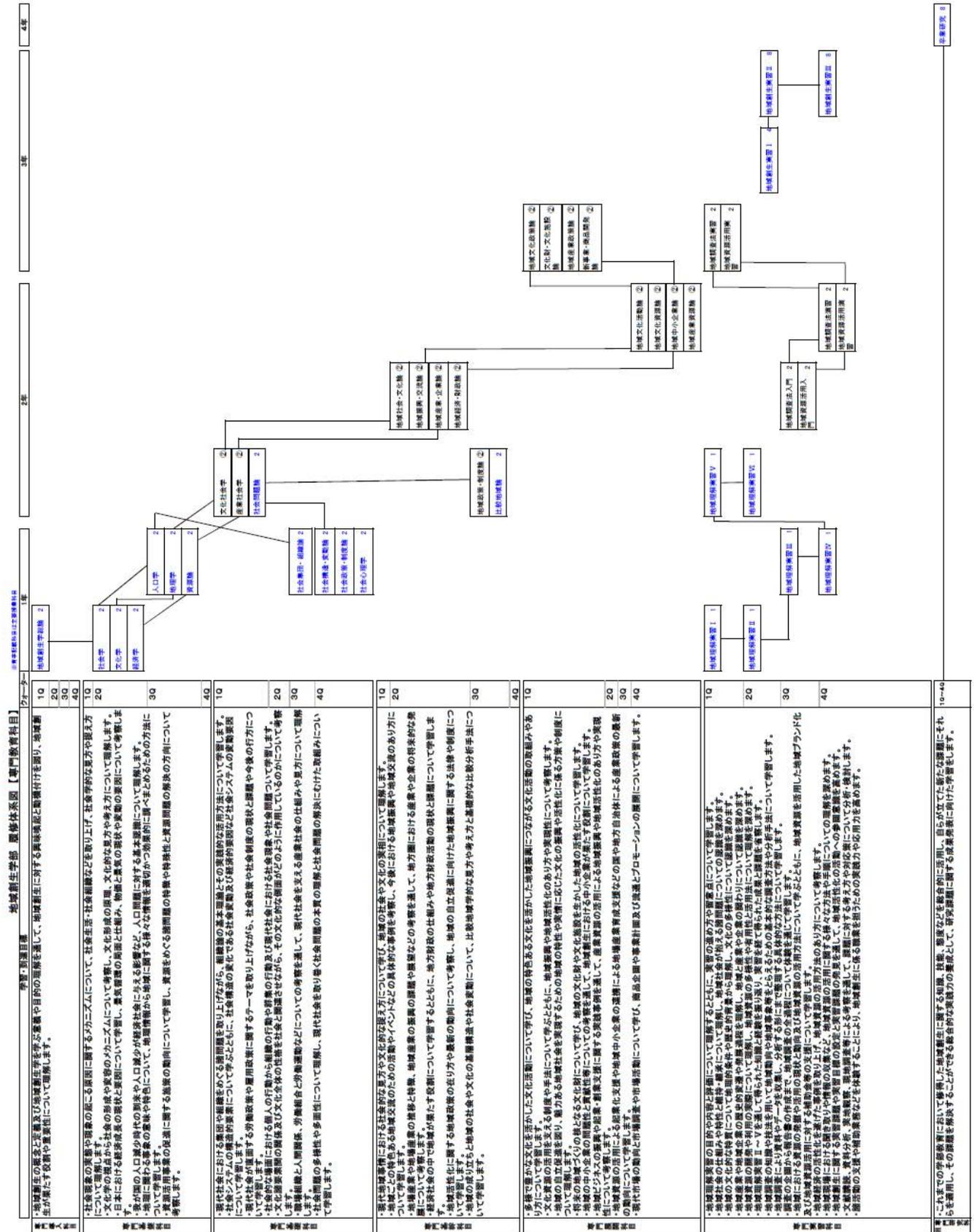
地域創生学に関する考え及び基礎知識・技能を体系的に理解し、地域資源の活用に関する能力を地域文化や地域産業の諸活動に適用することができる意欲、行動力と能力を身に付けている。

- (1) 地域創生を学ぶうえでの基盤となる各分野に関する基礎的な知識を論理的に理解し、地域創生を実践するために必要な基礎的な知識を身に付けている。
- (2) 地域調査に関する知識と技法を用いて地域動向や地域現象等を的確にとらえるための基本的な分析手法や評価方法を修得している。
- (3) 地域社会や地域資源と資源活用に関する知識と能力を総合して他者と共に商品やサービスの価値の創造に取り組むことができる知識、能力と態度を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年				2年				3年				4年				1	2			主要授業科目	
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		1	2	3		
基礎教育科目	学習力の養成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1①	1	講義・演習	●																				
		利他共生	1①	1	講義	●																				
	思考力の養成	情報リテラシー	1①	1	講義・演習	●																				★
		データリテラシー	1②	1	講義・演習		●																			★
		統計分析法	2①	1	講義・演習				○																	
		問題解決法	2②	1	講義・演習				●																	
	表現力の養成	創造思考法	4④	1	講義・演習																					★
		コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1①	1	講義・演習	●																				★
		コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1②	1	講義・演習		●																			★
		コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	1④	1	講義・演習			●																		★
		コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2①	1	講義・演習				○																	
		表現技法Ⅰ(読解・分析)	1①	1	講義・演習	●																				
		表現技法Ⅱ(作文・論文)	1④	1	講義・演習			●																		
		表現技法Ⅲ(発表・討論)	2①	1	講義・演習				●																	
		表現技法Ⅳ(企画・立案)	2②	1	講義・演習					○																
		表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3①	1	講義・演習							○														
	人間力の養成	自己管理と社会規範	1①	1	講義・FW	●																				
		チームワークとリーダーシップ	2①	1	講義・演習				●																	
		地域活動と社会貢献	2②	1	講義・FW				●																	★
他者理解と信頼関係		2②	1	講義・演習				●																		
社会力の養成	社会的・職業的自立Ⅰ	2③	1	講義・FW				●																	★	
	社会的・職業的自立Ⅱ	2④	1	講義・演習							●														★	



◆履修体系図（専門科目）





# 11.経営学部

## 教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像

### ◆淑徳大学教育に関する規則(教育の基本方針)第2条

#### (5) 経営学部

##### ア 教育目的

企業経営や観光ビジネスに必要な専門知識と技能を座学やフィールドにおける演習又は実習を通じて習得し、企業の問題を解決する能力やリーダーシップを発揮できる能力を身に付ける。

##### イ 人材像

使命感や責任感を持って主体的に行動し、グローバルな視点から地域資源を活用することで、企業や観光産業が直面している諸問題を解決し、ひいては地域社会の発展に貢献できる人材

## 経営学科

### ◆三つの方針（各学科独自設定箇所）

#### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び経営学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

##### 【2 経営学分野における知識・技能・態度】

経営学におけるマーケティングや経営管理等に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、社会の多種多様な分野で経営的知識や手法を活用する意欲や能力を身に付けている。

(1) 経営学の基礎及び各論に関する知識を体系的に修得し、マーケティングや簿記・会計等の知識・手法を身に付けている。

(2) 企業が直面している諸課題を、経営管理・マーケティングあるいは会計等の観点から総合的に分析して、課題の解決を実践する意欲や能力を身に付けている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経営学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

### 【1 教育課程の編成・教育内容】

（2）経営の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技能を実践に応用しうる技能・能力の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「導入科目」及び「基礎科目」では、経営学の基礎知識・技能の修得を教育内容とする。

②「展開科目」では、経営学の各分野を構成する各論に関する知識・技能の修得を教育内容とする。

③「演習科目」及び「実践科目」では、演習でのケーススタディや経営活動の取組みを観察・体験することにより、理論の実践への適用や経営に対する態度の育成を教育内容とする。

④「関連科目」では、国内外の地域性や経済活動等に関する知識を修得することで、そこでの企業経営の係り方を考えることを教育内容とする。

（3）科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

### 【2 教育方法】

「大学の方針に準ずる」

### 【3 教育評価】

（4）学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」で確認を行う。

学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

（5）学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経営学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

### 【1 求める学生像】

（1）高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有しており、それを用いて課題を解決することができる。

（2）経営あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かそうとする意欲を有している。

（3）本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがうことができる。

（4）各種資格の取得に向けた旺盛な意欲を持ち、不断に努力することができる。

（5）自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動することができ、物事に主体的に取り組むことができる。

## 【2 入学者選抜の方法】

経営学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

## 【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

経営学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- (1) 「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付ける学習
- (2) 幅広い分野に興味・関心を持ち、旺盛な学習意欲を保持すること。

## ◆カリキュラムマップ

### カリキュラムマップ 経営学科

< 淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) >

本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数値的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

< 経営学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) >

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び経営学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【2 経営学分野における知識・技能・態度】

経営学におけるマーケティングや経営管理等に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、社会の多種多様な分野で経営的知識や手法を活用する意欲や能力を身に付けている。

- (1) 経営学の基礎及び各論に関する知識を体系的に修得し、マーケティングや簿記・会計等の知識・手法を身に付けている。
- (2) 企業が直面している諸課題を、経営管理・マーケティングあるいは会計等の観点から総合的に分析して、課題の解決を実践する意欲や能力を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2		主要授業科目			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	1	2	3	4	5	1	2				
学習力の養成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前	1	講義・演習	●																		
	利他共生	1前	1	講義	●																		
思考力の養成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●																	★	
	データリテラシー	1後	1	講義・演習		●																	★
	統計分析法	2前	1	講義・演習			○																
	問題解決法	3後	1	講義・演習					●														
	創造思考法	4後	1	講義・演習							●												
表現力の養成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●										◎								★
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●									◎								★
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●								◎								★
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1	講義・演習				○							◎								
	表現技法Ⅰ(読解分析)	1前	1	講義・演習	●										◎								
	表現技法Ⅱ(作文論文)	1後	1	講義・演習		●									◎								
	表現技法Ⅲ(発表討論)	2前	1	講義・演習			●								◎								
	表現技法Ⅳ(企画立案)	2後	1	講義・演習				○							◎								
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3前	1	講義・演習					○						◎								
	自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW		●									◎								
人間力の養成	チームワークとリーダーシップ	1後	1	講義・演習	●										◎								
	地域活動と社会貢献	2前	1	講義・FW			●								◎								★
	他者理解と信頼関係	2後	1	講義・演習				●							◎								
社会力の養成	社会的職業的自立Ⅰ	2前	1	講義・FW			●								◎								★
	社会的職業的自立Ⅱ	2後	1	講義・演習				●							◎								★





◆ 基本型の履修モデル

学位：学士  
(経営学)

★主要授業科目を青フоновントで表記

124 単位

【経営学科】令和7年度入学生用 基本型の履修モデル

	1年次		2年次		3年次		4年次		計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
学習力の養成	1 ●他共生	1 ★グローバルリテラシー	1 統計分析法	1 ●問題解決法					2
思考力の養成	1 ★情報リテラシー	1 ★グローバルリテラシー	1 統計分析法	1 ●問題解決法	1 ●問題解決法	1 ●問題解決法			5
表現力の養成	1 ●コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1 ●コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1 ●コミュニケーション英語Ⅲ(発展)	1 ●コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	1 ●コミュニケーション英語Ⅴ(国際)	1 ●コミュニケーション英語Ⅵ(海外)			6
人間力の養成	1 ●自己管理と社会規範	1 ●チームワークとリーダーシップ	1 ●キャリアデザイン	1 ●キャリアデザイン	1 ●キャリアデザイン	1 ●キャリアデザイン			4
社会力の養成	1 ●社会と歴史文化	1 ●社会と歴史文化	1 ●社会と歴史文化	1 ●社会と歴史文化	1 ●社会と歴史文化	1 ●社会と歴史文化			2
人間の理解	1 健康と身体活動	1 健康と身体活動	1 健康と身体活動	1 健康と身体活動	1 健康と身体活動	1 健康と身体活動			3
社会の理解	1 国際社会と国際問題	1 国際社会と国際問題	1 国際社会と国際問題	1 国際社会と国際問題	1 国際社会と国際問題	1 国際社会と国際問題			3
国際の理解	1 国際社会と国際問題	1 国際社会と国際問題	1 国際社会と国際問題	1 国際社会と国際問題	1 国際社会と国際問題	1 国際社会と国際問題			2
基礎教育科目 (小計)	11	6	6	2	0	1	0	1	27
専門教育科目	1 ●経営学概論	2 ●経営学概論	2 ●経営学概論	2 ●経営学概論	2 ●経営学概論	2 ●経営学概論	2 ●経営学概論	2 ●経営学概論	5
導入科目	1 ●経営学概論	2 ●経営学概論	2 ●経営学概論	2 ●経営学概論	2 ●経営学概論	2 ●経営学概論	2 ●経営学概論	2 ●経営学概論	8
基礎科目	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	18
経営学分野	2 ●経営学総論	2 ●経営学総論	2 ●経営学総論	2 ●経営学総論	2 ●経営学総論	2 ●経営学総論	2 ●経営学総論	2 ●経営学総論	10
展開科目	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	12
専門教育科目	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	14
関連科目	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	6
演習科目	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	12
実践科目	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	2 ●マーケティング総論	12
専門教育科目 (小計)	7	12	11	15	18	16	10	8	97
合計	18	18	17	17	18	17	10	9	124

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他の科目は選択科目である(ただし免許・資格取得に必修となる科目は、学生便覧の該当箇所を確認すること)。  
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間制の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期についても、基本カリキュラム表通りに実施する予定ですが、年度によっては入れ替わることもあり、各年度当初に必ず確認してください。

# 観光経営学科

## ◆三つの方針（各学科独自設定箇所）

### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び観光経営学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

#### 【2 観光経営学分野における知識・技能・態度】

観光経営学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、社会の多種多様な実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。

(1) 経営学及び観光産業に関する基本的かつ体系的な知識・技能を身に付けている。

(2) 観光産業等が直面している諸課題を、経営学・観光学等の観点から総合的に分析して、課題の解決を実践する意欲や能力を身に付けている。

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

観光経営学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

#### 【1 教育課程の編成・教育内容】

(2) 観光経営の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技能を実践に応用しうる知識・技能・態度の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「導入科目」及び「基礎科目」では、経営学や関連する観光学・観光産業論の基礎知識・技能の修得を教育内容とする。

②「展開科目」では、経営学、観光学・観光産業論の各分野を構成する各論に関する知識・技能の修得を教育内容とする。

③「演習科目」及び「実践科目」では、演習でのケーススタディや観光産業の経営活動の取り組みを観察・体験することにより、理論の実践への適用や観光産業の経営に対する態度の育成を教育内容とする。

④「関連科目」では国内外の地域経済活動等と観光英語に関する知識を修得することで、そこでの企業経営の係り方を考えることを教育内容とする。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

#### 【2 教育方法】

《大学の方針に準ずる》

#### 【3 教育評価】

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識・技能・態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」で確認を行う。

学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

観光経営学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

### 【1 求める学生像】

- (1) 高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有しており、それを用いて課題を解決することができる。
- (2) 観光経営あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かそうとする意欲を有している。
- (3) 本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがうことができる。
- (4) 各種資格の取得に向けた旺盛な意欲を持ち、不断に努力することができる。
- (5) 自分の考えを、口頭や文章で適切に表現するコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動することができ、物事に主体的に取り組むことができる。

### 【2 入学者選抜の方法】

観光経営学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

### 【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

観光経営学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- (1) 「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付ける学習
- (2) 幅広い分野に興味・関心を持ち、旺盛な学習意欲を保持すること。

## ◆カリキュラムマップ

### カリキュラムマップ 観光経営学科科目

<p>&lt;淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)&gt;          本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】</p> <p>(1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。          (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。          (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。          (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。          (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。</p> <p>【2 専門教育分野における知識・技能・態度】</p> <p>(1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。          (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。</p>	
<p>&lt;観光経営学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)&gt;          学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び観光経営学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>【2 観光経営学分野における知識・技能・態度】</p> <p>観光経営学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、社会の多種多様な実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。          (1) 経営学及び観光産業に関する基本的かつ体系的な知識・技能を身に付けている。          (2) 観光産業等が直面している諸課題を、経営学・観光学等の観点から総合的に分析して、課題の解決を実践する意欲や能力を身に付けている。</p>	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2			主要授業科目			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	1	2	3	4	5	1	2					
基礎	学習力の養成 利他共生	1前	1	講義	●																			
	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●																			★
基礎	思考力の養成 データリテラシー	1後	1	講義・演習		●																		★
	統計分析法	2前	1	講義・演習			○																	
基礎	問題解決法	3後	1	講義・演習				●																
	創造思考法	4後	1	講義・演習						●														★
基礎	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●																			★
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●																		★
基礎	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●																	★
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1	講義・演習				○																
基礎	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●																			
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●																		
基礎	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●																	
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1	講義・演習				○																
基礎	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3前	1	講義・演習					○															
	自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW		●																		
基礎	人間力の養成 チームワークとリーダーシップ	1後	1	講義・演習	●																			
	地域活動と社会貢献	2前	1	講義・FW			●																	★
基礎	他者理解と信頼関係	2後	1	講義・演習				●																
	社会的職業的自立Ⅰ	2前	1	講義・FW			●																	★
基礎	社会的職業的自立Ⅱ	2後	1	講義・演習				●																★

科 目	人間の理解	人間心理と人間行動	1-2-3-4前	1	講義・演習	○	○	○	○	○		◎						
		現代家族と育児介護	2-3-4前	1	講義			○	○	○			◎					
		健康管理と身体活動	1-2-3-4前	1	講義・実技	○	○	○	○	○			◎					
		スポーツと運動科学	1-2-3-4後	1	講義・演習		○	○	○	○	○		◎					
		日本社会と歴史文化	1-2-3-4後	1	講義・FW		○		○	○	○		◎					
		生命科学と物理化学	2-3-4後	1	講義・実験			○	○	○	○		◎					
		情報社会とデータサイエンス	1-2-3-4前	1	講義	○	○	○	○	○	○		◎					
		法律社会と法律問題	1-2-3-4前	1	講義	○	○	○	○	○	○		◎					
		福祉政策と福祉制度	1-2-3-4前	1	講義	○	○	○	○	○	○		◎					
		日本国家と政治行政	2-3-4前	1	講義			○	○	○	○		◎					
		経済構造と経済政策	1-2-3-4後	1	講義		○	○	○	○	○		◎					
		現代医療と生命倫理	2-3-4後	1	講義				○	○	○		◎					
		国際社会と国際問題	1-2-3-4前	1	講義	○	○	○	○	○	○		◎					
		世界宗教と民族問題	1-2-3-4後	1	講義		○	○	○	○	○		◎					
		世界動向と国際貢献	1-2-3-4前	1	講義	○	○	○	○	○	○		◎					
	国際平和と安全保障	1-2-3-4後	1	講義		○	○	○	○	○		◎						
	国際関係と日本外交	2-3-4後	1	講義			○	○	○	○		◎						
	地球環境と環境対策	2-3-4前	1	講義			○	○	○	○		◎						
	専 門 教 育 科 目	導入科目	アカデミックライティングⅠ(経営演習基礎Ⅰ)	1前	1	演習	●							◎	◎	★		
			アカデミックライティングⅡ(経営演習基礎Ⅱ)	1後	2	演習		●							◎	◎	★	
		基礎科目	観光経営学入門	1前	2	講義	●								◎		★	
経営学総論			1-2-3-4後	2	講義		○	○	○	○	○			◎		★		
観光学総論			1-2-3-4前	2	講義	○	○	○	○	○	○			◎		★		
観光産業総論			2-3-4前	2	講義			○	○	○	○			◎		★		
会計学総論			1-2-3-4前	2	講義		○	○	○	○	○			◎		★		
経営学 分野			経営組織論	2-3-4後	2	講義			○	○	○	○			◎		★	
			CSR論	3-4後	2	講義			○	○	○	○			◎		★	
			国際経営論	2-3-4前	2	講義		○	○	○	○	○			◎		★	
			経営戦略論	2-3-4後	2	講義			○	○	○	○			◎		★	
			ベンチャー起業論	3-4後	2	講義				○	○	○			◎		★	
			エコビジネス論	3-4前	2	講義				○	○	○			◎		★	
			人材開発論	3-4前	2	講義				○	○	○			◎		★	
			中小企業論	2-3-4前	2	講義		○	○	○	○	○			◎		★	
			会計・ ファイ ナンス 分野	簿記Ⅰ	1-2-3-4後	2	講義		○	○	○	○	○			◎		★
				簿記Ⅱ	2-3-4前	2	講義		○	○	○	○	○			◎		★
財務会計論		2-3-4前		2	講義			○	○	○	○			◎		★		
管理会計論		3-4前		2	講義				○	○	○			◎		★		
コーポレートファイナンス		3-4後		2	講義				○	○	○			◎		★		
デー タサイ エ 分野		会計データ分析Ⅰ	2-3-4後	2	講義				○	○	○			◎		★		
		会計データ分析Ⅱ	3-4前	2	講義				○	○	○			◎		★		
		データアナリシスⅠ	2-3-4前	2	演習			○	○	○	○		◎		★			
		データアナリシスⅡ	2-3-4後	2	講義			○	○	○	○		◎		★			
		情報デザイン	2-3-4前	2	講義			○	○	○	○		◎		★			
専 門 目		観光学 分野	観光政策論	2-3-4前	2	講義		○	○	○	○			◎		★		
			観光地経営論	3-4後	2	講義				○	○	○			◎		★	
			アクセシブルツーリズム論	3-4後	2	講義				○	○	○			◎		★	
			サステイナブルツーリズム論	3-4前	2	講義				○	○	○			◎		★	
			観光地理国内	2-3-4前	2	講義			○	○	○	○			◎		★	
			観光地理海外	2-3-4後	2	講義			○	○	○	○			◎		★	
			世界遺産研究	2-3-4後	2	講義			○	○	○	○			◎		★	
			観光文化論	2-3-4後	2	講義			○	○	○	○			◎		★	
			国際観光論	3-4後	2	講義				○	○	○			◎		★	
			観光資源論	1-2-3-4前	2	講義	○	○	○	○	○	○			◎		★	
	地域振興論		2-3-4前	2	講義		○	○	○	○	○			◎		★		
	観光経済論		3-4前	2	講義				○	○	○			◎		★		
	交通ビジネス論		2-3-4前	2	講義		○	○	○	○	○			◎		★		
	旅行ビジネス論		2-3-4前	2	講義		○	○	○	○	○			◎		★		
	エアラインビジネス論		2-3-4後	2	講義				○	○	○			◎		★		
	ホテルビジネス論	2-3-4後	2	講義			○	○	○	○			◎		★			
	ブライダルビジネス論	2-3-4後	2	講義			○	○	○	○			◎		★			
	レジャーリゾートビジネス論	2-3-4前	2	講義		○	○	○	○	○			◎		★			
	ホスピタリティリーダーシップ	3-4後	2	講義				○	○	○			◎		★			
	MICE産業論	3-4後	2	講義			○	○	○	○			◎		★			
	観光マーケティング	3-4前	2	講義			○	○	○	○			◎		★			
	ビジネスイングリッシュ	2-3-4前	2	講義		○	○	○	○	○			◎		★			
	関連科目	マーケティング戦略	1-2-3-4後	2	講義		○	○	○	○	○			◎		★		
		国際マーケティング	3-4後	2	講義				○	○	○			◎		★		
		サービスマーケティング	3-4前	2	講義				○	○	○			◎		★		
		広告論	2-3-4後	2	講義			○	○	○	○			◎		★		
		消費者行動論	2-3-4前	2	講義			○	○	○	○			◎		★		
		観光経営専門演習Ⅰ	2前	2	演習		●							◎		★		
		観光経営専門演習Ⅱ	2後	2	演習			●						◎		★		
		観光経営専門演習Ⅲ	3前	2	演習				●					◎		★		
観光経営専門演習Ⅳ		3後	2	演習					●				◎		★			
卒業研究Ⅰ		4前	2	演習					●				◎		★			
卒業研究Ⅱ	4後	2	演習						●			◎		★				
実践科目	観光経営実践入門	1後	2	演習		●							◎		★			
	観光経営実践Ⅰ	3-4前	2	講義				○	○	○			◎		★			
	観光経営実践Ⅱ	3-4後	2	講義				○	○	○			◎		★			
	プロジェクト実践Ⅰ(SLDP)	1前	2	演習	○							◎		★				
	プロジェクト実践Ⅱ(SLDP)	1後	2	演習		○						◎		★				
	ポランティア研修	2-3-4前後	2	実習			○	○	○	○			◎		★			
	インターシップ(事前事後指導を含む)	2通	2	実習			○	○	○	○			◎		★			
短期海外研修	2後	2	講義			○	○	○	○			◎		★				

# ◆履修体系図（専門科目）

## 経営学部 観光経営学科 専門教育科目 体系図

※青字記載科目は主要授業科目

科目別の学習目標・到達目標	1年		2年		3年		4年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
<p><b>■観光学分野における基本的な思考プロセスを理解する</b></p> <p>・大学の学習およびその延長線上にある社会生活では、知識の蓄積に加え、知識を創り活用する技能が要求されることを理解し、大学での学びを一通り学習します。</p> <p>・観光経営学の各科目を卒業するにあたり、事前に観光経営学の各科目の基礎知識を修得します。</p> <p>・歴史・地理の基礎知識(基礎)と前期から期末までの流れ(導軌)の一環として、会計学の基礎知識を学習します。</p>	観光経営学入門 ②	会計学基礎 ②						
<p><b>■観光学を構成する各学期分野について理解する</b></p> <p>専門教育を体系的に学習するうえでの基礎となる各級修得を学びます。</p> <p>・観光学分野の基礎的な概念を理解し、専門的なカリキュラムに進むために必要な知識、技能、能力を身に付けます。</p> <p>・観光学についての基礎的な知識の習得を通じて、観光の意義や実態を理解します。</p> <p>・代表的な観光企業の実例を学ぶこと、観光産業の関連、仕組み、その特性を理解し、観光産業の今後の発展、持続可能性を考察します。</p> <p>・社会的行動への理解を深め、社会の公認であるべき企業の経営にそれがどのよかに活かされているのかを知り、それを基礎とした日本企業の実例やその業績を学習します。</p>	観光学基礎 ②		観光産業概論 ②					
<p><b>■観光学分野の体系分類について学習する</b></p> <p>・企業を主とした社会の中の組織イメージをできるようにし、社会システムの基本、働くことの基本、経営用語、組織用語の基本などを理解し、組織の中の個人、組織個人の関係性を考える機会になり、具体的なイメージができるようになります。</p> <p>・実際の企業の事例から経営戦略を把握し、その内容を分析し、それを総合的に解決するための能力を身に付けます。</p> <p>・企業の国際経営活動を進める様々なビジネス課題を経営理論や事例を通じて学習し、国際経営についての様々な問題を体系的に分析します。</p> <p>・マーケティング論の基本的内容を理解することにより、現在企業がマーケティングをどのように実践しているかを理解します。さらに、サービス化が進展する現代の経済社会の仕組みと、サービスマーケティングにかかわる様々な機会や関係性を理解します。</p> <p>・企業におけるメディアを通じたPRを具体的に学びます。</p> <p>・企業と利害関係者の関係性を理解した上で、社会に対する企業の社会的責任の意義を論理的に分析します。</p>			経営組織論 ②	経営戦略論 ②	国際経営論 ②	CSR論 ②		
<p><b>■会計・情報学分野の体系分類について学習する</b></p> <p>・企業における簿記の基礎から、特に応用範囲の広い商業簿記の基礎について理解をすすめ、基本的な仕訳ができるようになります。</p> <p>・財務諸表の仕組みについて理解し、会計数値を用いて経営分析する方法を学びます。</p> <p>・ホテル企業で実践されている経営指標や会計手法について学び、将来ホテルのマネジメントとして必要な経営指標が与える影響の基礎知識を修得します。</p> <p>・デジタル形式の情報を中心として、それらを処理する情報通信技術の考え方や特徴を理解し、現在の情報社会への影響と可能性を考えます。</p>	簿記I ②		簿記II ②	財務会計論 ②				
<p><b>■観光学分野の体系分類について学習する</b></p> <p>・日本の観光政策、地域の観光行政の基礎を学び、国や地方が観光政策になぜ取り組むのかを理解します。</p> <p>・国際的な観光と訪日観光の動向、訪日客の消費動向とそれをもたらす経済効果について学びます。</p> <p>・実績を挙げている観光地・地域の何が観光客を惹きつけているのか、また海外における日本人旅行客数の増減を学びます。</p> <p>・日本全国の代表的な観光地と観光資源の位置・特徴を把握します。また、日本人旅行者に人気の高い旅行先・国の地帯について学び、基本的な知識を身に付けます。</p> <p>・観光が観光地の社会・文化にどのような影響を与えているのか、また、世界遺産制度を継承するとともに、世界遺産に対する脅威とその対策について理解します。</p> <p>・日本の地域およびヨーロッパや北米地域の個々の暮らしや歴史・文化に理解を深め、文化観光資源の知識を習得し、観光を通じて活用できる意義を考察します。</p> <p>・産業、人口、グローバル等の視点から地域経済の現状と課題を把握し、国や自治体による政策の現れと課題解決に向けた地域の取組方について理解します。</p>	観光資源論 ②		観光立国論 ②	観光立国論 ②	観光立国論 ②			
<p><b>■観光学分野の体系分類について学習する</b></p> <p>・旅行ビジネスや交通ビジネスの歴史的背景、現在の産業モデル、関連法令について基礎知識を習得します。</p> <p>・旅行業法および乗務旅行業約款を基本とする規定について学びます。</p> <p>・観光と経済のつながりについて、統計データを用いて理解します。</p> <p>・ホテル、エアライン、レジャー、ライド、各種ビジネスの基礎知識を習得します。</p> <p>・実践的なインシデント対応の実施をするために、企業運営までプロセスを学習します。</p> <p>・観光における安全の大切さを理解し、リスクマネジメントの基礎知識と実態を習得します。</p>				観光立国論 ②	観光立国論 ②			
<p><b>■政治・経済・社会・企業経営等に関連する知識を修得する</b></p> <p>知識を修得する経営学と学ぶうえで必要とされる経済学関係科目、企業における人間関係を理解し、コミュニケーション能力を修得します。</p> <p>・観光地でのシフトや場所など、目的を絞り込んで学習することで、効果的に英会話を習得します。</p> <p>・観光の日本経済のキーワードを手帳から日本経済の現状について理解し、経済における法律の基本的な意義を理解します。</p> <p>・アジア地域の経済事情および経営特徴について学習します。</p> <p>・現在の働く環境を理解し、社会的・職業的自立に向けて必要な知識と能力を身に付けます。</p>				観光立国論 ②	観光立国論 ②			
<p><b>■自ら課題を発見し、課題を解決する能力を修得する</b></p> <p>グループ討議、事例研究、現地調査などの実践的な授業方法により、専門科目の各分野で学んだ知識・技能を統合し、総合的な応用能力を修得するとともに、業務遂行のための実践的な手法を身に付けます。</p> <p>・学修のテーマを決定し、資料収集しながらグループ討議を行い、プレゼンテーション能力を向上させます。</p> <p>・提示されたテーマについて、学修した手法を活用し、調査研究をします。</p>								
<p><b>■実践的に学習するシステムを構築する</b></p> <p>理論のみならず具体的な実行力を伴った人材となるため、理論と実践の有機な結合により、産学で得た知識を基に、経営活動の現場を模擬、現場で体験し、成果を報告します。</p> <p>・観光産業のしめこみを理解し、様々な具体事例について学びます。</p> <p>・インターンシップを通じて観光業界に関する知識を修得し、キャリア形成に結びつけます。</p> <p>・他国の社会や文化、宗教等を体験・学習することで、ビジネスのグローバル化に対応できるマナーや対人能力といった社会常識を身に付けます。</p> <p>・課内の自治体、学校、組織において、実務者が自主的かつ積極的ボランティア活動に参加し、地域社会への貢献を通じてボランティアの心構えを体得します。</p> <p>・質的研究法としてのフィールドワークの手法を学びながら地域の企業活動を調査研究します。</p>	観光経営実践入門 ②							

◆ 基本型の履修モデル

【観光経営学科】令和7年度入学生用 基本型の履修モデル

124 単位

★主要授業科目を青フオンで表記

学位：学士  
(観光経営学)

	1年次		2年次		3年次		4年次		計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
学習力の養成	●他者共創 1	●情報リテラシー 1				●問題解決法 1		●前通考法 1	2
思考力の養成	●批判的思考力(基礎) 1	●批判的思考力(応用) 1	●実践的英語(授業・討論) 1						4
表現力の養成	●実践的英語(基礎・応用) 1	●実践的英語Ⅱ(作文・論文) 1							6
人間力の養成	●自己管理と社会規範 1	●チームワークとリーダーシップ 1			●他者理解と信頼関係 1				4
社会力の養成			●社会的・職業的自立Ⅰ 1	●社会的・職業的自立Ⅱ 1					2
人間の理解	健康管理と身体活動 1	日本社会と歴史文化 1							3
社会の理解	スポーツと運動科学 1	福祉政策と福祉制度 1							3
国際の理解	国際社会と国際問題 1	経済構造と経済政策 1	国際社会と国際問題 1	国際平和と安全保障 1					3
基礎教育科目(小計)	10	8	4	3	0	1	0	1	27
導入科目	●アカデミックライティングⅠ 1 Ⅱ 1 (観光経営専攻)	●アカデミックライティングⅡ 1 (観光経営専攻)							5
基礎科目	●観光経営学入門 2	●経営学総論 2	●観光産業総論 2						6
経営学分野		簿記Ⅰ 2	簿記Ⅱ 2		人材開発論 2 エコビジネス論 2	ベンチャー起業論 2 国際経営論 2	中小企業論 2 国際経営論 2	経営戦略論 2 CSR論 2	14
展開科目									4
観光学分野	●観光資源論 2		●観光地理国内 2	●観光地理海外 2 世界遺産研究 2		●観光地経営論 2 ●アタラシイ観光・ツーリズム論 2	●観光地経営論 2 ●地域振興論 2		20
観光産業分野			●旅行ビジネス論 2 交通ビジネス論 2	●デジタル・ビジネス論 2 ●ホテル・ビジネス論 2		●観光マーケティングⅡ 2 ●観光マーケティングⅢ 2	●国際観光論 2 ●ホスピタリティ・マーケティングⅡ 2		16
関連科目		マーケティング戦略 2			サービスマーケティング 2 消費者行動論 2	国際マーケティング 2	ビジネス・イングリッシュ 2		10
演習科目			●観光経営専門演習Ⅰ 2	●観光経営専門演習Ⅱ 2	●観光経営専門演習Ⅲ 2	●観光経営専門演習Ⅳ 2	●卒業研究Ⅰ 2	●卒業研究Ⅱ 2	12
実践科目	●観光経営実践入門 2		インターンシップ(事前事後指導を含む) 2	短期海外研修 2	観光経営実践Ⅰ 2	観光経営実践Ⅱ 2			10
専門教育科目(小計)	7	10	13	15	18	16	12	6	97
合計	17	18	17	18	18	17	12	7	124

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他科目は選択科目である(ただし免許・資格取得に必修となる科目は、学生便覧の該当箇所を確認すること)。  
※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間割の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期についても、基本カリキュラム表通りに実施する予定ですが、年度によっては入れ替わること  
もありませんので、各年度当初に必ず確認してください。

## 12.人文学部

### 教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像

#### ◆淑徳大学教育に関する規則(教育の基本方針)第2条

##### (7) 人文学部

##### ア 教育目的

人類が創出した言語による表現と人類が積み重ねてきた歴史を柱とする人間の所産に関する教育研究を通じて、幅広い基礎的な研究を展開することにより、新しい知識を創造するとともに、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を身に付ける。

##### イ 人材像

理論的な知識や能力を基礎として、実際にそれらを応用する能力と課題に対する柔軟な思考力や深い洞察に基づく主体的な行動力を身に付けて、社会に広く貢献できる人材

## 歴史学科

#### ◆三つの方針（各学科独自設定箇所）

#### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び歴史学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

##### 【2 歴史学分野における知識・技能・態度】

歴史学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、地域社会・国際社会などさまざまな場で活用する技能・能力を身に付けている。

- (1) 歴史学の学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 歴史分野における体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を身に付けている。

#### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

歴史学科では、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

##### 【1 教育課程の編成・教育内容】

(2) 歴史の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の体系的修得に加えて、それらを実践に応用する知識・技能・態度の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「基礎科目」では、歴史分野の基本的思考様式と基礎知識を理解し、調査研究における基礎知識と技法の修得を教育内容とする。

②「基幹科目」では、日本史・東洋史に関する知識・技能・態度の育成を教育内容とする。

③「展開科目」では、歴史の体系全般について、日本史・東洋史の2分野における知識と技能の修得を教育内容とする。

④「演習科目」及び「関連科目」では、歴史分野での課題学修を総合的に行うとともに、歴史学に隣接する分野に関する知識の修得を教育内容とする。

⑤教員免許あるいは学芸員資格取得に係る科目は、別途に配置する。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

## 【2 教育方法】

≪大学の方針に準ずる≫

## 【3 教育評価】

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「歴史専門演習Ⅶ」で確認を行う。

学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

(6) 専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

歴史学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

### 【1 求める学生像】

- ・高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有し、課題を解くことができる。
- ・歴史あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを社会で生かす意欲を有している。
- ・本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがわれる。
- ・免許・資格の取得に向け、高い意欲と絶えざる努力ができる態度を有している。
- ・自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に取り組むことができる。

### 【2 入学者選抜の方法】

歴史学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文

- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

### 【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

歴史学科における学修への円滑な移行が可能になるよう、次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- ・「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付けている。
- ・歴史を中心に幅広い分野に興味・関心を持ち、また高い学習への意欲を持っている。

## ◆カリキュラムマップ

### カリキュラムマップ 歴史学科科目

< 淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) >  
 本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数論的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

---

< 歴史学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) >  
 学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び歴史学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【2 歴史学分野における知識・技能・態度】

歴史学に関する考え及び基礎知識・技能を体系的に理解し、地域社会・国際社会などさまざまな場で活用する技能・能力を身に付けている。

- (1) 歴史学の学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 歴史学分野における体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年				2年				3年				4年				1					2		主要修業科目												
					前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		1	2	3	4	5	1	2													
学習力の養成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前※集中	1	講義・演習	●																																			
	利他共生	1前	1	講義	●																																			
思考力の養成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●																																		★	
	データリテラシー	1後	1	講義・演習		●																																	★	
	統計分析法	2前	1	講義・演習			○																																	
	問題解決法	3後	1	講義・演習								●																												
	創造思考法	4後	1	講義・演習																																			★	
表現力の養成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●																																		★	
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●																																	★	
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●																																	★
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1	講義・演習									○																											
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●																																			
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●																																		
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●																																	
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1	講義・演習									○																											



関連科目	社会科学教育法Ⅰ	3前	4	講義						○	○										◎	
	社会科学教育法Ⅱ	3後	4	講義							○	○									◎	
	地理歴史科教育法	3前	4	講義							○	○									◎	
	教育方法論(情報通信技術の活用を含む)	2後	2	講義					○	○	○	○									◎	
	道徳の指導法	2前	2	講義				○			○	○									◎	
	総合的な学習の時間の指導法	2前	2	講義				○			○	○									◎	
	特別活動の指導法	3後	2	講義									○	○							◎	
	生徒進路指導の理論と方法	3後	2	講義										○	○						◎	
	教育相談の理論と方法	3前	2	講義							○										◎	
	教育実習事前事後指導	4前	1	演習																	◎	
	教育実習(中高)	4前	4	実習																	◎	
	教育実習(高)	4前	2	実習																	◎	
	教職実践演習(中高)	4後	2	演習																	◎	
	日本国憲法	2前	2	講義				○			○										◎	
	生涯学習概論	1後	2	講義				○			○										◎	
	博物館概論	1後	2	講義				○			○										◎	
	博物館経営論	3後	2	講義									○	○							◎	
	博物館資料論	2前	2	講義							○										◎	
	博物館資料保存論	2後	2	講義								○									◎	
	博物館展示論	3前	2	講義									○	○							◎	
博物館教育論	2後	2	講義								○									◎		
博物館情報・メディア論	3前	2	講義									○								◎		
博物館実習	4前	3	実習										○	○						◎		
演習科目	歴史専門演習Ⅰ	1後	1	演習	●																◎ ★	
	歴史専門演習Ⅱ	2前	1	演習		●																◎ ★
	歴史専門演習Ⅲ	2後	1	演習			●															◎ ★
	歴史専門演習Ⅳ	3前	1	演習				●														◎ ★
	歴史専門演習Ⅴ	3後	1	演習					●													◎ ★
	歴史専門演習Ⅵ	4前	1	演習						●												◎ ★
	歴史専門演習Ⅶ	4後	1	演習							●											◎ ★

### ◆履修体系図(専門科目)

#### 歴史学科 専門教育科目 体系図

※青字記載科目は主要授業科目

#### 科目群の学習目標・到達目標

<p>■歴史学の概念及び存在意義について学ぶ ・歴史学の基本的な思考様式と知識が理解できている。 ・歴史学の学問の体系と存在意義が理解できている。</p>	<p>歴史学入門 ②</p> <p>歴史学概論 ②</p>
<p>■歴史学に関する専門的知識の習得のために必要とされる調査方法・研究方法を学ぶ ・歴史学研究の前提となる文献収集のスキルが身についている。 ・歴史学研究の前提となる参考文献のまとめ方が身についている。 ・歴史学研究の基礎である史料の解釈解釈のスキルが身についている。</p>	<p>歴史調査法 ②</p> <p>歴史比較法 ②</p>
<p>■日本・アジア・ヨーロッパの各地域の大きな歴史の流れを学ぶ ・日本史全体の流れについて、各時代の特色を踏まえながら理解できる。 ・東洋史全体の流れについて、各地域・各時代の特色を踏まえながら理解できる。 ・西洋史全体の流れについて、各地域・各時代の特色を踏まえながら理解できる。</p>	<p>日本史概論 ④</p> <p>東洋史概論 ④</p> <p>西洋史概論 ④</p>
<p>■日本の歴史を時代区分によって学ぶ ・日本古代史全体の流れについて、前期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。 ・日本中世史全体の流れについて、中期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。 ・日本近世史全体の流れについて、後期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。 ・日本とアジアにおける近代史全体の流れについて、前期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。 ・日本とアジアにおける現代史全体の流れについて、後期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。</p>	<p>日本古代史 ②</p> <p>日本中世史 ②</p> <p>日本近世史 ②</p> <p>近代史 ②</p> <p>現代史 ②</p>
<p>■日本の各時代について、特定のテーマを設定しより深く学ぶ ・日本古代史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・日本中世史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・日本近世史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・日本とアジアの近代史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・日本とアジアの現代史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。</p>	<p>日本史研究Ⅰ(古代) ②</p> <p>日本史研究Ⅱ(中世) ②</p> <p>日本史研究Ⅲ(近世) ②</p> <p>近代史研究 ②</p> <p>現代史研究 ②</p>
<p>■日本史の史料の解釈を通して時代ごとの歴史的な事実を学ぶ ・日本古代史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の解釈方法が身についている。 ・日本中世史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の解釈方法が身についている。 ・日本近世史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の解釈方法が身についている。 ・日本とアジアの近代史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の解釈方法が身についている。 ・日本とアジアの現代史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の解釈方法が身についている。</p>	<p>日本史演習Ⅰ(古代) ②</p> <p>日本史演習Ⅱ(中世) ②</p> <p>日本史演習Ⅲ(近世) ②</p> <p>近代史演習 ②</p> <p>現代史演習 ②</p>
<p>■アジアの歴史を地域区分によって学ぶ</p>	<p>東洋史Ⅰ(東アジア) ②</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>東アジア史全体の流れについて、前期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。</li> <li>内陸アジア史全体の歴史の流れについて、前期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。</li> <li>海域アジア史全体の流れについて、前期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>東洋史Ⅱ(内陸アジア)②</li> <li>東洋史Ⅲ(海域アジア)②</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>東アジアの各地域の歴史について、特定のテーマを設定しより深く学ぶ</li> <li>東アジア史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。</li> <li>内陸アジア史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。</li> <li>海域アジア史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>東洋史研究Ⅰ(東アジア)②</li> <li>東洋史研究Ⅱ(内陸アジア)②</li> <li>東洋史研究Ⅲ(海域アジア)②</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>東洋史の史料の読解を通して各地域の歴史的事象を学ぶ</li> <li>東アジア史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身につく。</li> <li>内陸アジア史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身につく。</li> <li>海域アジア史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身につく。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>東洋史演習Ⅰ(東アジア)②</li> <li>東洋史演習Ⅱ(内陸アジア)②</li> <li>東洋史演習Ⅲ(海域アジア)②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本農学史②</li> <li>日本思想史②</li> <li>東洋美術史②</li> <li>東洋思想史②</li> <li>日本書信学②</li> <li>考古学演習②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民俗学概論②</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>文化・生活・宗教・産業などの歴史について、文献史料以外の資料を用いながら深く学ぶ</li> <li>文化・生活・宗教・産業などの歴史について、政治・社会・経済・対外関係などの歴史との関わりを通して理解することができる。</li> <li>文献史料以外の資料を援用して各地域・各時代の歴史像を総合的に理解することができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>仏教文化史②</li> <li>日本宗教史②</li> <li>日本地域史②</li> <li>日本女性史②</li> <li>仏教史概論②</li> <li>東洋美術史②</li> <li>東洋思想史②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宗教学概論②</li> <li>日本書信学②</li> <li>考古学演習②</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史学と深い関係にある隣接分野を学ぶことで、歴史学を広い視野から捉え直す</li> <li>歴史学に隣接する隣分野の研究成果を援用して、各地域・各時代の歴史像を総合的に理解することができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>社会学概論②</li> <li>法社会学概論②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宗教学概論②</li> <li>人類地理学②</li> <li>自然地理学②</li> <li>地誌学②</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な地域・分野の歴史研究をおこなう上で不可欠な基礎的調査方法について学ぶ</li> <li>現地において資料や情報の収集を行うことができるスキルが身につく。</li> <li>調査結果にもとづき文献検討や資料分析ができる能力が身につく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史専門演習Ⅰ①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史フィールド実習①</li> <li>歴史専門演習Ⅱ①</li> <li>歴史専門演習Ⅲ①</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>留学生自身が研究課題に則した研究計画を立案し、史料の収集・分析・報告のプロセスを経て研究を完成させる</li> <li>歴史学の分野において、自らが生じた課題の解決に向け、今までに学んだ知識・技能を組み合わせて課題を解決することができる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史専門演習Ⅳ①</li> <li>歴史専門演習Ⅴ①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史専門演習Ⅵ①</li> <li>歴史専門演習Ⅶ①</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>教職に必要な基礎的知識を学ぶ</li> <li>教職教養の基礎となる基礎的知識について、教育学及び心理学の知見を踏まえ理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職概論②</li> <li>教育行政学②</li> <li>教育原理②</li> <li>教育心理学②</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>教育思想の発展と方法②</li> <li>教育課程論②</li> <li>社会科教育法Ⅰ④</li> <li>特別活動の指導法②</li> <li>地理歴史科教育法④</li> <li>社会科教育法Ⅱ④</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育実習(中・高)</li> <li>教職実践演習②</li> <li>教育実習(高専)④</li> <li>教育実習(高専)④</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>社会科及び地理歴史科の指導に関する専門的知識を学ぶ</li> <li>社会科及び地理歴史科の指導法を理解できる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>社会科教育法Ⅰ④</li> <li>社会科教育法Ⅱ④</li> <li>地理歴史科教育法④</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育実践における基本的な知識と技能を修得する</li> <li>教師として教育実践を遂行する基本的な知識と技能を理解し、修得している。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>社会科教育法Ⅰ④</li> <li>社会科教育法Ⅱ④</li> <li>地理歴史科教育法④</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育実習(中・高)</li> <li>教職実践演習②</li> <li>教育実習(高専)④</li> <li>教育実習(高専)④</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学芸員養成教育において体系的な知識・技術を学ぶ</li> <li>博物館及び生涯学習社会の基礎的知識について、博物館の機能を踏まえながら理解できる。</li> <li>博物館における資料の収集保管の実践的知識について博物館の機能を踏まえながら理解できる。</li> <li>博物館における教育・展示の実践的知識について博物館の機能を踏まえながら理解できる。</li> <li>博物館におけるマネージメントの実践的知識について、博物館の機能を踏まえながら理解できる。</li> <li>学芸員業務を遂行する際の実践的技術について、博物館の機能を踏まえながら理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習概論②</li> <li>博物館概論②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館資料論②</li> <li>博物館資料保存論②</li> <li>博物館教育論②</li> <li>博物館展示論②</li> <li>博物館情報メディア論②</li> <li>博物館経営論②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館展示論②</li> <li>博物館情報メディア論②</li> <li>博物館経営論②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館実習③</li> </ul>

◆ 基本型の履修モデル

学位：学士  
(文学)

★ 主要授業科目を青フォントで表記

124 単位

【歴史学】 令和7年度入学生用 基本型の履修モデル

	1年次		2年次		3年次		4年次		計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
学習力の養成	● 情報リテラシー (必修)	● 情報リテラシー	● 情報リテラシー (必修)	● 情報リテラシー	● 問題解決法	● 問題解決法	● 問題解決法	● 問題解決法	2
思考力の養成	● 情報リテラシー (必修)	● 情報リテラシー (必修)	● 情報リテラシー (必修)	● 情報リテラシー (必修)	● 問題解決法	● 問題解決法	● 問題解決法	● 問題解決法	4
表現力の養成	● 情報リテラシー (必修)	● 情報リテラシー (必修)	● 情報リテラシー (必修)	● 情報リテラシー (必修)	● 問題解決法	● 問題解決法	● 問題解決法	● 問題解決法	6
人間力の養成	● 自己管理と社会規範	● 自己管理と社会規範	● 自己管理と社会規範	● 自己管理と社会規範	● 他者理解と信頼関係	● 他者理解と信頼関係	● 他者理解と信頼関係	● 他者理解と信頼関係	4
社会力の養成	● 自己管理と社会規範	● 自己管理と社会規範	● 自己管理と社会規範	● 自己管理と社会規範	● 社会的・職業的自立	● 社会的・職業的自立	● 社会的・職業的自立	● 社会的・職業的自立	2
人間の理解	健康増進と身体運動	健康増進と身体運動	健康増進と身体運動	健康増進と身体運動	人間心理と人間行動	人間心理と人間行動	人間心理と人間行動	人間心理と人間行動	3
社会の理解	健康増進と身体運動	健康増進と身体運動	健康増進と身体運動	健康増進と身体運動	健康増進と身体運動	健康増進と身体運動	健康増進と身体運動	健康増進と身体運動	3
国際の理解	国際社会と国際問題	国際社会と国際問題	国際社会と国際問題	国際社会と国際問題	世界動向と国際貢献	世界動向と国際問題	世界動向と国際問題	世界動向と国際問題	4
基礎教育科目 (小計)	12	7	4	3	0	1	0	1	28
基礎科目	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	10
基礎科目	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	28
展開科目	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	51
関連科目	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	0
演習科目	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	● 歴史学入門	7
専門教育科目 (小計)	6	11	14	15	17	17	11	5	96
合計 単位	18	18	18	18	17	18	11	6	124

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他科目は選択科目である(ただし免許・資格取得に必修となる科目は、学生便宜の該当箇所を確認すること)。  
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間割の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期についても、基本カリキュラム表通りに実施する予定ですが、年度によっては入れ替わること  
 もありますので、各年度当初に必ず確認してください。

# 表現学科

## ◆三つの方針（各学科独自設定箇所）

### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び表現分野における知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

#### 【2 表現分野における知識・技能・態度】

表現の基礎理論について理解し、文芸表現、編集表現、放送表現に関する専門的知識を修得した上で、独創性、創造性に富む表現技法を身に付け、職業人としてそれらを活用する態度を有している。

(1) 表現の学問分野における基礎理論を理解し、言語に関する知識や創造的な表現技法を身に付けている。

(2) 文芸表現、編集表現、放送表現などに関する専門的な知識と能力を修得し、それらをもって地域社会へ貢献する意欲を身に付けている。

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

表現学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

#### 【1 教育課程の編成・教育内容】

(2) 表現の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の体系的修得に加えて、それらを実践に応用しうる知識・技能・態度の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「基礎科目」では、表現の学問分野における基礎理論を理解し、言語に関する知識や創造的な表現技法を修得する教育内容とする。

②「基幹科目」では、文芸表現、編集表現、放送表現の3分野における知識と能力の基盤を育成する教育内容とする。

③「展開科目」では、文芸表現（文芸表現、創作表現）、編集表現（視覚表現、制作表現）、放送表現（放送表現、映像表現）の3分野における実践的な知識と技能の修得を教育内容とする。

④「関連科目」では、表現分野に関連するメディアの歴史の変遷と社会に与える影響に関する知識の修得を教育内容とする。

⑤「演習科目」では、表現分野における実践的な調査方法や分析手法を身に付け、研究課題や創作テーマを設定したうえで、知識・技能を総合的に組み合わせた演習を行う。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

#### 【2 教育方法】

《大学の方針に準ずる》

#### 【3 教育評価】

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「表現文化専門演習Ⅶ」で確認を行う。

学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

表現学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

### 【1 求める学生像】

- ・高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有し、課題を解くことができる。
- ・表現あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かす意欲を有している。
- ・本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがわれる。
- ・自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に進んで取り組むことができる。

### 【2 入学者選抜の方法】

表現学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

### 【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

表現学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識を有し、さらには意欲を保持することが望まれる。

- ・「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付けている。
- ・表現に係る幅広い分野に興味・関心を持ち、また高い学習への意欲を持っている。

## ◆カリキュラムマップ

### カリキュラムマップ 表現学科科目

＜淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)＞  
 本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。  
 【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】  
 (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。  
 (2) 情報リテラシーや数値的スキルを修得している。  
 (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。  
 (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。  
 (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。  
 【2 専門教育分野における知識・技能・態度】  
 (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。  
 (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

＜表現学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)＞  
 学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び表現分野における知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。  
 【2 表現分野における知識・技能・態度】  
 表現の基礎理論について理解し、文芸表現、編集表現、放送表現に関する専門的知識を修得した上で、独創性、創造性に富む表現技法を身に付け、職業人としてそれらを活用する態度を有している。  
 (1) 表現の学問分野における基礎理論を理解し、言語に関する知識や創造的な表現技法を身に付けている。  
 (2) 文芸表現、編集表現、放送表現などに関する専門的な知識と能力を修得し、それらをもって地域社会へ貢献する意欲を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2		主要修業科目	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	1	2	3	4	5	1	2		
学習力の養成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前※集中	1	講義・演習	●																
	利他共生	1前	1	講義	●																
思考力の養成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●																★
	データリテラシー	1後	1	講義・演習		●															★
	統計分析法	2前	1	講義・演習			○														
	問題解決法	3後	1	講義・演習					●												
	創造思考法	4後	1	講義・演習							●										★
表現力の養成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●									◎							★
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●								◎							★
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●							◎							★
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1	講義・演習				○						◎							
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●									◎							
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●								◎							
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●							◎							
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1	講義・演習				○						◎							
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3前	1	講義・演習					○					◎							
	自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW	●																





科目群の学習目標・到達目標	1年		2年		3年		4年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
<p>■紙媒体やWebメディアにおける編集業務と広告業務の基礎を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・編集の基本となる企画の立て方、デザインの基礎知識を身につけます。</li> <li>・ホームページやソーシャルメディアなどインターネット編集の基礎理論と最新動向を学びます。</li> <li>・広告におけるコミュニケーションデザインの理論、ならびに広告クリエイティブの基礎知識を身につけます。</li> </ul> <p>・書籍、雑誌、Webメディアの出版を、編集の視点、また出版ビジネスの視点から学びます。</p>			<p>編集文化研究Ⅰ(文学と編集)②</p> <p>編集文化研究Ⅱ(視覚的伝達)②</p> <p>編集文化研究Ⅲ(広告の技法)②</p> <p>編集文化研究Ⅳ(出版の技法)②</p>					
<p>■紙媒体やWebメディアの編集業務、広告業務について演習を通して習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各メディアの特性と複合効果について理解を深め、記事や広告の制作に取り組みます。</li> <li>・エディトリアルデザインやWebサイト制作について、演習を通して学びます。</li> <li>・出版物やデジタルコンテンツの企画・制作の流れを理解したうえで、実践的な演習を通して編集力を身につけます。</li> </ul>			<p>編集文化研究Ⅰ(視覚的伝達)②</p> <p>編集文化研究Ⅱ(視覚的伝達)②</p>		<p>編集文化研究Ⅴ(視覚的伝達)②</p> <p>編集文化研究Ⅵ(視覚的伝達)②</p>	<p>編集文化研究Ⅶ(制作業務)②</p> <p>編集文化研究Ⅷ(制作業務)②</p>	<p>編集文化研究Ⅸ(制作業務)②</p> <p>編集文化研究Ⅹ(制作業務)②</p>	
<p>■声による表現、また放送番組づくりの基礎を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく正しい日本語の発音技術を身につけ、ニュース朗読を聴んだり、自分の言葉で実況レポートしたりする基礎を学びます。</li> <li>・番組がどのように制作されるかを学び、映像表現の基本を身につけます。</li> </ul>			<p>放送文化研究Ⅰ(発音と朗読)②</p> <p>放送文化研究Ⅱ(音声制作)②</p> <p>放送文化研究Ⅲ(編集と制作)②</p> <p>放送文化研究Ⅳ(録音の技法)②</p>					
<p>■番組制作、SNS表現、音声表現を演習を通して習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報素材をまとめてポイントを見極め、映像表現や音声表現によって伝える理論と技術を学びます。</li> <li>・番組制作の企画から制作まで、演習を通して知識と技術を学びます。</li> </ul>			<p>放送文化研究Ⅰ(放送表現)②</p> <p>放送文化研究Ⅱ(放送表現)②</p>		<p>放送文化研究Ⅴ(放送表現)②</p> <p>放送文化研究Ⅵ(放送表現)②</p>	<p>放送文化研究Ⅶ(制作業務)②</p> <p>放送文化研究Ⅷ(制作業務)②</p>	<p>放送文化研究Ⅸ(映像表現)②</p>	
<p>■メディアの歴史的変遷と社会に与える影響を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、Webメディア、SNSなど、各メディアの歴史的変遷と文化的意義、また社会に及ぼす影響力と社会的責任を講義形式で学びます。</li> </ul>			<p>編集文化論②</p> <p>映像文化論②</p>	<p>出版文化論②</p> <p>放送文化論②</p> <p>雑誌文化論②</p>	<p>新聞文化論②</p>	<p>広告文化論②</p> <p>放送文化論②</p> <p>メディア産業論②</p>		
<p>■専門分野における実践的な調査方法や分析手法を身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野の研究における文献調査、資料分析、現地調査などの方法について実践的に学び、研究活動能力の向上を目指します。</li> </ul>		<p>放送文化専門演習Ⅰ①</p>	<p>放送文化演習Ⅰ①</p> <p>放送文化専門演習Ⅰ①</p>					
<p>■研究課題を設定し、創造的かつ質の高い研究成果として発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野の分野において、グループや個人で研究課題や制作テーマを設定し、今までに学んだ知識・技能を組み合わせた演習を行います。</li> <li>・専門課程で学んだことの集大成となる研究課題を各自が設定し、卒業研究(論文もしくは制作)に取り組みます。</li> </ul>					<p>放送文化専門演習Ⅱ①</p> <p>放送文化専門演習Ⅲ①</p>	<p>放送文化専門演習Ⅳ①</p> <p>放送文化専門演習Ⅴ①</p>	<p>放送文化専門演習Ⅵ①</p> <p>放送文化専門演習Ⅶ①</p>	

# ◆基本型の履修モデル

学位：学士  
(文学)

124 単位  
★主要授業科目を青フォントで表記

【表理学科】令和7年度入学生用 基本型の履修モデル

	1年次		2年次		3年次		4年次		計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
学習力の養成	●国語コミュニケーション能力の向上(必修)	●批判共生	●●●ディベート・ディベート(必修)						2
思考力の養成	★●●●情報リテラシー	★●●ディベート・ディベート(必修)	●●●ディベート・ディベート(必修)				●問題解決法		4
表現力の養成	●表現技法Ⅰ(演劇・分析)	●●●表現技法Ⅱ(作文・論文)	●●●表現技法Ⅲ(演劇・対論)						6
人間力の養成	●●●自己管理と社会規範	●●●自己管理と社会規範	●●●自己管理と社会規範						4
社会力の養成	●●●自己管理と社会規範	●●●自己管理と社会規範	●●●自己管理と社会規範						2
人間の理解			●●●自己管理と社会規範				現代家族と育児介護		3
社会の理解									3
国際の理解									3
基礎教育科目(小計)	6	5	5	5	1	3	1	1	27
基礎科目	★●表現文化入門	●●●言語表現論	●●●言語学概論	●●●社会言語学					30
	●●●創作表現論	●●●文筆表現論	●●●文筆表現論						
	●●●創作表現技法Ⅰ(文章)	●●●創作表現技法Ⅱ(文章)	●●●創作表現技法Ⅲ(文章)						
	●●●創作表現技法Ⅰ(漢語)	●●●創作表現技法Ⅱ(漢語)	●●●創作表現技法Ⅲ(漢語)						
専門教育科目			●●●表現文化研究Ⅰ(創作の表現)	●●●表現文化研究Ⅱ(文筆の表現)	●●●表現文化研究Ⅲ(文筆の表現)	●●●表現文化研究Ⅳ(創作の表現)	●●●表現文化研究Ⅴ(創作の表現)	●●●表現文化研究Ⅵ(創作の表現)	10
			●●●表現文化研究Ⅰ(創作の表現)	●●●表現文化研究Ⅱ(文筆の表現)	●●●表現文化研究Ⅲ(文筆の表現)	●●●表現文化研究Ⅳ(創作の表現)	●●●表現文化研究Ⅴ(創作の表現)	●●●表現文化研究Ⅵ(創作の表現)	
			●●●表現文化研究Ⅰ(創作の表現)	●●●表現文化研究Ⅱ(文筆の表現)	●●●表現文化研究Ⅲ(文筆の表現)	●●●表現文化研究Ⅳ(創作の表現)	●●●表現文化研究Ⅴ(創作の表現)	●●●表現文化研究Ⅵ(創作の表現)	32
展開科目									
関連科目			●●●表現文化論	●●●出版文化論	●●●出版文化論	●●●出版文化論	●●●出版文化論	●●●出版文化論	2
			●●●表現文化論	●●●出版文化論	●●●出版文化論	●●●出版文化論	●●●出版文化論	●●●出版文化論	2
			●●●表現文化論	●●●出版文化論	●●●出版文化論	●●●出版文化論	●●●出版文化論	●●●出版文化論	2
演習科目			●●●表現文化専門演習Ⅰ	●●●表現文化専門演習Ⅱ	●●●表現文化専門演習Ⅲ	●●●表現文化専門演習Ⅳ	●●●表現文化専門演習Ⅴ	●●●表現文化専門演習Ⅵ	7
			●●●表現文化専門演習Ⅰ	●●●表現文化専門演習Ⅱ	●●●表現文化専門演習Ⅲ	●●●表現文化専門演習Ⅳ	●●●表現文化専門演習Ⅴ	●●●表現文化専門演習Ⅵ	1
専門教育科目(小計)	12	13	13	13	17	15	7	7	97
合計	18	18	18	18	18	18	8	8	124

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他科目は選択科目である(ただし免許・資格取得に必修となる科目は、学生便覧の該当箇所を確認すること)。  
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間割の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期についても、基本カリキュラム表通りに実施する予定ですが、年度によっては入れ替わること  
 もありますので、各年度当初に必ず確認してください。

# 人間科学科

## ◆三つの方針（各学科独自設定箇所）

### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び人間科学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

#### 【2 人間科学分野における知識・技能・態度】

人間科学における心理・社会福祉・健康・教育などの学問領域から人間について多角的・体系的に理解し、さまざまな場で活用し人と社会を支えることができる理論的かつ実践的な知識、技能、態度を身に付けている。

- (1) 人間科学の学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、人間尊重の態度を重視しながら現実社会の多様な場で積極的に活用する技能を修得している。
- (2) 人間が心身ともに健康的な生活を営むための実践的な支援を実現するために、心理学、社会福祉学、健康科学及び教育学に関する幅広い知識をもって、地域社会へ貢献する意欲を身に付けている。
- (3) 自己理解、他者理解、人間関係形成についての基本的な知識と技能を理解し、他者と協力・協調・協働しあう能力を身に付けている。

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

人間科学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

#### 【1 教育課程の編成・教育内容】

- (2) 人間科学の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技能を実践に応用しうる知識・技能・資質の修得のため、「専門教育科目」を置く。
  - ①「基礎科目」及び「基幹科目」では、人間科学領域における心理学、社会福祉学、健康科学、教育学において基盤となる各学問の基礎知識を理解し、各学問の意義及び人間の捉え方を修得する教育内容とする。
  - ②「展開科目」では、人間を捉える上で重要な視点である仏教・哲学系、臨床心理・発達心理・社会心理といった心理学系、高齢者や障がい者を取り巻く環境や他者を支援するための援助論といった社会福祉系、子どもを取り巻く学校や家庭環境、人間の発達といった教育学系、運動・食事と健康の関連性や身体のメカニズムといった健康科学系を置き、専門性の高い知識と技能についての教育内容とする。
  - ③「演習科目」及び「実践科目」では、課題を発見し解決する能力を高めるためのグループ討議や、幅広いフィールドでの観察・体験により、理論の実践への適用や持続可能な幸福を探求するための教育内容とする。
- (3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

#### 【2 教育方法】

《大学の方針に準ずる》

#### 【3 教育評価】

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「人間科学専門演習Ⅶ」で確認を行う。

学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

(6) 専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

人間科学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識、能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

### 【1 求める学生像】

- ・高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有し、課題を解くことができる。
- ・人間科学（心理、社会福祉、教育、健康）の分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かす意欲を有している。
- ・本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがわれる。
- ・免許・資格の取得に向け、高い意欲と絶えざる努力ができる態度を有している。
- ・自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に取り組むことができる。

### 【2 入学者選抜の方法】

人間科学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

### 【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

人間科学科における学修への円滑な移行が可能になるよう、次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- ・「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付けている。
- ・人間科学という幅広い分野（心理・社会福祉・教育・健康）に興味・関心を持ち、また学修継続への強い意欲を持っている。

## ◆カリキュラムマップ

### カリキュラムマップ 人間科学科目

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

本学は、大衆仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<人間科学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び人間科学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【2 人間科学分野における知識・技能・態度】

人間科学における心理・社会福祉・健康・教育などの学問領域から人間について多角的・体系的に理解し、さまざまな場で活用し人と社会を支えることができる理論的かつ実践的な知識、技能、態度を身に付けている。

- (1) 人間科学の学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、人間尊重の態度を重視しながら現実社会の多様な場で積極的に活用する技能を修得している。
- (2) 人間が心身ともに健康的な生活を営むための実践的な支援を実現するために、心理学、社会福祉学、健康科学及び教育学に関する幅広い知識をもって、地域社会へ貢献する意欲を身に付けている。
- (3) 自己理解、他者理解、人間関係形成についての基本的な知識と技能を理解し、他者と協力・協調・協働しあう能力を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2			主要授業科目						
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	1	2	3	4	5	1	2	3							
学習力の 養成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前※集中	1	講義・演習	●																						
	利他共生	1前	1	講義	●																						
思考力の 養成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●																					★	
	データリテラシー	1後	1	講義・演習		●																				★	
	統計分析法	1後	1	講義・演習		○																					
	問題解決法	3後	1	講義・演習					●																		
	創造思考法	4後	1	講義・演習								●															★
表現力の 養成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●																					★	
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●																					★
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●																				★
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1	講義・演習				○																			
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●																						
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●																					
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●																				
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1	講義・演習				○																			
表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3前	1	講義・演習					○																			
人間力の 養成	自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW	●																						
	チームワークとリーダーシップ	1後	1	講義・演習		●																					

教 育 科 目	養成	地域活動と社会貢献	2前	1	講義・FW															◎				★	
		他者理解と信頼関係	2後	1	講義・演習																◎				
	社会力の養成	社会的・職業的自立Ⅰ	2前	1	講義・FW																◎				★
		社会的・職業的自立Ⅱ	2後	1	講義・演習																◎				★
	人間の理解	人間心理と人間行動	1前～	1	講義・演習	○		○		○		○									◎				
		現代家族と育児介護	2前～	1	講義																◎				
		健康管理と身体活動	1前～	1	講義・実技	○		○		○		○									◎				
		スポーツと運動科学	1後～	1	講義・演習		○		○		○		○								◎				
		日本社会と歴史文化	1後～	1	講義・FW		○		○		○		○								◎				
	社会の理解	生命科学と物理化学	2後～	1	講義・実験			○		○		○									◎				
		情報社会とデータサイエンス	1前～	1	講義	○		○		○		○									◎				
		法律社会と法律問題	1前～	1	講義	○		○		○		○									◎				
		福祉政策と福祉制度	1後～	1	講義		○		○		○		○								◎				
		日本国家と政治行政	2前～	1	講義																◎				
	国際の理解	経済構造と経済政策	1後～	1	講義		○		○		○		○								◎				
		現代医療と生命倫理	2後～	1	講義			○		○		○									◎				
		国際社会と国際問題	1前～	1	講義	○		○		○		○									◎				
		世界宗教と民族問題	1後～	1	講義			○		○		○									◎				
		世界動向と国際貢献	1前～	1	講義	○		○		○		○									◎				
	基幹科目	国際平和と安全保障	1後～	1	講義	○		○		○		○									◎				
		国際関係と日本外交	2後～	1	講義			○		○		○									◎				
地球環境と環境対策		2前～	1	講義			○		○		○									◎					
人間科学概論		1前	2	講義	●															◎	◎			★	
人間行動論		1後	2	講義		●														◎	◎			★	
専門 教 育 科 目	心理学概論Ⅰ	1前	2	講義	●															◎	◎			★	
	心理学概論Ⅱ	1後	2	講義		○														◎	◎				
	社会福祉概論Ⅰ	1前	2	講義	●															◎				★	
	社会福祉概論Ⅱ	1後	2	講義		○														◎					
	健康科学論Ⅰ	1前	2	講義	●															◎				★	
	健康科学論Ⅱ	1後	2	講義		○														◎					
	教育学概論Ⅰ	1前	2	講義	●															◎				★	
	教育学概論Ⅱ	1後	2	講義		○														◎					
	人間と哲学	1前	2	講義	○															◎					
	人間と倫理	1後	2	講義		○														◎					
	人間と思想	2前	2	講義			○													◎					
	人間と仏教	2後	2	講義				○												◎					
	公認心理師の職業	3前	2	講義					○											◎					
	臨床心理学概論	2後	2	講義			○													◎				★	
	心理学研究法	2前	2	講義			○													◎					
	心理学統計法	2前	2	講義			○					◎								◎					
	心理学実験	2前	2	講義			○													◎					
	心理学基礎実験	2後	2	実習				○												◎					
	心理的アセスメント実習	3前	2	実習					○											◎	◎				
知覚・認知心理学	1後	2	講義		○														◎						
展開科目	学習・言語心理学	2前	2	講義			○													◎					
	感情・人格心理学	2後	2	講義				○												◎					
	神経・生理心理学	3前	2	講義					○											◎					
	社会・集団・家族心理学	2前	2	講義			○													◎					
	発達心理学	1後	2	講義		○														◎				★	
	障害者・障害児心理学	2後	2	講義				○												◎					
	心理的アセスメント	2後	2	講義				○												◎				★	
	心理学的支援法	2後	2	講義			○													◎				★	
	健康・医療心理学	1後	2	講義			○													◎					
	福祉心理学	3後	2	講義							○									◎	◎			★	
	教育・学校心理学	2前	2	講義			○													◎				★	
	司法・犯罪心理学	3前	2	講義					○											◎				★	
	産業・組織心理学	3後	2	講義							○									◎					
	人体の構造と機能及び疾病	2後	2	講義				○												◎					
	精神疾患とその治療	3後	2	講義								○								◎					
	関係行政論	2前	2	講義					○											◎					
	心理演習(基礎)	3前	1	演習						○										◎					
	心理演習(応用)	3後	1	演習							○									◎					
	心理実習	4通	2	実習								○		○						◎					
	スポーツ心理学	2後	2	講義				○												◎					
	恋愛心理学	3前	2	講義					○											◎					
	ストレスマネジメント	3後	2	講義						○										◎					
	心理描写研究	3後	2	講義							○									◎					
	相談援助論	2前	2	講義				○												◎				★	
	相談援助方法論	2後	2	講義					○											◎	◎			★	
	家族社会論	2後	2	講義					○											◎					
	地域福祉の理論と方法	2前	2	講義					○											◎					
	ジェンダー論	1後	2	講義			○													◎					
	児童に対する支援	3前	2	講義						○										◎					
	家庭に対する支援	3後	2	講義							○									◎					
	高齢者に対する支援	3後	2	講義								○								◎					
障害者に対する支援	3前	2	講義								○								◎						
栄養学	1後	2	講義			○													◎						
健康と栄養	2前	2	講義				○												◎						
スポーツ生理学	2前	2	講義				○												◎						
健康と運動	2後	2	講義					○											◎				★		
子どもの身体運動と健康	3前	2	講義						○										◎						
高齢者の身体運動と健康	3後	2	講義							○									◎						
スポーツビジネス	3前	2	講義						○										◎						
教育哲学	2前	2	講義							○															

	子どもの権利保護	3前	2	講義				○											
	教育相談	3後	2	講義				○											
演習科目	人間科学専門演習Ⅰ	1後	1	演習	●														
	人間科学専門演習Ⅱ	2前	1	演習		●													
	人間科学専門演習Ⅲ	2後	1	演習			●												
	人間科学専門演習Ⅳ	3前	1	演習				●											
	人間科学専門演習Ⅴ	3後	1	演習					●										
	人間科学専門演習Ⅵ	4前	1	演習						●									
	人間科学専門演習Ⅶ	4後	1	演習							●								
実践科目	フィールドワークⅠ(事前事後学習を含む)	2通	3	実習				○	○										
	フィールドワークⅡ(事前事後学習を含む)	3通	3	実習				○	○										

### ◆履修体系図（専門科目）

淑徳大学 人文学部人間科学科 専門教育科目体系図

は主要授業科目

科目群の学習・到達目標	専門教育科目							
	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
<b>基礎科目</b> ■ 人間科学の基礎理論及び学習方法について理解する。 ・人間科学の定義および基礎理論を身につけることで、その後の発展科目を理解するための人間科学的視点を獲得する。	人間科学概論 ②	人間行動論 ②						
<b>基幹科目</b> ■ 人間科学を理解するうえで必要な4分野の基礎理論を身につける。 ・心理学の主要分野の研究成果を広く深く学ぶことで心理学を概観し、心理学の基礎知識を理解する。 ・社会福祉の原理を巡る思想・哲学とその理論を理解し、欧米の歴史的展開過程と日本の福祉の比較による、我が国の社会福祉の特性を理解する。 ・職業に關連した言語や事象について学び、自分の力で考え、判断するために必要な知識を身に付け、習得を理解する。 ・教育についての基礎的考察を通して、人間と教育との関わりを認識し、教育学の基礎知識を理解する。	心理学概論Ⅰ ② 社会福祉概論Ⅰ ② 健康科学論Ⅰ ② 教育学概論Ⅰ ②	心理学概論Ⅱ ② 社会福祉概論Ⅱ ② 健康科学論Ⅱ ② 教育学概論Ⅱ ②						
■ 人間科学における哲学、倫理学、思想学及び仏教の持つ意義や役割について理解する。	人間と哲学 (哲学と人間) ②	人間と倫理 (倫理と人間) ②	人間と思想 (思想と人間) ②	人間と仏教 (思想と人間) ②				
■ 公認心理師の役割を理解する。 ・公認心理師の役割、法的職務、倫理及び分野ごとの公認心理師の具体的な業務を理解する。			関係行政論 ②	公認心理師の職務 ②				
■ 心理学研究方法とその分析の視点を理解する。 ・心理学における実証的研究方法、データ分析を用いた実証的な思考方法、研究倫理を理解する。 ・心理学で用いられる統計手法及び統計に関する基礎的な知識を修得する。 ・実験の計画を立案し心理実験を行い、実験結果を分析しレポートを作成する。 ・性格検査、職業検査、知能検査、神経心理学的検査の代表的な検査法を、実験例も交えて理解する。 ・心理学的支援法には、どの療法にも共通する姿勢とともに、様々なアプローチや考え方があつたことを理解する。			心理学統計法 ② 心理学研究法 ② 心理学実験 ②	心理学基礎実験 ② 心理的アセスメント ②	心理的アセスメント実習 ②			

<p>■ 基礎心理学の知識を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人の感覚、知覚、認知及び思考の順序に関する知識を修得する。</li> <li>人格に関する様々な理論や人格をとらえるための方法について学び、自己や他者について理解する。</li> <li>理論や応用のしくみ、こころの習得における学習の順序に関する知識を修得する。</li> <li>心身の発達過程に関する知識を修得する。</li> <li>人間の脳の構造や機能について、基礎的な知識に関する知識を修得する。</li> <li>人間の社会の中での行動やこころの動きに関する知識を修得する。</li> </ul>		<p>知覚・認知心理学 ②</p> <p>発達心理学 ②</p>	<p>学習・言語心理学 ②</p> <p>社会・集団・家族心理学 ②</p>	<p>感情・人格心理学 ②</p>	<p>神経・生理心理学 ②</p>		
<p>■ 応用心理学の知識を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般的に心の健康に関する幅広い知識と対処法を修得する。</li> <li>健康心理学の知見とその活用についての知識を修得する。</li> <li>障害者・障害児が抱える心理的・社会的困難の実態についての知識を修得する。</li> <li>学校教育が抱えている諸問題を学校心理学や教育心理学的な観点から理解する。</li> <li>犯罪、実行、被害者支援などに対し、どのように理解していくか理論を学び、そこに関わる心理師の役割などを理解する。</li> <li>福祉対象者を理解し心理支援するために必要な知識を学習し、福祉対象者への心理支援について理解する。</li> <li>産業・組織心理学の主要概念について理解する。</li> </ul>	<p>健康・医療心理学 ②</p>	<p>教育・学校心理学 ②</p>	<p>臨床心理学概論 ②</p> <p>障害者・障害児心理学 ②</p> <p>スポーツ心理学 ②</p>	<p>司法・犯罪心理学 ②</p> <p>恋愛心理学 ②</p>	<p>福祉心理学 ②</p> <p>産業・組織心理学 ②</p> <p>ストレスマネジメント ②</p> <p>心理描写研究 ②</p>		
<p>■ 人間の疾病と健康の関係を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害、がん、難病等の心理に関する支援が必要な疾病を理解する。</li> <li>精神疾患概論(代表的な精神疾患)についての原因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。)・肉體障害をはじめとする素因による心身の異化及び医療機関との連携を理解する。</li> </ul>			<p>人体の構造と機能及び疾病 ②</p>		<p>精神疾患とその治療 ②</p>		
<p>■ 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)コミュニケーション(2)心理検査(3)心理面接、(4)地域支援の知識技能を修得する。</li> <li>心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成する。</li> <li>心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチを理解する。</li> <li>多職種連携及び地域連携について理解する。</li> <li>公認心理師としての職業倫理及び法的職務への理解する</li> </ul>				<p>心理演習(基礎) ①</p>	<p>心理演習(応用) ①</p>	<p>心理実習 ②</p>	
<p>■ カウンセリングの手法を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心理支援のための基本的な理論と技法を修得する。</li> </ul>			<p>心理学的支援法 ②</p>				
<p>■ 福祉分野に関する知識を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相談援助や支援に関わる知識や技術を理解する。</li> <li>地域福祉の基本的な考え方を理解する。</li> </ul> <p>・現代社会における児童、家庭、障害者及び高齢者の支援に対する現状と課題、支援方法について理解する。</p> <p>・性差別を解消するための知識や意欲を養う。</p>	<p>ジェンダー論 ②</p>	<p>相談援助論 ②</p> <p>地域福祉の理論と方法 ②</p>	<p>相談援助方法論 ②</p> <p>家族社会学 ②</p>	<p>児童に対する支援 ②</p> <p>障害者に対する支援 ②</p>	<p>家庭に対する支援 ②</p> <p>高齢者に対する支援 ②</p>		
<p>■ 健康分野に関する知識を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な栄養学の知識を修得する。</li> <li>健康と栄養に関する基礎知識を修得する。</li> <li>スポーツに関わる専攻の生理的な仕組みについて理解する。</li> <li>心身ともに健康で豊かな生活を送るための運動について理解する。</li> <li>子どもや高齢者が必要な身体運動及び健康に関する基本的な捉え方を理解する。</li> </ul>	<p>栄養学 ②</p>	<p>健康と栄養 ②</p> <p>スポーツ生理学 ②</p>	<p>健康と運動 ②</p>	<p>子どもの身体運動と健康 ②</p> <p>スポーツビジネス ②</p>	<p>高齢者の身体運動と健康 ②</p>		
<p>■ 教育分野に関する知識を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育の本質・理念を理解する。</li> <li>学校、家庭、地域社会、職場などで営まれている学校以外の教育も含む幅広い教育概念を理解する。</li> <li>学校制度の成立と発展、近代的学校・学年制の成立と展開、学校の社会的基盤、教育内容・方法の現在の現在に至る発達などの知識を修得する。</li> <li>教育現場で生じる問題について理解を深めるとともに、一般的な支援方法について修得する。</li> <li>児童、生徒への適切な指導・支援方法について修得する。</li> <li>子どもの育つ力と発達について、子どもと子どもを取りまく環境の子どもへの影響について理解する。</li> <li>子どもたちをめぐる諸問題を、「子どもの人権」として捉え、子どもの人権について理解する。</li> </ul>		<p>教育哲学 ②</p>	<p>教育社会学 ②</p> <p>日本の教育事情 ②</p> <p>教育心理学 ②</p>	<p>子どもの権利論 ②</p>	<p>教育相談 ②</p> <p>こどもの生活環境 ②</p>		
<p>■ 課題を発見し、解決する能力を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学芸が主体的に研究テーマを決めた上で、討論などを通して専門的な知識を深める。</li> </ul>	<p>人間科学専門演習Ⅰ ①</p>	<p>人間科学専門演習Ⅱ ①</p>	<p>人間科学専門演習Ⅲ ①</p>	<p>人間科学専門演習Ⅳ ①</p>	<p>人間科学専門演習Ⅴ ①</p>	<p>人間科学専門演習Ⅵ ①</p>	<p>人間科学専門演習Ⅶ ①</p>
<p>■ 体験学習についての手法を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習テーマとなる課題設定から終了報告までを、個人又はグループで活動する。</li> </ul>		<p>フィールドワークⅠ(事前事後学習を含む) ③</p>		<p>フィールドワークⅡ(事前事後学習を含む) ③</p>			

◆ 基本型の履修モデル

124 単位

【人間科学科】令和7年度入学生用 基本型の履修モデル

★主要授業科目を青フオンントで表記

学位：学士  
(人間科学)

	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
学習力の養成	●利己共生 1								2
思考力の養成	★情報リテラシー 1	★データリテラシー 1					●問題解決法 1	★創造思考法 1	4
表現力の養成	●コミュニケーション基礎Ⅰ(基礎) 1	●コミュニケーション基礎Ⅱ(応用) 1	●表現技法Ⅰ(基礎・分析) 1	●表現技法Ⅱ(応答・評価) 1					6
人間力の養成	●自己管理と社会規範 1	●社会規範と社会規範 1	●社会規範と社会規範 1	●社会規範と社会規範 1	●他者理解と信頼関係 1				4
社会力の養成	●自己管理と社会規範 1	●社会規範と社会規範 1	●社会規範と社会規範 1	●社会規範と社会規範 1	●社会規範と社会規範 1	●社会規範と社会規範 1			2
基礎教育科目	人間心理と人間行動 1	健康管理と身体活動 1					現代家族と育児介護 1		3
社会の理解								福祉政策と福祉制度 1	3
国際の理解							地球環境と環境対策 1	現代医療と生命倫理 1	3
基礎教育科目(小計)	7	4	5	2	1	1	3	4	27
基礎科目	★人間科学概論 2	★人間行動論 2							4
基礎科目	●心理学概論Ⅰ 2								8
基礎科目	●教育心理学Ⅰ 2								8
基礎科目	●社会福祉概論Ⅰ 2								8
基礎科目	●健康科学論Ⅰ 2								8
展開	人間と倫理 2	人間と哲学 2	人間と心理学 2	臨床心理学概論 2	人間と思想 2	人間と仏教 2	人間と心理学 2	人間と心理学 2	2
展開	知覚・認知心理学 2	心理学研究法 2	学習・言語心理学 2	感情・人格心理学 2	心理的アセスメント 2	産業・組織心理学 2	産業・組織心理学 2	産業・組織心理学 2	2
展開	発達心理学 2	社会・集団・家族心理学 2	社会・集団・家族心理学 2	障害者・障害児心理学 2	★司法・犯罪心理学 2	★司法・犯罪心理学 2	★司法・犯罪心理学 2	★司法・犯罪心理学 2	2
展開	健康・医療心理学 2	★教育・学校心理学 2	★教育・学校心理学 2	★心理学的アセスメント 2	★相談援助論 2	★相談援助論 2	★相談援助論 2	★相談援助論 2	2
展開	ジェンダー論 2								2
演習	★人間科学専門演習Ⅰ 1	★人間科学専門演習Ⅱ 1	★人間科学専門演習Ⅲ 1	★人間科学専門演習Ⅳ 1	★人間科学専門演習Ⅴ 1	★人間科学専門演習Ⅵ 1	★人間科学専門演習Ⅶ 1	★人間科学専門演習Ⅷ 1	7
実践									0
専門基礎科目(小計)	10	13	13	15	17	17	7	5	97
合計単位	17	17	18	17	18	18	10	9	124

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他科目は選択科目である(ただし免許・資格取得に必修となる科目は、学生便覧の該当箇所を確認すること)。  
※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間割の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期についても、基本カリキュラム表通りに実施する予定ですが、年度によっては入れ替わること  
もありませんので、各年度当初に必ず確認してください。

## 13. 淑徳大学の正課外プログラム

淑徳大学では、学部学科、センター等の組織で、数多くの正課外プログラムを設定しています。ここでは、全学的なプログラムである「ともいき体験」について紹介します。

### 淑徳大学地域共生センター ともいき体験プログラム

本学の建学の精神「利他共生」を具体的に展開する場として、長い歴史を持つ本学のボランティア活動や地域活動を担うセンター等が全学的に統合され、2023年淑徳大学地域共生センターが設立されました。このセンターでは、本学の建学の精神「利他共生」の原点を学ぶ「ともいき基礎知識講座（T-BASIC）」といった動画ライブラリの構築や、ともいき体験プログラム（スタディツアー、パネルシアターキャラバン）といった正課外活動を展開しています。

ともいき基礎知識講座（T-BASIC）と全学共通基礎科目（S-BASIC）の「地域活動と社会貢献」の授業を受講し、体験活動時間数によって段階分けされた「ともいき体験」（正課外プログラム）の学習・体験を終えた学生は、「淑徳大学ともいきリーダー」として、認定証が授与されます。今後、さらに「淑徳大学ともいきリーダー」認定プログラムの充実にむけて、正課授業と正課外活動を融合しながら、効果的なプログラムの構築を進めていきます。

◆「淑徳大学ともいきリーダー」概要図

**S-BASIC「地域活動と社会貢献」の単位修得**

社会貢献の意義と役割、地域活動の現状と課題について理解し、ボランティアなどの地域活動に参加することで、社会の一員として、社会の発展のために自ら積極的に関わることができる姿勢を養う。



**T-BASIC『ともいき基礎知識講座』の受講**

「福祉のこころ」「淑徳文化」「災害から命を守る」「地域とともに」の4編の動画を視聴。  
建学の精神「利他共生」の原点について、福祉・淑徳・共生をキーワードに「ともいき」を生涯にわたり実践してきた先駆者から想いや信念を学ぶ。



**ともいき体験活動(正課外の体験活動)の実践**

建学の精神「利他共生」や本学の伝統に触れながらボランティア・地域活動をはじめとした様々な体験活動に参加。学生自ら目的意識を持ち、地域共生活動を通して、自分で感じ、考えることを実践。

**【ともいき体験活動として認定する活動】**

- 地域共生センター主催の復興支援プログラム(スタディツアー、パネルシアターキャラバン、被災地での復興支援活動、学生提案型プログラム等)
- 地域共生センターが主催または紹介するボランティア活動(こども食堂、マラソン大会や地域イベントの運営スタッフ等)
- 各学部学科やキャンパスにおける正課外の体験活動
- 部活動・サークルでのボランティア活動
- 地域社会でのボランティア活動 など



**淑徳大学ともいきリーダー**